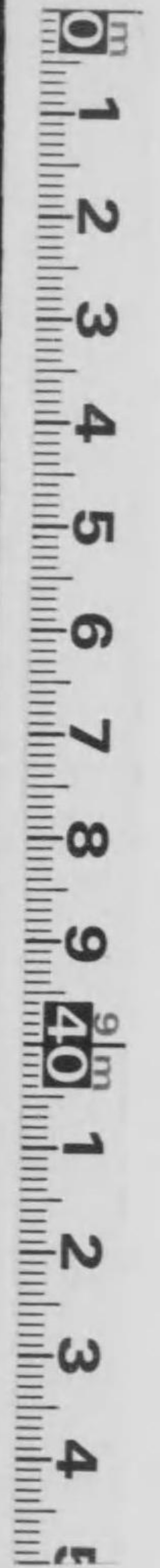


Z76
1604



始



276-1601

東京高等師範學校教授兼
東京女子高等師範學校教授

永井道明講述

大正

2. 7. 3

内交

體育講演集

東京 健康堂

はしがき

目今邦文の書にして體育の研究に資すべきもの眞に寥々たり然るに體育の必要を感じ體育に親しまんとするもの日々に其多きを加ふ。

近時我國に於て體育に造詣深く體育の好指導者として永井道明先生を推さざる人なしされば學校體育は永井先生によりて其歸する處を知らんとし個人體育も永井先生の指導を仰がんとし社會體育も亦永井先生の企畫せらるゝ處に據らんとすこれ予が永井先生の斯道に關する論議と其實際に關する指導にして御歸朝以來各地に於て講演又は講習せられたる事項を蒐輯して遍く世に紹介せんとする所以なり。

大正二年二月

編者識

體育講演集目次

一、最近歐米各國に於ける學校體操の趨勢及我國學校體操科の改善……………	頁
二、歐米留學の回顧並に體育界の狀況……………	一一
三、歐米に於ける體操及遊戲之一斑……………	三一
四、體操教育の過去及現在……………	四〇
五、我國學校體操の將來如何……………	五六
六、體操科改良案……………	六四
七、體操科の改善に就て……………	九四
八、中學校に於ける體操、遊戲、擊劍及柔道……………	一〇六
九、學校體育に就て……………	一二三
一〇、體育講話……………	一八一

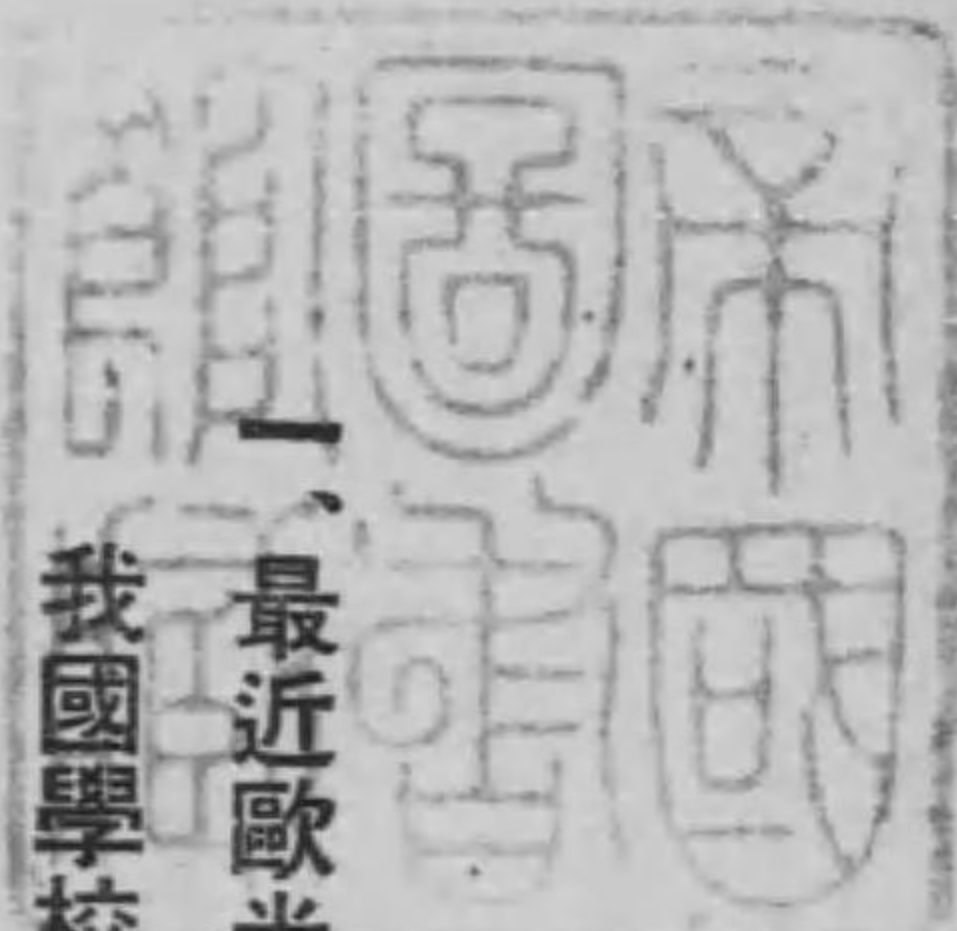
目次

一一、	小學校體操に適用すべき簡易なる運動	二二二
一二、	桂侯の教育談を讀みて	二六八
一三、	我國體育の維新	二七三
一四、	運動競技會一洗の希望	二七七
一五、	教育的運動會の趣旨及計畫	二九四
一六、	醒覺すべき我國民の體育問題	三〇二
一七、	體育上より觀たる美人	三一二
一八、	體育に就て	三一八
一九、	學校體操と社會體操	三二四
二〇、	社會體育	三三二
二一、	冬の遊戯	三三七
二二、	新定體操教授要目の精神と其活用法	三四二
附錄	體育講話附圖	別冊

目次終

體育講演集

永井道明講述



最近歐米各國に於ける學校體操の趨勢及我國學校體操科の改善

最も盛大なる日本體育會に於て、體育上の説話を爲すべく、豫てから、希望して居りましたところが、今回、小野手島の兩氏から、諸君に向つて、最近に於ける、歐米體育界の現況に就きて、是非話して呉れよとの、御依頼を受けましたので、身の不肖をも顧みず、這の演壇に立つことになりました。扱て、今日お話致さうと思ひます要點は、瑞典式體操と獨逸式體操とが、如何に、歐米の體育界に影響を與へ居るかにつき、極めて大體上の管見を述ぶる考で御座います。

諸君、體操上に於ける歐米最新の傾向を、一言にして述べますと、瑞典式體操の主義、原則、根本の精神は、歐米各國に、益々普及しつゝあつて、軍隊、學校、社會の體操も、或る小數を除くの外、皆

最近歐米各國に於ける學校體操の趨勢及我國學校體操科の改善

な瑞典式を採用して居ると申しましたが、過言では御座いません。

溯つて、瑞典式體操の向上發展したる模様を、その本國に於て調査して見ますと、初めは軍人間に行はれ、次に諸種の學校を経て婦人に及び、遂に瑞典全國に普及した結果、近國のノールエー、フィンランド、デンマーク等の諸國は勿論、オランダ、ベルギー、希臘等まで、近年に於ては全く、瑞典式を用ふることになりました、佛國の如きも女子は大部分、瑞典式を採つて居ります。

英國は、元來遊戯を以て、世界第一等の國でありますが、輒近に至りまして、マダム、オステリベリが、瑞典から英國に参りまして、體操の必要を説いてから——勿論この外にも他の影響があつたでありませうが——體操の身體を強壯にする上に於て、非常に重要なものであるといふことを自覺し、遂に、瑞典式體操を行ふことになりました。従つて、獨逸式體操の方は、漸次衰退の傾がある様に見受けられます。

私は英國に三度参りましたが、四十年頃には、獨逸式が盛に行はれてゐました、その後四十一年に行きました時には、其の大部分は、瑞典式體操を採用して居る様で御座いました、初めは、海軍に行はれ、次に陸軍の方でも、其の必要を感じまして、丁抹人を聘して盛に行ふことになりました。

又小學校、中等學校以上の諸學校に於ても、瑞典式を行ふことに決定されてゐましたが、初めのこととして、實際に於ては甚だ不完全で御座りました、併し、これは視察當時の話ですから、今日は勿論以

前に比して、遙に進歩してゐること、思ひます前にも述べました通り、英國は運動遊戯の最も旺盛な國で、彼のウエリントン公が、蓋世の英傑ナポレオンの大軍を破りまして後ち人に語つて、『自分が、ナポレオンの強軍に勝つことの出來たのは、全く幼年時代にイートン、カレッジで運動した賜だ。』といはれた言でも、古來から遊戯國であつたといふことは明に證明されます。

かゝる歴史を有するイートンが、その當時瑞典式體操を課する爲に、準備として態々二人の、教師を瑞典に傳習に遣りました、そして、體操場の如きも、外觀は異つてゐますが、内部の様子は全體瑞典の體操練習所そのまゝで、寸分の差異もありません、特に機械の如きは瑞典で製造したるものを、採用して居るといふに至つては、保守心に富みたる英人が、如何に體操を課することの切要なるかを感じたか、御了解なららるゝで御座いませう。

次に、彼のアルプス山脈に取圍まれて居る瑞西は什麼かと申しますと、從來は、機械は勿論號令迄全く獨逸式を採つて居りましたが、近年になりましたから、首府バーンに新設の中等學校は、殆ど瑞典式を行ひ、従前よりある學校では、獨逸式と瑞典式とを折衷して課して居るといふ有様です。

現今に於て、世界的體操を有する國は、言ふ迄も無く、瑞典と獨逸とであります、この獨逸國に於きましても、五、六十年前から、瑞典式體操を用ふべきか、自國傳來の獨逸式を採らんかといふことにつき、大議論を闘しましたが、今尙表面は研究中になつて居ります、が實際私が觀たところでは、

以外の結果を齎しました。

參觀しました學校は、中央體操練習所で女子の學級でしたが、獨逸式と瑞典式とを半分々に課してありました。最初私の豫期した考は、瑞典式體操を課すべきか否やといふことは、今尚研鑽中であるから、勿論純粹の獨逸式體操とのみ思つてゐましたところが、事實は如上の如き有様で、餘りに事の意外なるに一驚を喫しました。

男子の方は時間割のみ見ましたが、矢張り瑞典式を加入してありました、これに次で段々精査して見ましたら、事實は尙右に倍して、日本で申しますれば戸山學校に當る、向の軍隊に關する中央體操練習所に於ても、想像以上の瑞典式體操を課してゐまして、其の器械等も凡て折衷で、殊に木馬の如きは、獨逸式にも非ず、又瑞典式にも非ずといふべき、中間のものをこしらへてあります。

尙運動場には、鐵棒（獨逸式體操特有の器械）と横木（瑞典式體操の器械）とを、交互に設けてあつて、且つ自由に鐵棒にでも、横木にでも取り代ゆることの出来る様にしてあります。

又徒手の體操に於きましては、全部瑞典式によつて居る様に見受けました、尙最後特に申し上げたいことは、瑞典式體操に用ふる肋木に次の如き意味の文が書いてあることです、それは

『この肋木は軍人の體格を改良發展せしむべき器械なり。』てふ、陛下直接の御思召により備付くるものなり。

と、表面の研究上獨逸に於て失敗したる瑞典式體操が、實際に於て、重視せらるゝこと、斯の如し既に獨逸に於て、事實上瑞典式體操を重視すること、如上の状態にありとすれば、歐米に於ける瑞典式體操、獨逸式體操の運命が今後如何に變遷して行くかは、敢て卜知するに難くはないと思ひます。

右で獨逸の方は大略終へましたから、こんどは米國に就てお話致します、米國の體操は一言にして申しますと、凡ての體操が皆行はれつゝあるといつても差支は御座いません。先づボストン附近の學校に就て言ひますれば、一般に瑞典式が多い様です、次に中部のシカゴは獨逸人が多い故か、獨逸式の方が盛んに行はれてゐます。

ニューヨーク、ワシントンには折衷主義で、基督教青年會では亞米利加式ともいふべき體操を行つてゐます、又ハーバート大學の教師ドクトル、サーデンドは、各運動に適當な機械を作つて、サーデンド式を行つて居る。又デサルト式も行はれてゐますが、是等は極めて尠です。扱て細かく申しますと以上の如く種々の體操が行はれてゐますが、亞米利加の大勢から論じますと、女は既に瑞典式を採つてゐまして、日一日と瑞典式體操が優勢になりつゝあります。かくの如く瑞典式體操は歐米否世界に蔓延しつゝあるが、その形式は如何となりますと、瑞典に行はれて居るのも、米國、英國、丁抹に行はれて居るのも同一とはいへません、皆その國の特色があります、又元來瑞典式體操はその性質上、固定的のものではありません、それですから、國により人により時代によつて、其の方法が多少變化

するのは、寧ろ當然のことです、併しその精神主義に於ては些の相違もありません、従つて英國には英國相當、米國には米國人に合つた、婦人には婦人相當の瑞典式體操が行はるゝ様になるのです。以上述べしところを約言しますと、亞米利加に於ても、女子は勿論男子も瑞典式體操に傾きつゝありと言ふことに歸します。

或人は我國の學校體操としては彼の三十九年體操遊戯調査委員會の報告せしものを以て世界無比と稱してゐますけれどもこは或は謬見であらうと思ひます、勿論從來の體操よりも勝れ、且つ幾多苦心せられし實蹟はこゝ三ヶ年の間に全國に行はれて其効果を收めつゝあることは切に感謝すべきでありますけれども之を以て直に世界唯一なりと申すことは出来ませんまだ〳〵歐米各國に比して遜色あるので虚心坦懐大に改良すべき點があるのです。凡そ物を見るに二つの方面があるので従つて此の體操科にあつても亦兩面より考究せなければなりません即ち一方に於ては何處の國民たるを問はず二十世紀の人類として考へ他方には其國固有の特質に鑑みなければなるまい新しきものだとて遽かに其物を採用するのはどうかと存じます、體操法に於ては譬へ各國其形式異なるにせよ目的とするところは大同小異で而も生理的訓練的目的は殆ど同一で有ます。猶體育の目的としては左の四項に分たれます。

- 一、身體各部均齊の發達、(解剖上)
- 二、健康を保全し且つ強健ならしむ、(生理上)

三、圓滿なる發達、動作の敏活、剛毅勇敢の精神、(生理的美)

四、共同心及び秩序を重んじ規律を守る、(心理的美)

第三項までは個人としての目的を云ひ表はしたのであるが人は個人として存在すると同時に社會の一員として生存するものであるから此の世に立つに當つては個人として働くのみならず社會の一員として盡さなければならぬ、そこで第四項の共同心秩序を保つ心及び規律を守る精神が副はねば社會は壞はれて仕舞ふので何れの國何れの人類にも此等の條件は極めて肝要である、して見れば其の主眼とするところは皆一同で前四項は唯その目的の粹を抜いたものと見て差支はありません。更に實際上に於ては從來のものに尙新しき者を附加せばよいのであるが、尤もそれにしても國各々其の習慣風俗歴史の異なるあれば尙これ等によつても違はなければなるまいと思ふ。以上陳べましたのは目的論で、これから進で其の目的を達する手段として行ふ運動の方法即ち教材論に就て少しく述べやうと思ひます、偕て其の方法も亦その國の歴史習慣等に従ひ數限りもなき運動中最も適切のものを撰び其の國情に一致するものでなければなりません。殊に體育の目的に照して實際上生理上解剖上不適當なるものを採るの不可なることは明々白々で有ます。要するに教材の撰擇に就きましては各國現行はれつゝある體操の狀況と其の國柄とを參照し世界の學者が是認し且つ多年研究せられ居るもの而も偏頗なく一般に亘るものでなければならぬ。即ち總ての教材は完全に統一せられ得るもので決して頑固にして狭小

であつてはいけない。廣く智識を世界に求め深く探究し充分に取捨選擇するの必要があります。更に將來採るべき體操法については現今のものを考究し置かねばならぬことゝ存じます。

▲普通體操の矯正術、美容術 兵式の柔軟體操及び徒手體操は皆同一の性質のもので身體の矯正に効あるものであります。故に均齊的發達を要する學校には餘り其必要なく却て不齊なる身體即ち青年以上のものにとつて焦眉の急務だと考へてゐます。彼れ青年以下には此の矯正的のものを少しく課せば足るのであります。

▲輕器體操(從來普通體操と稱へしもの)は矯正的でなく發育的である、換言せば積極的方法であるから現在發育中のもの即ち兒童青年には極めて適當してゐます。

▲器械體操とは輕器體操に對する重器體操の名稱にて此の體操の特長とするところは心身の鍛練である、身體を強健ならしめ且つ剛毅果敢の氣象を養ひ動作を機敏ならしむる等實に青年以上の者に適してゐます。尤も此の強健的性質を有してゐますから軍隊で體力及び氣力を養成する上には非常に都合がよい、抑も兒童にあつては心身未だ薄弱であるから斯様に身體及び精神を使用すること大なるものは却て有害である、女子に於ては均齊的發育を達せんが爲めには幾分妨げはないが其の他にあつては必要はありません。

▲獨逸では規律的運動(隊列的)と稱するものを行つてゐますが之が應用を帯びたものは教練で主なる

目的は均齊的發育を遂ぐるのです、無論鍛練的となすに足りないので多くは準備運動の一部として課すべきもので有ます、要するに規律養成を以て主眼とするものであるから男女老幼の別なく行ふべきもので隨て其の難易を計つて課すべきものである。

▲遊技を學校に於て課せんとするには體操と統一するの必要があるので瑞典、獨逸では既に調和し英國又將に統一せんとしてゐます。それ遊技は精神に快樂を與へ筋肉を調和的に働かしむるので其の多くは自由意志によつて活動するもので有ます。元來知的情的總て自由意志の活動は最も大切である、彼の高等遊技は訓練的及び鍛練的性質を有し、決して娛樂的のものでない、現時盛に行はるゝ野球の如きは社會分業の標本とも言つてよからうと思ひます、遺憾ながら吾等同胞は兎角意志薄弱で他の刺戟物去れば直に冷淡となるので其の原因を正せば矢張自由意志養成の不完全に基くので吾人は全力を注いで此の方面の完成を計らなければなるまいと思ふ。太陽の照さぬ時はなしと誇れる彼の英國人に奪ふべからざる心志の存するのは確に自由意志に富めるからである總て男女を問はず高尚なる意志を養はんには遊技に若くはありません。

▲矯正的運動 「適材を適所に使用すべし」とは古今の通則で矯正的のものを面白く且つ興味を與へんとするが如きは不可である殊に此の運動を連續的に行はしめんとするのは甚だ好ましくない。

▲規律的運動は秩序整然たるを主とするのであるから極めて簡單明瞭でなければならぬ素より十人が

十人共出來得るもの其の上社會的であつて決して個人的であつてはいけない、加之其の主を忘れて矯正的發育的鍛鍊的など同一視してはなりません。

▲總ての運動は必ずしも解剖上生理上有益であると云ふことは出來ない身體は不利なる運動をなすがため非常に不良なる結果を來すことが往々あるので職業的運動は多く之に屬します、だから働くからとて宜しいとは曰へない却て働くがため不良なる影響を及ぼすことが澤山ある。

▲すべて事は一朝一夕出來上るものでない、即ち「成るの日にならずして必ず因て來る處あり」であるから一步一步進み漸次變化改良すべきである、故にこの體操科も亦激變をなさしめないで徐々に發達せしむべきものであらうと思ひます。

▲師範學校に於てはやがて小學校の教師となるべき者を養成する所であるから専ら小學校兒童に課すべきものを教授して可なるべきであるけれども決して是丈にて満足してはいけない更に青年に適應せる訓練的、鍛鍊的のものを課する必要があります、譬へば兒童は牛乳二合位にて足るべきも青年大人にあつては一升五合にても猶不足し他に固形物を食せざれば屹度胃を害ふに至るものである。

▲彼等第二の國民を養成する社會の模範生否先導者として第一着に意を用ふべきは身體を完全にすると云ふことで一時一刻を之を忽諸に附してならぬ、されば師範學校第三四學年に至り初めて小學に兒童に授く可きものを行はしめて宜しいと思ひます。

▲中學校は幼年並に青年の集合所であるから常に青年に適する體操のみでなく小學校兒童に適するものを併せ行ふべきものである、別けて兵式教練等に於ては上級生をして下級生を指揮せしむる必要がある、これ教師の手数を省く觀があるけれども其の本旨は決して斯かる姑息のものでない即ち上級生は應て社會の中堅となり他人を助け導く位置となり或は命令を下すべき人物となるものであれば此の時に於て充分卒業後の準備をして置く必要があると共に今日最も憂ふべき中流以上の人々の體格の不完全且つ身體の不健全を矯正し更に強健ならしむるため將來の中流以上の人物たるべき此の中學校生には特に剴切なる各體操を課せなければなりません。(體育)

二、歐米留學の回顧並に體育界の狀況

今回幹事の方から歐米體育上に關して又何か話をしてくれと言ふことでありました。實は昨年以來諸君の先輩の方に御話をしたこともあつたのを再び御話をしやうと思ひます。諸君は私等と共に此の道に研究せられて居る方ですから私しの知らない事見ない事は勿論御話することが出來ないです、併し私しの知り得た範圍内で出來得ることを御話をしてみたいと思ひます。ところで私の外國に行つた事は既に四年前の事でありますから現時に於ける歐米諸國の體育の狀況を御話する事が出來ない、つまり留學當時の事を回顧的に御話をしやうとするのであります。そこで今此の話を三段に分けま

して、第一は経過した順序に依り調査した大體、第二は各國體育狀況、第三には世界體育の趨勢に付き私の感じた事を御話する考であります。

先づ當時を顧みますると横濱を出帆したのは三十八年十二月二十二日で翌年の一月三日にはバンクーバに上陸しました。四日には其處を立ちロッキーマウンテンを越えカナダ平原を横切りスベリオル湖畔を走つてモントリオールに着き、それより別れてニューヨーク市に着きましたのは一月の十日でありました。私の留學期限は此のニューヨーク市到着の日から滿三ヶ年と言ふ計算なのであります斯の様にして私はアメリカの東海岸に着いたのでありますがなせ私は東海岸を選らんだかと言ふと、別に大した理由もありませんが要するにアメリカの凡ての中心が此の東海岸にあるからであります。

さて此れから何れに行つて研究しやうかと考ました、勿論これらの事は大略は先輩の方や本などによりて知つてゐたのでありましたが併し唯だそれのみで行動すると言ふのは輕卒な事だと思ひまして自ら實地に於て選定するに限ると考へたので先づ第一に其の視察に従事する事にしました。そこでニューヨークからニューヘブレン：：此處にはエール大學、體操學校等があります。更に進むとボストン市になりますが此處は諸君も御承知の通り昔から東海岸中の文學の中心で種々な學校がありまして體操の師範學校もあります、それからスプリングフィールドの青年練習場でありましたが此處は體操教員養成所ではあり中々盛んであります。それで此等の内何れにか決することゝして一月の十日から二月までそ

れらの調査に掛り殊に社會體育の狀態其他種々な方面から考たのでありますが其の結果ボストン市に滞在の事と決定しました。其の理由としては色々ありましたが現時の凡ての中心ではあり殊に體育淵源地で我が日本の體育も此處から生れて來たので彼のドクトルリーランド先生の如き亦川瀬先生井口先生等も御出でになられた所で、我國の體操の二大系統が生れて來た地であるから斯くは定められたのであります。次には先づ此の身を練習して實地的に研究をし、更に出來得る限り廣く調べ大なる觀念を得やうと言ふ方針を取りました、斯かる風に一所に身を置いて此の二大方針を同時に研究し得る學校は何處がよからうと考へた結果其の地の女子師範體操學校に入る事に致しました。勿論其處は女子ばかりでありましたが、私は客分だと言ふので入學する事が出來たのであります、私の爲めには日本からわざわざ來た客だと言ふのでなく便利に且つ親切にしてくれました。私は何よりも最も知らなかつた瑞典式體操を第一にと研究：：つまり練習しました。次には廣く研究すると言ふ目的からして、午前は學校に午後は病院に行つて醫療體操を練習し其の暇には内外の運動場公立體操場を視察すると言ふ實に多忙な日課でありました日曜土曜には遠方の運動場に至り市の附近の公園の設備やら運動場の有様などを巡視しました。又時には校長先生や卒業生と共に適當の教育會に視察旅行した事もありました。

其の中で言はなければならぬのはリーランド先生の修業した學校であります。それはマサツセツト

州のアマーストカレデーと言ふので私共の是非とも行かねばならない所であります。其處には坪井先生の生先リランド先生の又先生でドクトルヒツチコック先生が居ります。堂々たるカレデーの體育を支配してゐるのであります。私が行くと大に喜んでくれました。種々な御話をしてくれました。此の時はたしか九十幾歳かと思ひます。日本人の小さい事を見うれしがつたり、亦開校以來の體育上の出來事を筆記してくれたりした其の優待には今でも私の感謝してゐる所であります。又スプリングフキールドノトレニンングスクールに居られた大森兵藏氏から手紙が來まして三度ばかり訪問しました。更に卅九年の夏休は六日から九日まででありましたが此の休暇を利用して彼の地の人は種々な研究に従事せらるゝのであります私もシャトーカと云ふナイヤガラ瀑布の近所にある夏休に行はるゝ夏休學校へ行く事にしました。此の學校は年中研究しつゝ此の夏休中に實習すると言ふ仕組なのです體育の方の修業年限は三ヶ年と言ふ規定でありましたが兎角大に研究的で亦進取的な講習で日本などの講習などは比較にならないのであります、そこで私には年に限りがあり一年の内に三ヶ年の事を見習はうといふのでありますから暇さへあると講義を聴き實習もし朝は八時午後は五時迄六七時間は全く奮闘的にやりました。此れまで特別教育つまり客分として教育された身が實際的に而も夏にやられたので身體が痛くなつて困りました。體操に關しても此の學校では色々ありいや何んでもあると言ふ次第で獨逸式もあれば瑞典式も教へアメリカ特有の遊戯なるアセリチックも游泳術もありデルサルト式

は體育上から見るとあまり必要でないから此れは例外であるが其の外は何んでもあります。私は初歩で主として豫備科に仲間入りしましたが其の友達等は何んであるかと見ると中等學校の先生やドクトルなどの専門家が多くてその友人等は盛んに練習してゐるのであります。私も爲めに豫想以上の目的を達したと思つたのです。以上は三十九年の二月から翌年の四月までは純粹の稽古をした事になり、殊には米國の大部分を巡視した事になります。

第一にクリーゴントとシカゴの間のオベリン大學に参りました。此の學校には日本人も居り體育學者のドクトルレナード氏も居られました。それからシカゴに至ると此處亦内地の大中心で殊に獨逸人が多く生活も從つて獨逸的である。各學校及公園などの大組織なことを見體育界の發達を視察する爲め此處に豫定より多く即ち十日間を費しました。シカゴから更にミルウヤーキーに至りました、此處は諸君も御存じかも知りませんが獨逸人にて設置されてゐる此のアメリカ獨逸體操協會の本部があつて、體操學校もあり歴史上大切な所であります。次ぎはセントルイス、シンシナチ、ピッツバーク：：此のピッツバークにはカネギー氏の建てた教育所もあります。ワシントンには體育上に關しては如何と思ひましたが、行つて見ると大に利する所がありました。ノルフオク、ゼームスタウンの博覽會等を見ました其の邊は文化の餘程下つて殊にそれより南は全く見る價值がないとの事且つ時もないので引遠へしてヒラデルヒヤに参りました、ヒラデルヒヤはポストンと相對したる地で南部の文化の中心であ

りまして、ポストンと何事でも競争してゐる様な状態で體操なども此の點から面白いと思ひまして内外の運動場などを見ました。それからニューヨークに歸りニューヘブンにも寄つて手島先生にも逢ひポストンに歸りましたのは四十年の六月でありました。以上で米國留學を終りました。

次は大西洋を渡つて英國のリバプールに上陸直にロンドンに至りました。先づロンドンの第一回は夏の内外公園運動場を見其の間に學校等を巡視して、婦人の大學をも尋ねて瑞典式の體操振りを見ました。中々かれこれ多忙でありましたがスコットランドは英國の中でも山の中の田舎で古の名残でもあつたらうと思ひ、其の有様を探ぐる積りで行きました所がスコットランドダンスなぞが田舎に行はれて居るのみで目に立つ様なものなく得る所は多くあませんでした。次は瑞典に行く事と定めチームス河から出て北海を横ざりゲーテンベルグに上陸それからストックホルムに至りましたのは八月の十八九日頃で此處には其の滞在期間を約一ケ年と定めそろ／＼視察と出掛けました。先づ實際的に身を鍛へやうと思ひ國立の體操練習所：男子部と女子部とありますが私はその男子部に入りました。男子部には陸海軍人が主なるもので其の修業年限は三ケ年とありますが此れらの軍人と共に今日までやつて來た瑞典式を研究及練習するのは私の目的でありました。其の外殊に冬季に於ける遊技醫療體操等は其の研究する主なるものであります。冬の遊技ではスケートチェンゲ位はたれでも知つてゐますが雪や氷を利用して運動する遊技は非常に多いので殊に老若男女何れも元氣よ、或は櫂の如きもの氷滑りを

やるもの斜の坂から下りるものなど中には女子で子供などを抱きながら此れらの運動を平氣でやつてる様なわけで其の盛んなる事驚くべき程であります。瑞典の公園は冬の方が夏の方よりも運動が盛んであります。スキーは幅一寸位長さ四尺から二間位の木製のものでやるので實用的にも遊技上にも近來大に發達して居ります。私もスキーをば暇さへあると盛んにやつて見ました。要するに冬の遊技は主として研究したのであります。日本あたりでも北國地方の人民は冬の季節にただ、こたつなどにあたたまつてゐないで大に雪などを利用して遊技を實施せられたらよからうと思ひます。四十一年の七月までは瑞典に居りましたが、ストックホルムの近傍は勿論視察しました。其の主なるものは瑞典と丁抹とを巡回した事であります。コッペンハーゲン、丁抹體育師範學校の校長クルドセン氏から自分丁抹國の體育場を視察に同行するから來いとこの事でしたから、此れは好期會と大に喜んで急いで行くと既に氏が停車場に居られましたのですぐ行くから乗れと言ふので、それは忙しい目に逢つて兎角汽車で行く事になりました。その様にしてオルボリ運動會を見たり體操の檢定試験を見たり、ニーチュペンスクにも行きました。比較的田舎の體育を見ました。次にはマルメーから瑞典國立のルントン大學を見ました。此處はリングの生地で、リングの堂もあり現に當時使用した所の木馬もありまして此の木馬は神社の前にある神馬の様なものでありました。幸ひに此處にはリングの親類が居り其の學校の教授である大佐の人も遠縁の人でありましたので私は早速其の大佐の厚意によつて、其の宅にてリング

の親類の方に逢ふ事が出来たのは何よりの光榮とする所であります。以上はストックホルムの滞在中の事で丁抹の巡廻もやつたのであります、それから英國に逆戻りしました。實は此の外の國々をも視察しやうと思ふたのでしたけれども換ふべからざる國際的遊技オリンピックゲームスが其の年の其の時に英國に行はると言ふことで其の方に參つたのです。此のオリンピックゲームスは古ギリシャのオリンピア祭の遊技の再興とも言ふべきもので、オリンピア祭は此の遊技や其の他の文學藝術等の各個々の目的は勿論其の國民を統一すると言ふ點に於て極めて必要なものでありましたが、兎角末になるにつれて多少の弊害は生ずるもので、此の遊技もその出場者は各専門家に限る様になり、且つは勝敗のみにとらはれるに及んで禁止せられ廢滅した、近頃になりまして佛國人が先づ其の再興を主張しまして文學美術の方から世界的統一を計らうと熱心に運動した結果乃ち千八百九十四年各國の有志者を集めて會議を開いて千八百九十六年に其の第一回をアデンスに開らく事に定め、其の會期を四年に一回としそれを亦各國の持廻りとして第二回は千九百年パリに第三回は千九百四年にはセントルイスに千九百六年にはアデンスに臨時會……此の臨時會に就ては特別にギリシャに特權があるのでつまり其の年は新らたに大運動場が落成したと言ふので……がでありまして、第四回は千九百八年ロンドンとに開かれましたのであります。此れも最初はローマに開く事になつてゐたのでありましたが、都合により且つは英佛博覽會のあつた當時でしたから其の様になつたのであります。私の見ました

のは即ち此のロンドンの時でありまして次は何處であるかと言ふと未だ確定してはゐませんが、順から言へばたぶん獨逸のベルリンだらうと思ひます。此れは即ち明後年千九百十二年です併し遊技のもの、實際から言ふと瑞典でなければならぬ筈なので、實は獨逸はあの様な競技的な遊技はあまり熱心でない方なので此の會の獨逸に開かるゝかスウェーデンに開かるゝかによつて獨逸の遊技界及獨逸人の運動に於ける思想にも大なる關係のある事で活目して見る價值があると思ひます。

八月中旬から獨逸に參りました。其の視察の方針は教員養成所及其の練習所でありましたから、最初には伯林の中央國立體操場及陸軍學校の兩者を見ました。それから社會體操協會や體操學校の體操や運動場を見次には田舎の方に行きました。其の時分にコットブスに體操の大會があつたので幸ひ出席しました。ベルリン及近傍の體育家が多く集りましてドクトルシミット教授等の有名な體育家に七八人も逢ました。其の方々の凡てに就て打とけて研究せられてゐるのを見て感心しました。ドレスデンに行きますと鳥渡夏休みであつたので……同時に兩方の多くの學校は休みであつた……鳥渡澳太利の方に廻らうと思ひましてウキennaに入りました此處には有名な武派つた體操があると言ふのですが併し何れも時代遅れで見るに足りなかつたのです（ドスタル氏の二分間體操などの幼稚なのは止むを得ません）ウキennaからミュンヘン、スツツガルト、カールスルーへを見ナイラ河を下りまして白耳義のブラッセルに出でロンドンに歸つて來たのは十月の半頃でありました、ブラッセルで秋月公使……

今の澳太利大使の案内で陸軍の體操を見ましたが其の瑞典式其の儘であるのを見て驚きました。此れで英國には第三回目であります。此度は冬の遊技を見る事を得ました。そこでオリンピックゲームスの残りの部もありますが一體此の遊技は一ヶ國のみの遊技では駄目なので必ず相手六ヶ國以上の賛同を得たものでなければならぬのであります。國際的であるから即ちそふなるのでアメリカの野球や英のクリケットの如きは其の資格がないのであります。つまり對手がないからなのであります。英國の冬の遊技を見るのも此れで終りだと思ふ念からして諸方に行つて能く視察をしました。此れで私の巡視が終へたことになるのであります。併し此れは公けのことでありまして内實最後の巡歴としては残りの歐洲諸國の巡視であります。先づ日本郵船會社に荷物を托し身一つで佛國のパリに渡りました。佛國は既に「オリンピックゲームス」で呆れて居ます上に人から聞くとあまり視察する價值がないとの事でありましたから、佐々木吉三郎氏の案内で大急ぎに各學校を見早速瑞西に移り豫ねて希望を持つてゐた皆兵主義の學校教育其の方針及體育を見やうと思つたのです所が兵式の方は休みの時期で其の實際を見る事が出来なかつたが、其の組織を窺ふ事が出来ました生徒の服から其の他の物一切皆官給で極めて整頓をして居りました。今一ツ佛獨伊澳などの國々に接してゐるから其の感化はどうだらうかと見ると、實に面白い、人情は佛に、學校は獨逸にと云ふ、傾向を帯びてゐる。體操の號令など獨逸語で又古い體操場は獨逸式に出来てゐる。然るに新らしいのは佛でもなく獨逸でもなく即ち瑞典式

である。伊太利は軍隊及學校の體操を見ました、伊太利には一種異つた法式の體操がありまして、其の行進法は一種の步調で急いで歩きます。ラ、マルモラ聯隊の如きは駈足が用ひられて器械體操も……鐵棒、飛越えの様な木登りまで……駈足でやると言ふ有様で其の敏捷たらまるで猿の様でありました。ネーブルスには女子の體操學校がありますが参考ともなりませんネーブルスの景色のよいのは比較になりません。ボンベイをブリンデジからギリシャのパートラスルに上陸をして、コリンス灣邊スバルタの山嶽を眺めコリンス地峽（今は堀割）を經アデンスに着いて出來得るだけ巡視をしました、此れで私の巡視が全く終りをつげたのであります。ギリシャから地中海のアレキサンドリヤを經、スエズ運河を通つてコロンボ、シンガポール、ホンコンを經て歸國したのは昨年二月の始めでありました。

以上は私の前置きであります。然らば何せ此の様に長々と前置をしたかと言ふに其の理由は種々な視察をした當時の状況を御話して一には今日は各國とも當時と異つてゐると言ふ事を注意してもらいたい事と、も一つはソクラテスの岩崖に詣でた時に思ひ起した事でソクラテスは當時の所謂學者而も何でも知つてゐると言ふ先生、知らない事を知つたふりをしてゐる虛榮家と問答して遂に其の無知を白状せしめた鳥渡私の拜した時は薄暗くありまして切りに畏敬の念に打たれてゐますと、三年の巡視で何か分つたかと御聲がかつた様な氣がしたので正直に何も知りませんと心の中に言ひました。此

の様な次第で私は決して體育に就て物識顔して諸君に談ずる様な事は出来ない、唯々見たゞけを述べるのであると承知してもらひたいからです。

此れから本題に移り各國體育の状況を御話いたします。即ち目に映じた心に感じた事を以上の心にて御話をしたいと思ひます、米國は英國人種が其の中心になつてゐますが各國人も殆んど入らざる所なしと言ふ有様で其の雜多であると同じく體操も其の種類は如何なるものでも皆含まれて世界中の體操が集まつて……伊太利を除いて……體操の博覽會が開かれてゐる様なものであります、獨逸式でも純粹のものもあれば米國化したものもあります其の他サージェント式器械體操、ロバート式青年會體操、極めて小部ながらもデルサルト式等もある。又淺草式の力持體操輕業體操などあらゆる體操がありますが、地方別に大觀すれば凡そ勢力の範圍があります。其の大なるものは獨逸式と瑞典式であります、ポストンを中心として瑞典式が勢力を得、シカゴ中心の方は獨逸式が勢力を得てゐます。ニューヨーク、ワシントン等を中心とする地方は瑞獨の折衷混合である、此れらが重なる勢力範圍であります。リーランド氏の行ふたのは今はないが、ノルフホークあたりには從來の日本のと殆んど同一のをやつて居るのを見た。亦運動する場所及其の時間の如きも、學校等に於ても同一であります、體操を全く教室でやり、或は廊下でやつたり、又體操室を別に設けてそれでやるものもありまして、一言で述べることが出来ません。時間も其の通りで、二分間、五分間、十分間、十五分間、三十分間、一時間等も

ありまして……ポストンは主として十分間を用ひてゐます……それを亦混用してゐる所もあり、一々概括的な答解をする事が出来ないであります。それを世間では米國流と言へが一定してゐるかの様に考へてゐる方もありますが、つまり廣く觀察をしない結果なのであります。米國の遊技はアセリチックス及國技としてのベースボール、フットボール等は主なるものであります、殊にフットボールの如きラグビー式ではあるが英國のとは異なつて米國式蠻的なもので死人などを生ずる場合も少なくないのであります。近頃は規則を設けて之を輕快にし其の害を防いでゐます。バスケットボールは何處の國でもありますけれどもアメリカのは最進歩したもので特別なる装置を以て行なはれ頗る敏捷で男女學校では盛んにやつてゐます。重に冬季戶外運動の出來ぬ時に行はれるのです、アセリチックスは其の盛なること寧ろ世界第一であります。

英國には行く毎に感心しない事はありますが、體育の如きも殊に遊技の如きは紳士としての國民を練る手段に用ひてる様であります。英國は其の目的を精神に重きを置く點に於ては世界第一であると言はざるを得ないのであります。そうして其の盛んな事は非常なもので、國民は自國を遊技の母國だと廣言し、生活には遊技は必要缺くべからざるものとなしてゐる有様で、其の遊技を好むのは殆んど天性であると言ふてもよからうと思ひます。陸上のもものではクリケット、テニス……此のテニスは種々ありまして、ローンテニスの如きは其の一つに過ぎないのであります……ボロー、フットボール(此

れ亦二種あります。ゴルフ等の様なもので、水上に行なはるゝボートレースはオックス、ケンブリッジ兩大學に限り稱せられるので他はレガッタと稱へて此れ亦非常に盛んでありまして水泳の如きも盛であります。以上老若男女何れも競ふてやつてゐる有様全く天性だと稱したらよからうと思ひます。勿論英國では社會的秩序は善く出来ゝるので、時間の定まつた餘暇には遊技をする時間が出来るのであります。英國の遊技の常に盛んであると言ふ實例の一としては、例のオリンピックゲームスであります。世界の選手が集まり來るのですから、新聞紙などは大に書く筈なのであります。反して僅かに紙面をふさいでゐると云ふ有様にはいくら尊大沈着なる國民とは言ふものゝ驚くの外はないのであります。日本などではシカゴの選手が來たと言ふので大騒ぎをしてゐますが、此の位事は彼地は一滴の水の様な心地して何んとも思はないのであります。亦かの地には遊技ばかりの新聞紙は日刊で出來てゐるので、あらゆる遊技の日割や其の他それに関する事は記載されてゐるので尤も其れは大版六頁のものであります。然るにどうです。其の國際的遊技であるオリンピックゲームスの如きは僅かに其の一頁を滿たしたのみで残る五頁にも英國遊技中の極めて目立つたものゝみ記入せられてゐるのです。それで以て英國の遊技の状態を知り得る事が出来るだらうと思ひます。今一ツ例を言ひますと私はボートサイドに着いた時分にある日本の知人に運動場があるかと聞くと、英、佛、希、伊、土人などの協同の運動場があると言ふから、それは一つ見物してやらうと尤も不案内の土地ですか

ら行つて人々に尋ねて見たがそんな運動場がないと言ふので、大不平で歸つて友に話するとそれは英國人の運動場と言ふて聞かなければだめだと言ふ。行つて見ますと、砂上に出來て實に美しいものでありまして、成程英國人のみがやつてゐました。金は協同で出してゐるのでありますが、殆んど英國人のみやつてゐるので英國人の運動場と同一であるかの如く思はれるとの事でありました。その天性的遊技を好む點は此れを以ても分ります。彼等は世界の至る所に殖民地を作り其處に落着いて而して天性的に運動をやつてゐるので、健全なる活動も出来るので流石は世界の一等國だと感心せざるを得ないのであります。英國の體操は從來あまり振はない方でしたが、近來になつてから體操も遊技と併立せしむるの必要を認めまして、第一に海軍では瑞典式を用ひ、陸軍も今はそれを用ひてゐます。小學校は十數年前から瑞典式を用ゆる事になる筈でありましたが、種々の都合で近來になつて其の緒についてゐます。私は第一回渡英の時ある女學校の女教師は獨逸式でやつてゐたのが、第三回渡英の時分には全部瑞典式を用ひてゐました。殊にイートンカレッジ……(ウエリントン將軍の學生たりし學校)……近來破天荒とも言ふべきことをしてゐます。それは教師を瑞典に留學せしめ(其の教師は私と同意でありました)そふして其の學校の設備も悉く瑞典式であるので、如何に體操に重を置いて來たかが分かります。瑞典の體操はリング以來改良して來たもので軍隊式に醫師の體操を加へた様なものであります。であるから各學校も同一方法で亦軍人を中心としてやつて居るが、學校體操としての教育

價値は充分だとは言はれません。又普及の點に付ても未だ充分ではありません、然し將來普及を計つて大發展するの傾向は明らかに見えてゐます。遊技の方は冬のものゝ相對して夏の水泳も中々盛んでありまして、三十二呎の高所から水中に飛び込む等の様なのは實にすばらしいもので世界第一の晴わざだらうと思ひます。勿論女子も、やつてゐます。坪井先生の御出になつた當時は左程ではなかつたさうでしたが、近來戸外の運動は非常の發達で體育協會では皇太子殿下の會長になられました、國會からは其の費用を出してゐます。運動場も年々多くなつて、現在の所オリンピックゲームスに於ける成績點順が英、亞米利加、瑞典と言ふ順序になつてゐる様な次第で世界の第三位を占めて居ります。獨逸——獨逸の社會體操はその最も盛んなもので、ベルリン市のみでも會は七十幾つかあります。就中獨逸體操協會の盛大と來たら、世界第一で晝夜驚くべき程の人は皆熱心にやつてゐます。その中央體育場に於て私の實見したことを申上りますと、ある金曜日の午後八時から小學校教師百餘名の練習がありました、先づ此れを右班毎に分ち、それには班長があつて班長は亦總指揮官の指揮の下に各班を命令し及補助すると云ふ事で、始めは各班長は指揮官の下に集合し、特別命令を受け歸つてから指揮官の號令で全部の徒手體操をやり、それが解散になると各班長の下に各班は自由行動を取つて、如何にも規則正しく敏捷にやつてゐます。器械は凡て交換法に従つて指揮官の命令で順々と交代をして行きます。只見る廣き場内は殆んど器械で満たされて用のない時は天井につるし上げたり其の他の

場所に納め置く此處に忘るゝ事の出来ない亦面白い事があります。それは青年組、老年組、中老組に別けて運動してゐますが、其の老人組が極めて熱心なもので、鐵棒、梯子、木馬等何んでも元氣よく練習してゐる様實に感心なもので、一體獨逸人は木馬の乗方などは上手の方であります併し此の老人組は中々さうは行かない、時々ぶまな事もやり、其の態度様子などは頗る面白い事も演じます、それでも平氣で熱心にやるのには實に感心せざるを得ないので、それで一通り運動の練習が済むと如何にも熱心に而も活快に勇壯に愛國歌を調子を揃へて歌つて行進します今は獨逸の軍隊の歩調は日本の舊式の様なものではありませんが、此の老人組は舊來の歩法でドンドンとやつてゐます。此れらから見ても彼の國民の元氣發展が想像せられるだらうと思ひます。殊に此の老先生に教育せらるゝ少年の幸福は如何、大したものぢやう。次は軍隊體操であります、此の體操の改正に就ては、その中央體操練習所では獨逸、瑞典式の争がありました其の調査の結果獨逸式も能く之を利用すれば教育上乗つべきものでないと言ふ事でした、何にしる獨逸はあの通りな國、負け惜しみの強い國民ですから其の體育上の利益以外に獨逸主義を主としてゐましたが、今では軍隊にも瑞典式が入つて來てゐます。水平棒もあり又肋木の新しいものもあります。此れは皇帝陛下の命で設けたとの事でした、それで一般の傾向も分かるだらうと思ひます。つまり一言で述べますと、獨逸、瑞典式の折衷で、獨逸式其の儘ではないのであります。學校體操も勿論さうであります。それから兵式體操此れは銃劔を着けたのでありま

せんが、それは精神及身體を練るには左程必要でないと言ふので用ひない併し他の凡ての座臥進退舉動は全く軍隊式であります。女學校などでも步調を取つて、軍隊的に元氣よくやつてゐます。全體が兵式に出來てゐるから特に學校などに兵式體操などが無い様に見ゆるのであります。次にこまかい遊戯は獨逸では中々工風をして、世界一でありますが、オリンピックゲーム等に用ゆる様な國際的競争的なものはないのであります。それは勝敗に重きを置き、且つ一度滅びたものを再現してやる必要があるかどうかと心配してゐるので、單に加入はしてゐると言ふものゝ、あまり熱心ではないのであります。個人的のチャンピオンを作るよりか全體の發達が必要だと言ふのであり、獎勵せず居りました、即ち此の方面では未だ初歩即ちロケットニス時代といふべきであります。英國などでもロケットニスは家庭的で國民的ではありません。米國などでもその様でありまして、ハーバート大學の様に、數十のコートがあつてやつて居るが他の遊戯に較ぶれば實に輕少なものである獨逸はやつと其のテニス時代なものと同認められますが、併し此の次のオリンピックゲームが獨逸に開らるゝや瑞典に開かるやに依つて、獨逸遊技の向後の傾向が窺はれる事で、大に眼を開いて見る價值があるだらうと思ひます。又獨逸では光線、空氣、水の會といふが此の三者が健康に必要であると言ふので、裸體で運動をやつてゐるのもあります。禪は日本のものと似てゐて其の禪一つで盛んに球打や駢歩や體操などをして居ました。但し咽喉が渇くとビールを呑みます是れだけは賛成が出來ませんが、運動が終ると

流で全身を清めてゐるのは如何にも心地よく思はれます。ある人は人間の體育は大古時代に歸らなければだめだと言ふてゐますが、それは道理のある事だらうと思ひます。

佛國、佛國は左までの價值はありません。佛國では瑞典式を用ゆる状態になつてゐます。白耳義、瑞西、伊太利は前述の通りでギリシヤは昔風でなく全部今は瑞典式を基礎としたものになつてゐます。最後に結論として、世界體育の趨勢を御話して今日を終らうと思ひます。先づそれを四つに分けて、一は文明と體育との關係、文明の進むと共に特に體育の必要である事は言ふまでもない事で、從來生活の簡單な時でも體育の必要がありましたのに、世は進むと共に益々身體を苦しめ、其の運動不足の結果、身體はだん／＼と悪くなるのみで、此れが特別な手段を取つて其の弊害を防ぎ活動的の身體を作るのは言ふまでもないのであります。ですからポストンの様な所では公立の體育場がありまして、幾千萬圓の金を其の爲めに費して居ります。シカゴの如きも其れにまして盛であります。ロンドン市の如き幾多の公園を設けて市民の體育を計つてゐます。獨逸は私立的でありますが現今では公私全體の有様となりました、瑞典は全く國家的であります。此れらは皆文明の度に應じて、是非やらなければならぬで、今後益々發展する事だらうと思ひます。亦さうでなければならぬのあります。

第二は體操と遊技との併立して上達した様に何れの國も此の併立に傾いてゐるので、瑞典、獨逸、英國皆左様でありまして、英國は遊技の上に體操を加へ、獨逸は體操の上に遊技を増さんとする傾向があ

り、瑞典は勿論それでありまして、學校體操ならびに社會體操とも此の兩者の併立を必要としてゐるのは目下の大勢であります。

第三は體操の主なるべきものは瑞典式に傾いて居ります、此は形式方法に依るのみではなくして其の精神即ち主旨にあるのであります。體操は一般人に普及の點あると同時に各個人に依つて異ならなければならぬ、又國民に依つても違はなければならぬのであります。であるから米國では獨逸式が入つて居る所にも瑞典式は行はれて居り、英國のイートンカレッジの様に瑞典式は入つて居り、獨逸式も入つてゐるのであります、多少其の國民に依つて方法や形式が違つてゐるのであります。瑞典本國でも常に改良せられてゐるので、つまり各國は何れも精神的輸入をしたものと言ふてよいのであります。

最後の第四は遊技は何れも盛んではあるが、専門的になり勝敗に重きを置く様になり、商賣的になりつゝあるのは、此れは戒しむべきであります。勝敗の如きは一種の方便であるので、目的ではないのであります。然るに近來學校内にすら、プロフェシヨナルが出来てゐるのは憂ふべきことである。チームは全體を良好ならしむる永遠の良策ではない、獨逸の手を出してないのは此の理由があるので、他を犠牲としてもチームを作る専門的な米國の様な將來は案じられます。此れは心ある世界の體育家の憂ふる所であります。あまりながくつまらぬ事を申し上げまして、諸君も定めし御勞れの事でありま

したでしやう。何れ又御逢ひの時は申上げる事として、今日は此れで失禮致します。(體育)

三、歐米に於ける體操及遊戯の一斑

第一 瑞典式體操普及改良の狀況

體操と遊戯との間に、劃然たる範圍を定むることは困難であるが、常識上自ら區別されてゐるので、それを標準としてお話しやう。

體操に就ては、歐米各國ともに澤山の種類があり、中にも北米合衆國には最も多い様に思はれる。瑞典體操の普及しつゝある勢は盛な者で、其の形式は兎に角其の主義は到る處に歡迎せられる有様である。されば本國の瑞典はいふを俟たず歐米各國殆ど瑞典式の體操の行はれてゐぬ處はないといつてよいのであるが、就中米國に於ける女子の體操と丁抹に於ける一般體操とは、全くこの式に據つたものである。勿論最初に於ては盛んに論争されたもので、丁抹が今日では全く自分のものに消化してしまひ、米國が女子の全體から、男子にもますます行はんとする傾向を示した迄には、決して一朝一夕の事では無かつた。獨逸は自分に獨逸體操といふ立派なものがあつたので、瑞典式の入り込むには頗る困難な情況であつた。然し今其の實況を視察するに折衷したものが甚だ多く、現皇帝の思召によつて工夫せられた器械なども諸所に見受けられる。而して學校では女子は勿論、男兒にもこの瑞典體操の主義を用

ひてゐる。たゞ社會一般の體操は依然として自國固有のものを用ひてゐるが、兎も角も、全體の傾向は瑞典體操の精神を採用して居る。これは昨年末の現狀であつたが、進歩發達の著しい今日であるから、現下も既に變化をしてゐるかも知れない。全然瑞典式を用ひてゐるのは、希臘、白耳義、の二國であつて、瑞西も一寸體操場を窺ひて見ても、此の體操の用ひられてゐる事が分る。バーン市では、古い體操場の古い器械の黒く汚れた中に、瑞典式の器械が白く勇ましく立つて居るのを見た。然し以上各國とも、右の如き變化を見る迄には、一時論難爭議が八釜しかつた事は、孰れも同様である。

英吉利は特にお話する價値がある。同國に於て女子は餘程以前から瑞典式を用ひてゐた。然し英國國民の事であるから、必ずしも之に熱中するといふでもなく、女子の一部は獨逸式を用ひて居るといふ風で、つまり孰れにしても餘り盛んで無かつたのである。然るに返來軍人間に於て、盛にこの瑞典體操が攻究され、海軍先づ之を用ひ、次で陸軍にも及び、其の結果は教師を丁抹から雇ひ、熱心に之を行ふこととなつたのである。學校特にロンドンの小學校なども、今や改良を唱へてゐるから、將來必ず見るべきものがあらうとおもふ。英國の中等以上の學校では、從來何式によらず體操といふものは行らなかつたが、有名なるイートン、カレーヂの如きすら、卒先してこの瑞典體操を入れ、教師を二人までも瑞典まで留學させ、器械もわざわざ取寄せるといふ様に、凡てこの式を採用する勢である。イートン既に然り、他も推察することが出来るので、將來に於ける希望は輝いて見えるのであるが、然し

現下は至つて振つてゐない。斯様に瑞典體操は、國々によりて適用は多少異なるも、主義の普及は一貫してゐることを知ることが出来る。

次に、瑞典體操そのものも、其の方法上に於ては益々改良されつゝあるので、簡単に話して見ると、北米合衆國に入りて女子に行はれた結果、今では米國女子に適した風が案出され、根本の大方針はそのまゝであつても、方法は大に異なつてゐる。英國の女子に行はれてゐるのも同様で、英國女子に適すべく改良されてゐる。丁抹などでも、又自國に適する様に、大に改良を加へてゐる。且つ瑞典の本國に於いても永き經驗によつて漸次に改良を施して來たので、最初の着眼の方針は決して改まつたわけでは無いが、その方針によつて立てた方法は變つて來た。元來この瑞典體操は最初は軍人に適用せんが爲に案出されたのであるから、學校生徒に施すには自然變るべきが當然である。特に女子に對しては一層考案を要する譯である。それで、瑞典では現時に於て適用といふことは米國などほど進歩してゐないけれども、經驗は種々の事を教へて時々刻々に改良進歩する様に見受けられる。

第二 遊戲の種類、程度及其の利害

第二に遊戲である、遊戲に就いて代表すべき國を挙げれば先づ英國及び北米合衆國の二である。就中英國は實に遊戲に於ては世界の模範國ともいふべきで、縦より横より上より下より、孰れより觀察し

ても世界第一である。その遊戯は英國國民の孰れの部分、孰れの階級にて普及してゐるので、貴賤上下共にこれを楽しみ、東洋其の他何處の殖民地と雖も、英國國民は遊戯なしには生存することが出來ないといふ有様で、殆ど國民一般の天性となつてゐる。故に人類に要する運動としては、最も其の精神骨髓を得たものである。且つ英國人の遊戯する方法は、極めて高尚潔白で毫も賤しいところがなく、學校等にては勿社、下等社會でも、決して卑怯未練のことをしないといふ點に着眼し、勝敗といふことの外に、氣高いところを求めて楽しんでゐる。實にこの二點は我國國民が最良の参考とすべき美點と信ずるのである。然し最近に至りては、米國其の他の感化をうけてはならぬと警戒してゐる。若しも勝敗に重きを置きて學校の課業を怠る如きことがあつては一大事であることを考へてそれ／＼注意を怠らぬ。又普通一般の遊戯に於ても飽まで歴史ある美點を注意して、勝敗の爲に之を捨つるに至らない様にと、警戒してゐるのである。

北米合衆國の遊戯は、種類も多く程度も一樣でないけれども、要するに勝敗に熱中して如何にして敵に打勝たかといふことに工風を凝し研究を積んでゐるのは實に感服の外は無いのであるが惜しいかな其の結果は選手主義に傾き、チャムピオンは多くの遊戯者から選むといふ選手では無くて専らこれを職とする専手となつて仕舞つてゐる。勿論野球の如き等に一種の商賣人があつて、之を本職の業務として居るものがあるが、これは云ふまでもなく勝敗を主眼とするのである。而して米國自身に於ても

之を例外視し、學校生徒等の選出せる選手にして、この商賣人的の者と試合をすると仲間を外して仕舞ふ。決して再び學校同志の試合仲間には入れないのである。彼様に専門的に陥る弊風を矯めんとするにも關らず、今日の勢では殆ど如何ともする能はざる情況がある。要するに米國の遊戯は少數の者が試みて、多數の者はたゞ見て楽しむばかりであるから、工風研究に努力するといふ點に利益が無いとは謂はれないが、之を英國の遊戯が多數が試みて多數が楽しむといふに比して、利不利の如何は明白である。今や米國の具眼者は大に之を憂ひ、普及的一般的のものにせんことに努力してゐるが、現状は全く専門的、商賣人的に傾いてゐるのである。

次に瑞典、これは元來瑞典體操の本来本元であるけれども氣候の關係上自然と室内運動が盛であつて、今日の所謂戶外遊戯といふものは微々たるものであつたが、輓近になつて非常に奮勵し、實地に目撃した所では中々盛んである。ロンドンで開かれたオリムピック、ゲームにも、瑞典は好成績を示したので、假りにこの競技が遊戯の盛衰をはかる尺度でありとすれば、恰も世界の第二位を占めてゐるわけである。

獨逸は、體操が主で遊戯はあまり注意されなかつたのであるが、最近の傾向では又大に戶外遊戯の必要を認め男女ともに之を行はしめんとしてゐる、然し現在のところでは、未だ見るべきものが無く、オリムピック、ゲームでは、獨逸は殆どあれども無きが如き地位である。このオリムピック、ゲームに冷淡

なる態度は、將來には感服すべき結果を生ずるかも知れないが、今日までは要するに獨逸が遊戯に重きをおかなかつた證據と見ることが出来るのである。

第三 オリムピックゲーム

瑞典及獨逸が戶外遊戯に着眼した原因に就て、素人の眼に映する觀察は、オリムピック、ゲームの影響といふことが出来る。このオリムピック、ゲームは、昔 그리스國に於て四ヶ年毎に開かれ、爲に希臘の人心を鼓舞激勵したので、嘗に遊戯のみならず、文藝の上にて、全希臘人を統一した一大祭典であつた。その精神をとつて、世界各國の人類を遊戯の上から一場にあつめ、精神上の統一を其の間から始めんと企てたので將來は文藝等にも及さんとの計畫であるが、發起者は佛蘭西國で、第一回は希臘、第二回は巴里、第三回はセントルイ、夫れから第四回は昨年倫敦で開かれたので、各國持ち廻りに毎四年に開催することになつてゐる、但し千九百六年希臘で開會されたのは、臨時のものであつて右の順序に據つたものではない。さてオリムピック、ゲームスで行ふ遊戯の種類は、各國に共通のものとるので、決して一國特有のものを行はない。例せば英國のクリケットとか、米國ベース、ボールとかいふものは採用しない。このオリムピック、ゲームスは世界的に觀察して頗る結構のものであらふが、我國が之に参加するといふ一段になると、頗る考へなくてはならぬ、即ちこのゲームスが最初希臘で

勃興し、後遂に亡んで仕舞つたところの歴史を反省することを忘れてはならぬ。當時弊の極まるころ、勝敗に重きをおき、僅少數の選手に一國の運命を荷はすといふ如き間違つた考を起すに至つたのは、歴史の證明する所である。今日再興されてゐるオリムピック、ゲームスも、亦或はかゝる歴史を繰返さないとも限らないから、此の點は特に注意を要すべきもので、自分も爲にわざ／＼倫敦に赴き觀察したが、其の結果として一方には頗る結構であるが、又一方には大に考へものであるといふ、二様の感を抱いたのである。

第四 體操及遊戯の並行

體操遊戯は並行すべきもので、其の一のみに偏するは決して良策ではない。歐米でも之には深い注意を拂つて居るので其の實狀を視ても、皆二者並行を努めて居る。瑞典の如き、たゞ體操だけでは不足であるが爲に、遊戯を奨励した結果、近年に至り長足の進歩をなしたのは、大なる證據である。又小なる例をあげると、瑞典體操を行ふ一時間又は三十分の間にも、從來の如く柔軟體操や、器械體操ばかりでなく、簡單なるゲームを加ふる如きは、即ち之である。それから英國の如きは、遊戯は世帯ひと人も許し自ら任じて居るのであつたが、こればかりで、立派な體格を作り、完全な體力を養ふことは困難であることを悟つたので、前に述べた通りに瑞典體操を行ふことになつた。獨逸の如きも、元

來體操の國で、特に屋内に於て之を行ふことを主として居たのであるが、これも近來になつて、戶外體操戶外遊戯をやらなくてはならぬといふことを覺つた。然し該國は深き注意を以て、遊戯の選手が専手とならない様に努めて居る。

第五 體操遊戯上考慮すべき要件

つらく諸外國の情狀を通覽するに、體操遊戯の上について考慮すべき點は二つある。即ち一は、何事をも試みやう、偏く凡ての種類を採用しやうといふ結果からして、濫に用ひるといふ弊に陥つてはならぬことである。今日に至るまで、古今東西の人類が行つた體操遊戯は非常に澤山であつて、たゞ現在に行はれてゐるものを數へても、數へきれない程である。ものには絶對不可といふことは無いから、斯る多數の體操遊戯には、それ／＼長所がある。然し其の長所を盡く採用せんとすることは到底不可能であつて、我國に行はれてゐるものだけでも、一々は行ひ難い。強ひて行はんとすれば散漫不統一の弊に陥るのである。それから第二に、統一して選用する上に於て、動もすれば或ものに偏してはならぬことである特に自分の知つて居るものに偏して、それに拘泥することは往々見るところである。體操遊戯とも其の精神主義を研究して之を選用するは、結構であるが、偏するといふことは頗る悪い。専門家の陥り易い弊として一方に忠實で、一般を達觀することを怠るのは、深く警むべきことである。

る。

第六 體操遊戯は飲食物と同様である

最後に一言するのは、この體操遊戯といふものは、人類生存上からいふと、飲食物と同位であつて、これ無しには決して完全な生活をする事は出来ないものである。飲食物に就て毎日どの様にとつてよいか、如何いふ種類を選び如何な料理をして飲食するか、といふことに、充分の研究を要する如く體操遊戯にも亦研究を要するのである。二十世紀の人間は、歴史的前世紀の人間とは異なるものであるから、それ相應の體操遊戯を要する。日本人には日本人相應のものを案出せねばならないと思ふ。勿論斯道には共通の原則はあるが、時代により國民性に應じ取捨加減せねばならず。更に細いところになると、老幼、男女により、體力の強弱、職務の如何等によつても、之を加減することも必要で、朝夕、晝夜、晴曇、寒暖、室の内外等も、考へねばならず、國民一般に通ずるものと、學校生徒に都合のよいものとも、區別する必要があらむ、要するに時代個人の必要に應じ、偏せず又濫せず、且つ經濟上から見て適當なるものを行ふことは、將來各方面の方々と共に研究すべき問題と思ふのである。

(帝國教育)

四、體操教育の過去及現在

我國の學校體操に關する留學以來の研究に就ては、此れまで纏めて發表したことはありませんでしたが、今日は茗溪會の總集會があり、上京中の中學校長の方々も多數御出になつて居るからして、特に此の中學校長諸君に對して敬意を表し我國の學校體操の中の、中等程度の體操に就て、主としてお話をしたいと思ふ。

丁度此の席には坪井先生も御臨席下さつてを。我日本に於ける體操に關して大功勞のあらせらるゝ坪井先生の前に於て此のお話をする事は、特に非常に光榮を感ずる次第であります。

第一 先輩の偉功

我國の體操に就て先輩の方々の功勞の偉大であつて没すべからざる事は、決して忘れてはならぬ事であると思ふ。勿論世の中が進むに従つて、先輩の行つた事が、悉く完全でない事を發見するのは何處の國でも同じ事である、が之が爲めに其の人々の功勞を忘れてはならぬ事はいふまでもない。即ち先輩の方が築かれた基礎があるからして、後の者が發展して行く事が出来るのである。其の點からして、吾人の責任の大なる事を悟るのである。即ち先輩の功を受継いで足らざる所を改良して行くのは、後

から進む者の責任である。我國の學校體操をして世界の進歩に後れしめない様に心配するのは後進の義務である。でさう云ふやうな心で今日のお話をする積りである。

第二 普通體操の系圖

吾々は吾々の出發點を定め、未來の改良を工夫せんがために、先づ過去の進歩を反省せねばならぬ。私の狭い經驗に依て、先づ第一に舊來の普通體操、第二に兵式體操、第三に瑞典體操、それに就て反省的の所觀を次第に演べて行かうと思ふ。そこで第一の普通體操。之は其の源に遡つて段々考へて行つて見るといふと、坪井先生を以て我國第一の功勞者日本の普通體操の父と呼んで宜からうと思ふ。先生の又其の先生は米國人のドクトル、リーランドと云ふポストンの人である。而して其のドクトル、リーランドは米國のアマーストカレッジを出られた人であるが其處の先生はドクトル、ヒツチコックと云ふ人である。此のドクトル、ヒツチコックにも亦其の先生がある、それはダイオ、ルウイスといふ人である。で此のルウイスと云ふ人が亞米利加の新體操といふ者を工夫してそれが漸次日本に來た譯であるが併し此の人も突然考へた譯ではない。其の源を尋ねて見ると獨逸のスピースと云ふ人から出て居ると云ふ事を認める事が出来る。そこで私は坪井先生には親しく教を受けドクトル、リーランドにはポストンで會ひ、そしてドクトル、ヒツチコックにはアマーストカレッジで會ひ、唯ダイオ、ルウイスに

はもう亡くなつた人であるから會ふ事は出来ないが、まあ随分と深く源を尋ねた積りである、そこで其の経験から悦ばしく思つた事が三つある。即ち一はアマストカレーヂは米國に於て第一着に體操を正課に入れたところの大學である。我國の學校體操といふものが此の最も歴史ある場所から流れ出たと云ふ事は甚だ愉快に感ずる處であるそれから第二に悦んだのはダイオルウイスと云ふ人はどう云ふ事で此の體操を世の中に奨励したかと云ふと、一體此の人は社會改革者で、即ち宗教家である。で、此の社會の風俗と云ふものを改良しやうといふ事の熱心からして、歐羅巴各國等を廻つた結果、心を善くするには身體を好くしなければならぬといふ事に氣が付き、それからして此の體操を工夫するに至つたのである。さうして見ると我國の學校體操と云ふ者が唯だ體操といふ上から流れ來たのではなくして、社會改良の爲めに興つたものであると云ふ立派なる歴史を有つて居ると云ふ事も亦愉快の一つである。それから此の獨逸のスピースと云ふ人は、學校體操殊に、女子體操に就て最も大功のある人である。で獨逸の社會體操は別に其の人もあるけれども、此の學校體操に就ては、殆ど此の人が最先に工夫したといふても差支ない位である。即ち我國の學校體操が斯る人に間接ながらも關係を有つて居ると云ふ事は一つの愉快に堪へない事である。

第三 輕體操と重體操

そこでさう云ふ種々の悦びがあるにも拘らず、又驚かされた事も澤山ある。先づ其の一は、従前我國の體操は亞米利加式とは謂ひ條、獨逸からも入つて來たと聞いて居つた。而して獨逸體操と云ふと、其の獨逸體操の父と呼ばれるヤーンと云ふ人の體操ばかりと思つて居つた。ところが豈圖らんや、我國に於て今行はれて居るやうなところの體操はヤーンのものではない。ヤーンのものとは全くそれとは反對に、極く雄壯活潑なところの器械體操などを主としたものであると云ふことが解つた。さうして其次には我國の體操は間接に此のスピースと云ふ人から出て來たと云ふ事を言ふたけれども、其のスピースの行つた總てではない。即ちスピースと云ふ人の行つた體操を見るといふと徒手の體操、手具體操器械體操といふいろいろのものが雜つた者である。即ち其の點から言へば此の普通體操といふものはスピースの所謂徒手並に手具の體操丈に過ぎないので、器械體操と云ふものはない。それから又其のアマストカレーヂで行り來つた所の體操を見ても、所謂輕體操と重體操との兩方を併せた者を始終行つて居つた。斯う云ふ風で此の輕體操ばかりで其の一時間を充たすと云ふやうな、體操の教授法は、私の觀て來たところでは何處にもなかつた。それにもう一つ種々の體操を一所にやる中に輕體操は能く全體操の中に統一してます、其の特色の部分だけを發揮して居る。例へば道具でお話すると、彼の啞鈴など、云ふものも鐵啞鈴が始めで、之れから木の啞鈴が出來た。何れも始めは重くて大きいものから始まつたのであるが、近頃では非常に輕くて小さいものになつた。それから球竿、ワンズ、此の球竿にして

も元は鐵のものと木のものとあつた。それで鐵のものを用ひて居つた者も今では皆木のものをを用ふるやうになつた或日或場所て面白い事を見た。それは木を黒く塗つてさうしてさも鐵であるかの如くに見せたものである。是はよく鐵から木に變つた變遷の跡を説明するものである。それから棍棒に就て云ふても、御承知の通り、棍棒はアメリカン、インデヤンの武器で、固より重くて大きいもの、之を體操の方に用ひても亦一般に重くて大きい者であつた。所が次第に輕くて小さいものになつて、今では輕いも輕い實に輕い者になつて仕舞つた。そこで従前の棍棒といふものは力持でも養成するかの如く考へられて居つたが、今では女子供にでも適當したもの、否最も女に適當したものと云はれるやうになつた。要するに此の輕體操に用ゆる種々の器械は、其の輕妙なる體操の特長を發揮する爲め、極めて輕くなつて仕舞つて、それで此の重い部分、重いのを以てやるなど、云ふことは、活潑なる器械體操の方に譲つて仕舞つた。即ち輕體操は輕いのが特徴其の重體操は重いのと活潑なのが特徴といふやうに即ち各々其の特徴を適所に利用するやうな事になり來つたのである。

以上が彼方に行つて段々調べた中に驚ろいた所の有様である。翻つて我國の過去について見ると體操傳習所といふものがありましたことは世人の熟知する通りで、其の體操傳習所に於て行つた所の事柄を見ると、其の課程の中に男の體操、女の體操といふやうな名もあり又輕體操重體操といふやうな名もある。又自分が中學生で居つた頃に此の體操傳習所の第一回の出身で、即ち坪井先生と同様にドクト

ル、リーランド氏の一弟子と云ふ人が教はつた事を回想して見ると云ふと、矢張此の輕體操とそれから種々の器械體操とを教はつたといふ事を記憶する。其の上自分の僅かの經驗ではあつたけれども、畝傍なり姫路なりで生徒に教へて居る間にも、始終此の普通體操と器械體操と兵式體操などいふものは併行して教へる事が正當であると云ふ事を経験したものである。これを考へると實に曩に驚きと云ふものが機を見るに疎かつたといふことが今氣が附く位のものである。そこで歸朝後我國の現状を極く狭い區域ではあるけれども實際見た處に依ると、其の意を得ざる處が多く見える。即ち或は舊式の普通體操其の者ばかり繰返して居る。又或人は輕體操でなくてはならぬものをば無理に嚴重に行なはうとして居る。又或人は連續體操と云ふやうなもので、矯正體操又は重體操でなければ出來ない處のものを皆連續的にやらせやうなどして居る。要するに輕體操を相當の處に用ゆると云ふ事を知らないやうである。即ち適材を適所に利用するといふ事を知らないものと謂はれるやうである。

第四 兵式體操

兵式體操は兵式教練と兵式體操といふ二つに分けてお話するのである。で第一の兵式教練、此は米國でも英國でも獨逸でも瑞典でも、其の外各國とも皆其の國其の國の兵式教練があつて學校の教練も皆其の國の兵式教練に準じて居る。そこで我國の兵式教練といふのは何處から出たものであるかといふ

と即ち最初は和蘭式から出で、次には佛蘭西式に成長して、獨逸式で改良せられ、今日では純然たる我日本のもとの成就して仕舞つた。それから教練其の物に就てはまあ是は日本軍隊が立派なると同様に他に求める所などはあまりないかと思ふからして、此の事は深く言はなくても宜からうと思ふ、唯外國の中等程度の學校で行つて居つた兵式教練の二三の例をお話して見やうと思ふ。

第五 歐米の兵式教練

亞米利加のボストン及びワシントン府などの中學校では皆兵式教練と云ふのをやつて居る。然も其の生徒間は學校大隊を編制してをる、各學校生徒悉く集つて練兵するなどのこともある。これから瑞典の中學校の生徒も瑞典體操の一として勿論兵式教練を行つて居る。そこで最も感服したのは實彈射撃で、之をば全生徒に實行させて居る。尤も其の時期は秋の學期の初めで丁度九月十月の間である、其の期の終りの時などには中學のみならず小學も大學も悉く大集合して、さうして此の射撃大會を開催する。で此の射撃大會には陸軍大臣が出席して其の成績の良いものなどには陸軍大臣自ら賞品を授與するやうな事までやつて居る。でそれに似寄つた事を瑞西其の他の國でも行つて居るさうであります。私はそれを見る機會をば得なしたが、併し行つて居ると云ふ事の事實は、其處に行つて種々の設備を見て略同様であると察することが出來た。

最も意外であつたのは英吉利青年の兵式體操であつて、英吉利はあゝいふ國であるから兵式のやうなキチン／＼としたことは行つて居まいと思つた所が、豈圖らんや中等程度の學校等にはケーテツコー即ち此の將校候補隊と云ふやうなものがあつて、平生も課業の済んだ後で練兵なり射的なりをやつて居る。殊に夏六週間ばかりの間テントキャンプと言つて、天幕生活を陸軍の原にやつて居る。それは何をするのかと云ふと、各學校の生徒が陸軍兵士の服裝をして、さうして此の天幕を野原に（軍隊の露營する通りに）チャンと張つて、其處に六週間宿營するのである。朝から晩まで或は體操或は練兵或は野外演習、射的など、いふ事に力めて居る。之は勿論近年の事である。南阿戰爭に懲りて居る處へ以て行つて、日露戰爭が起り、英國は同盟國として我日本を見たものだから、益々斯う云ふ兵式教育の必要を認めて、斯う云ふ風な寧ろ他國で見る事の出來ない處を、やると云ふやうになつたものと見える。で此の天幕生活を私が見に行つた時に取り別け感慨に堪へなかつたのは、英國の青年の散兵運動などが實に敏捷で、洵に我日本の日露戰爭中の練兵の遣り方に誠に能く似て居つたことである。之は似て居る筈である。彼國では先に言ふた南阿戰爭に依て經驗を爲し、兼ねて日本を重んじた處から、斯う云ふ練兵の如きは、主に日本の陸軍に則つたのである。我國では學校生徒などの體操や演習は所謂、兒戲の物真似のやうな心得で居つて、到底兵隊の様には出來ないものと思つて居るものもあるのに、英國の青年は先んじてもう日本の軍隊の通りに、寧ろ敏捷にやつて居るといふ事を見ては、實に

世の中は油断のならぬものであると云ふ事を思はざるを得なかつた。そこで此の兵式に就て能く人の言つて居る所をお話すれば、佛蘭西に於ては彼の普佛戦争に敗れた結果、一時非常に獨逸に復讐をしたといふやうな事の爲に種々の事をやつたのであるが、其の中に此の兵式體操といふ事を熾んにした事も亦著しい一つであつた。所が何時の間にか此の兵式體操などは止めになつて仕舞つて居る。所で佛蘭西の獨逸に對して種々の事をやり、後に之をやめたのは兵式だけじゃアないからして、殊に佛蘭西のやうな氣の早い國民が突然に起し、突然にやむと云ふ事は別に珍らしくもないので、之は餘り參考とするに足りないと思ふ。

それからもう一つ獨逸には兵式體操のないといふ事を言はれる。成程獨逸の學校などを見ると銃の兵式教練はないやうである。所が獨逸のやうな陸軍國で此の兵式教練がないと云ふ事は鳥渡受取れない事であるから能く彼國の事情を見ると云ふとないどころではない大有りである。然も體操に就て言ふと現今の體操でも、ヤーンのやつた體操でも、亦學校の體操でも、其の前後の紀律など、云ふものは全く紀律的で夫れ全體が寧ろ皆兵式である。で其の一例をお話すれば私が或女學校丁度日本の高等女學校といふやうな所を參觀に行つた時に、其の下級の生徒日本で謂へば小學生徒の如き者が、隊列を作り、歩調を取り、砂利を踏み鳴して正々堂々と進退する所を見た。女の子にして斯う云ふ有様である。男の子などは説明せずとも解る事と思ひます。即ち獨逸に於ては鐵砲を持てやる所の兵式教練と云ふ

ものはないけれども、總ての遣り方が皆兵式教練的に出來て居るといふ事が解つた。學校の兵式教練などいふものは精神を作るのが目的であつて、銃を持つとか持たぬとかなどいふ事は之は方便の差異のみである。で銃を持たないから兵式教練でないといふやうな考へを持つたのは、是は實に近視眼であつたと云ふ事を發見したのである。

第六 日本の有様及兵式教練の精神

翻つて我國の現在の兵式教練は何うであらうかと考へるといふと、此の中學校の體操は全體あまり感服することは出來ない。が併し先づ比較的良いのはまア此の兵式教練であらうと思ふ。之は大に悦ぶべき事であるかも知れないが、今申す通り比較的であつて決して完全だといふ意味ではない。殊に將來の進歩を圖る上から考へて見るといふと注意しなければならぬ點が中々多いやうである。此の中學校等の體操の先生に二様ありますが、普通體操の教師は兵式教練の事に就ては餘り深い考を有つて居らないやうであり、軍人の教師などはシツカリ遣る積りではあらうけれども軍隊と學校との異なる所などに氣が付かず、又其の活用の才がないので、或は無理にやらうとしたり或は鳥渡やつて出來ないものだから學校程度の教練は斯んなものかなと思つて自暴自棄して居るといふやうな事を見るやうである。殊に最も考へなければならぬ事は、此の兵式教練の主なる目的といふものは、軍事で云へば軍紀

を養成する處の訓練、學校で云へば學校の秩序、學校の紀律を養成する方便の一として立てられて居る事である。然るに學校長以下職員全體が其の大方針を了解する事がなく、獨り體操教員などに任せ、他は袖手傍觀して居るのも少くない。一校の紀律秩序等に關する訓練の事になつては、校長以下全校職員が協同一致してやらなければ出來る事ではない。處が其の統一を缺いて居る事があるやうであるから、之は大に注意しなければならぬ事であらうと思ふ。それから更に小なる事ではあるけれども、もう一つ言はなければならぬ事は、是は中學には餘りないやうであるが、小學と關係ある中學の事であるから考へて置く必要があるからして言ふのであるけれども、此の普通體操の方で準備運動又は體操科に於て一定すべき必要ある事項として實は此の教練と同精神のもの即ち「右向け、左向け、廻れ右」等の事があるがさう云ふ事柄です。特別に學校用のものとして作つたやうである。其の爲に男はどんな風にするや、女はどんな風でやる。小學校の小供はどう、高等科の子供はどうといふやうなものが出来た。最も可笑しいのは師範學校になるといふと、普通體操の先生に教へられる時には普通體操の向方で、兵式の先生に教へられる時には兵式體操の向方、全く同じ學校で同じ體操であるものを其の先生に依て使別けをして居ると云ふやうな事も見た、で此等は從來迷うて居られるやうであるけれども、深く考へる事も要らずに、我國に於ては勿論我邦の軍隊の教練に準じて行ふべき者であるといふ事は論ずるの餘地もないのである。唯子供にやらせる事女にやらせる事が其の教授の方法、其の遣方の程度固より幾分の變化有るべき事は、申す迄もない事であるが、大體に於て陸軍の兵式教練を基準としてやるといふ事は當然の事であらうと思ふのである、以上で兵式教練の事が済みましたから今度は。

第七 軍隊の體操

軍隊の體操といふ事を簡単に述べて見やうと思ふ。で此の軍隊の方では、徒手體操及び器械體操といふ事になつて居る處が之は前の普通體操の方で述べて置いた輕體操及び重體操といふのと同じものである、即ち徒手體操は輕體操の一部、器械體操は重體操の中の主なるもので、取りも直さず之は普通だの兵式だのと別つべき性質のものではない。さう云ふものは子供や女子には何、少年や青年のにはどれ、壯丁軍人のはどれと云ふ様にそれ／＼適用する人に依て其の種類を變へるに止まるだけの事で、元來が同様の性質のものである。之であるから此の事に就ては歐米何れの國に至つても無理に之を兵式體操といふやうに名を命じて居るのは何處にもない、獨り之れ有るのは日本の學校だけである。之は大に間違つて居ると思ふ。それで我國の軍隊の方の體操が何ういふ風に變遷をして來たかと云ふ事を考へると、一層心細い點が出て來る。即ち我國の軍隊は教練の方が先刻申す通り和蘭から佛蘭西、獨逸今は日本のものといふやうに發達したにも拘らず、體操の方は先づ佛蘭西其の儘で、今日まで繼續されて居る。之は各聯隊を見ても、幼年士官學校を見ても、本部の戸山學校のを見ても、何處に行ても

ありく見へて居る所である。そこで唯一つ大に参考として、又感服すべき事は軍隊の方では、其の經驗に依て昔の佛蘭西式其の儘ではなくして度々の改正を加へて、徒手にしても器械にしても極く簡單のものにして仕舞つた。即ち學校體操などのやたらに要らない者までも變化を加へて混雜させて置くといふ事に對して實に好い他山の石であると思ふ。併ながら簡單のものになつた事は宜いけれども、他の日本の總ての事柄が知識を世界に求めて世界の長所を取つて改良してあるにも拘らず、此の體操の一點に至つては簡單にはなつたけれども、或は獨逸からなり或は瑞典からなり何處からでも採つて來て自ら改良を加へた點は殆んど無いと云つて差支ないやうである。之は我國としてお耻かしい事ではないかと思ふ。そこで忌憚なく言へば、今の軍隊の體操は兵卒に用ゆるものとしても完備したものと云はれないやうである。さうであるから此の軍隊の體操を學校に其の儘用ゆるといふ事は尙更不適當である、繰返して言ふ假令軍隊のものが宜いとした所が、それは兵隊に適用する爲めに宜いので、青年少年の如き頻りに發達をしなければならぬ所の生徒に用ゆるのには不適當である、況してや軍隊其の者に取つても完備でないのだからして、益々之を學校の生徒に適用する事は難しい事と信ずるのである。

第八 瑞典體操

此の瑞典體操といふものも段々其の源を遡つて考へて見るといふと、従前普通體操法の様に偶然にも米國經由のものである。即ち井口あぐり女史はボストン體操師範學校を卒業せられた。それからドクトル川瀬元九郎氏も即ち同じ場所のボストンで修業せられて來た人である。即ち我日本の瑞典體操に就て最も功勞ある二人が米國から來たのである。そこで米國に瑞典體操といふものがどうして來たのかといふと、之は米國に移住した處の瑞典人が廣めたのである。殊に一千八百八十九年來ボストンを中心とした處の米國に非常なる發達をしたものである。そこで元の瑞典本國にはどういふやうになつて居つたかと云へば、それは今からざつと百年前に、此の瑞典の體操の開祖リングと云ふ人が工夫して、それが後繼の絶へざる研究と改良とを経て今日に至つたのである。私はボストンの體操師範學校にも居り又瑞典の中央體操練習所にも居た殊に瑞典體操は從來私の知らなかつた事でありましたから、尤も力をそれに用ひて其の實地をも必死に遣つたのであります而して其の實行中に、従前日本に居る間に見聞した處のものなど、甚だ異つた點あるを知つた。それを一二お話ししたいと思ふ。

先づ其の一として米國に行つて見れば、此の瑞典體操といふのは、主に女の間に於て居るのである。で自分が此の瑞典體操をやる最も好い學校といふので諸所方々探し廻したけれども、男の學校は見當らない。遂に自分は女の學校に特別の許可を受けて入學したやうな次第である。之で今日米國に於ける瑞典體操といふものは非常なる勢を以て蔓つて居る、けれども要するに先づ女子の體操として蔓つ

て居ると云ふ方が適當であると思ふ、男の方は餘り影響されて居らない。それで瑞典の體操は女子のみ適當するかの如く老へるかも知れないが、此は瑞典の本國に行つて見ると云ふと反對に顛倒した事實が見られて先づ驚かされたのである。本國に行つて見ると、中央體操練習所を始めとして都會でも田舎でも其の行つて居る處の體操はどう見ても寧ろ軍人的である。それで歴史を調べて見ると云ふと醫者の體操などを除けば當初は軍人が主にやつて居つたのである。瑞典の歴史を調べて來れば軍人の體操なのである。女子供がやるやうになつたのは極近年の事と言つても宜い。之に由て之を觀れば瑞典の體操は女や子供に適する處か男も男も男中の軍人に適當して居るといふものである。それから丁度それと同様に、獨逸の人などは之は最も女に適すると云つて女に用ひて居る。或人の説などを聞くと、之は男には不適當であると云つて居る。成程普通の學校などでは餘り遣つて居らないやうである。併ながら獨逸の軍隊にては却つて遠き昔から此の瑞典體操を活用して居る。やり方を見ても器械を見ても瑞典のものが非常に多いのである。殊に最近獨逸皇帝の命に依て備へ付けたと云ふ瑞典の新らしい器械まである。以上鳥渡見聞した處では、獨逸人が瑞典の體操は女には適するが男には適當しないと云ふは本當らしく聞ゆるが、實際深く入つて見ると獨逸でも男子中の男子即ち軍隊が其の通りに用ひて居るのである。何と驚ざるを得ないではないか。それから更に丁抹なり諾威なり希臘なり英國なり其の外各國の陸海軍なり學校なりを見ても、固より大體に於て一致して居るか鳥渡見た所では別のもの

ではないかと思ふ程違つたものが多い。故に同じ瑞典の體操と云つた所が全く同じものではない。各國に依て皆其の趣きを異にして居る女のやつて居るのも瑞典のものとは違ふ。男などのやつて居るのは無論の事である。之に就ては自分が最後に英吉利を去る時に英吉利の瑞典式を以て建て居る處の體操學校の校長、此の人は瑞典の婦人であつたが、親切にも私に告げて呉れた事がある。それは「自分は日本の婦人には非常に感服もし又従つて大なる同情を有つて居るが其の品性等には非常に感服するが何うも身體の點に於ては改良をする必要がある。それで改良に大切なる體操であるが、其の中で最も何れの國のものが宜いかと言へば我瑞典のものが世界的に宜しいと云ふことを信する、併ながら其の式は同じでも遣る人が違へば従つて之を變へてやらなくてはならぬ。自分の經驗に依ても英國の女子は矢張英國の女子である。自分の國のやうに行かない事は澤山ある。勿論宜い事もあるが又不便もある。で之は英吉利の女子に適するやうにやらなくてはならぬ。一言にして言へば英吉利の女子は瑞典の女子のやうに強くない。それから考へると日本の婦人は英吉利のそれよりも一層弱いと思ふ。それを遣らすには英國人に就て適當するやうに注意して變へなければならぬ」。私はさう云ふ事を聞いて成程と思ふた。日本の女子の體育につき、將來永く希望すべき點は種々あるが、先づ此の學校長の言ふた如く體操を以て改めなくてはならぬ。で日本婦人の體格に長き昔よりの遺傳的習慣とも云つて宜い位になつて居るのであるから、餘程外國の婦人の體操よりは軟にしてやらなければならぬと云ふは當然であ

らうと思ふ。併ながら之は女の事、男の事に至つては外國の男子よりも或は一層精神的に優つた特長を備へて居るのではないかと思ふ。身體上の事では彼程出來ないかも知らぬが、精神的の事に至つては或は却つて彼よりも進んでやり得、又やらなくてはならぬと云ふ事も多いのではないかと思ふ。で之が瑞典の體操に就て感じた一端であります。

それで今まで演べたところの從來の普通體操の事、兵式體操の事、それから瑞典體操の事、此の三つの事柄に依つて我國の將來の體操はどう云ふやうにしたら宜からうか、と云ふ事を言ひ度いのであるが、それには最早時間もなし又先日此の中學校長會の最初の日に中學校の體操といふものは、どう云ふ風にして欲しいと云ふ事を申上げて置いたから此の中學校長諸君は即ち今日お話ししたのが諸國の事實で、先日お話ししたのが其の結論であるといふやうに考へて戴けば私の大幸であります。(帝國教育)

五、我國學校體操の將來如何

前回に於て歐米體育の一斑と我國體操の沿革とを述べた。然らば我國現行の學校體操は、將來果して如何に進歩せしむべきであらうかと言ふこと、これ慎重なる攻究を要する問題である先づ講演の順序として、學校體操の方針に就いて陳述しやうと思ふ。予は文部省に關係せるも、茲に述べんとする方針は決して文部省の方針といふのではなく、予一家の私見である。昨年前内閣は取急いで學校體操教

授要目として發表したが、あれは統一的整理の腹案である。所謂體操界は混沌たるに苦んでをるが故に、唯其の據る所を知らしめんとする草案に過ぎない。故に要目に非ずして統一案である。而してそは整理の案にして新設の案ではない。從來の體操即ち三十八年に於ける取調及其後の體操を統一するの目的である。故に調査の上からは従前の取調を利用するにあつて、新しく改革するのではない實行上に於ても。從來のものを整頓して行ふにあつて變更主義ではないのである。而して整頓する以上は比較研究して取捨選擇せなければならぬが、新しく作成するとは其の意を異にしてをる。更にわが國に行はるゝ學校體操の種類は、之を歐米諸國に比すれば、甚だ少ない。然れども之を取扱ふ根本的の素養なきため迷つて居る。わが國の現状は中等學校にても、體操教師の頭腦十分ならざるが故に成るべく迷はず實行せしむべく、簡單にし精選し以て亂用を戒める様にしたのである。之が時宜に適して居ると思ふ。實際に當りて日々行ふ所の教程はその人により學校によつて定むる所異れりと雖、大體の方針を示さずば、天下向ふ所を知らずといふことになる。統一案は凡て實行上のもので研究的態度ではない。實行と研究とは車の兩輪の如くであるが實際を主とせざる机上の研究は何の用もなきぬ、今日のものが十年も二十年も續くのは不幸である。體操は實行し研究してかはる方がよい、三十八年に調査したものは先づ實行せられねばならぬ。諮問案も各府縣より意見が文部省へ達して居るから當局もその手順をとるのであらう。予の意見として天下に望む所は先づ之が實行を必要とする事である。

我國の體操は年々歳々實行し研究せられ五年十年には改良して行く様にせなければならぬ。學校の細目等にも本年の實行的研究によりて來年の細目を定め今年と來年との實地研究によりて再來年の細目を定めるといふ様にせなければならぬ。其等の結果終には日本全體の改革をなすのである。斯くして迷ふことなく着々經驗によつて改善せらるゝのである。

以上は統一案より生ずる要目について望む所を述べたのであるが次には如何なるものを保存し、いかなるものを割愛せしかつて整理の細果は如何といふに、先づ従前所謂兵式に於ては教練は日本の學校體操中の一部分で規律的運動としては主要なる位置を占めるものとして行ふ。

器械體操は從來の中等學校は之によつて行つて居たが、之はその目的について利用するがよい。吾々は瑞典體操の主義によりて懸垂、跳躍に活用することに定めた。

徒手體操は、新兵を教育して完全なる兵士にするに用ふるものであるが、その内容を考へると吾々が如何に言辭を巧にするも、未だ幼稚なものとしか云へない。學校體操にくらべて遙かに劣つてゐるが故に用ひないのである。即ち教練と器械體操とは利用するを可とし徒手體操は採用せずといふことである。

次に従前の所謂普通體操では吾々は體操に普通や兵式の別は認めぬ。前調査委員の認めたものを更に一層深く認めたのである。即ち瑞典主義の體操は世界の體操であるが故に之を用ひた。

從來の體操に各個と連續との二つあるが連續することは、連續して効のある運動にかぎる。例へば平均運動の如く體力よりも心力に於て効のあるものは關節の運動など、同視することはできない。又懸垂、跳躍運動等は他のものと連續して行ふべきものではない。連續を反覆して効を奏する運動に限る。故に吾々は全體を連續するのは不合理不成立のものと認める。球竿、棍棒體操などを用ひ或運動丈を連續するのはよいと思ふ。主なるものをやつて餘力があらば、これも行ふを可とするのである。研究的の當校などでは大に進めねばならぬが普通學校の兒童には研究と實際とを混同しない様にして貰ひたい。

次は遊技、從來は體操と遊技とを別々に課し、上級生には行はせないといふ傾向があつた。去りとして凡ての遊技を體操の時間に課せんとするのは不可能なるが故に、遊技を左の二種に分けた。

一、體操と統一すべきもの、
二、教授時間外に大に獎勵すべきもの、

遊技は下級生には多く課し、進むに従ひて課業外に重きをおく。即ち中學以上には課業外に重きを置いた。而して中學生は遊技よりも體操や教練に重きを置いた。一週三時間位の體操時間では何もかもやることは出来ぬ我體を如何に養ふべきかといふことを知らしめる位である。生徒からいへば全生活に於ての方針を知る位である。

進んで柔道と剣道とのことである。予も之には苦心し將來も亦心配して居る。如何といふに此の道の採否は實に慎重の研究を要する、然かし事の善悪は眞摯にやつて見なければわからぬからである。徒らに机上の論をたゞかはすよりは實際行つて見るがよい。柔道剣道は今實際やつて居るから更に十分やつて見るがよい。予は今現在練習しつゝあるその道の人の大に實地研究をして貰ひたいと思ふのである。言ひ換ふれば本氣にやれ、本氣になれる所は本氣でやれといふのである。それで十分にやれる見込の處では正科に加ふることを得としたのである。

以上は極めて大體をいつたのであるが、文部省が近き將來に於て示すべき要目の精神を知るに参考とならんと思ひ申述べたのである。

次には我國の學校體操を發達せしむるにつき、改良すべき點は如何。これ特に將に卒業せんとする諸子に云はんと欲する所である。

改良すべき第一は形式及び種類の改良にあらずして、精神の改良即ち體操を行つて居る眞意を知るといふことである。體操遊技についても性質、特徴等を知つて行はねばならぬ故に精神的改良を望むのである。次に諸君と共に大に考へ大に改善すべきことは體操科に對して一般尊重の念足らざることである。先づ人に關する問題より言はん。小學校は全教員、中等學校は體操教師であるが體操を教ふればその人の價值が下る様に思ふものがある。實に憤慨に堪へないのである。他校に參觀に行つても、

校長と云へば優遇せられるけれども、體操教師といへば冷遇せられる。多くの當局者も亦體操教員の待遇は寧ろ低きが當然なりと思つて居る。體操教員その人を尊ばず。その道の旨はばれざるは固よりである。一言以て之をいへば國民一般に尊いことを知らないである。知るものは體操教師のみである。我國家には體操教師を根本的、持續的、永久的には成養する機關がない。わが高等師範に於ても臨時必要に應じて、専修科を設けることを得としてある位である。現在に於て他の諸學科の如くに教員を養成しない、實にわが國教育の方針としては缺けて居る。曩きに尊きを知るものは體操教師のみと言つたが、之もいひ過ぎかも知れない。比較的知るから斯様に云ふたのであるが、體操教員自身にも眞によく知つて居るものは少ないと思ふ。

體操教師は他の學科を望む。高等師範文科兼修體操専修科の卒業生中にも時には體操を受持つのを嫌つて他の學科を持つのを喜ぶ者がある。自ら輕じて人之を輕すといふ風である。これ自分の忠實、熱心、自信が足りないからのである。

故に非常の覺悟を要する。必要なものなれば天下に知らしめ益々進みて熱誠を注がなければならぬ。而して世の中には老朽するものと老熟するものとがある。益々退歩するは前者で進歩するは後者である。精神的に熱誠に行ふものは老熟するのである。利用の方法は年々歳々研究すればするに従つて熟練するものである。たとひ技術は若い時ほど出來ずともその教へ方は上手になるものである。年

を経れば技術の老退する代りに精神的力量を發展しなければならぬ。経験が多ければ多い程よい、實際的に人を育つことは年をとるに伴って上達する。然しこの精神的は若い時の努力、鍛錬のあるものでなければ出来ないものである。而して體操教師には徒に老朽して終るものが多い、御互に大警戒を要する。生徒の方面から言へば家庭のものが、體操の時間かといふと休ませる。體操を譽めるものも、遊びだと思つて居る。或當局者も亦そんな考である。體操と唯の運動とを混同して居る。生徒に體操の尊いことを自覺せしめねばならぬのには其の周圍監督者は一向無頓着である。女學校等にも體操時間を減らさうとして居る。生徒、教師共に尊び喜ばないのである。

次は設備について。第一我國は貧乏である、諸外國の如く富裕ならば言はなくてもよい。他學科に比して體操科の設備は不完全不熱心である。屋外運動場は備はつては居るが、唯不規律に遊ぶ場所といふ位である、十分に體操をやる場所とせられない。中學校等はまだよいが、一般小學校等にては何にもないといつてよい。屋内の設備は中學校にても非常に稀である。小學校令の第一條にも「身體の發達に留意して」とある如く、實に身體は大切である。一二年の幼年時代には體育が八分位である。然るにこの大切な理由を知りつゝ放棄して實際は之を顧みないのである。

屋内體操場は雨雪天の日生徒の遊び場所なきが故に設けるといふ位である。纏つた仕事をなすには屋外では出来ぬ。古今東西共に劍道などをやる時は必ず屋内である。然るに正科の體操を屋内でなすべ

き必要をば左程に感じて呉れぬ。雨降り等の時には休ませるか或はやつと机間で體操を行ふ有様、實に情けないと思ふ。

次は教具、之に對しても足らざる點が多い。運動の精神を本氣に考へざる結果教具の工夫もせず、軍隊の器械を真似て備へたるのみで教育的に出来て居らない。學校では多數教授の器械の工夫をせなければならぬ。諸外國の學校では一學級生徒の半數若くは四分の一位は同時に行はる。日本は之と雲泥の差がある。

體操は形式上よりも内容上に注意しなければならぬ、而して體操の内容を立派にするには其の實行の出来得べき設備を要する。法令の正科といふだけ備はりて實際の十分に出来ざるをば空文と云ひ、形式といふのである。貧乏だから設備が出来ぬといふが、各經費を調べて見ると他に比して體操科は非常に少い、全教育を心身二分すれば體育に二分一の費用でよい智德體三分するも三分一はかゝつてよい。然るに二分一三分一は愚か百分一にも達せないのがある。或師範にては一ヶ年に三十七圓といふのがあつた。ピアノに千圓或器械に五百圓といふ經費はあつても體操器械全部にたつた二百圓を要するといはゞ其の多きに驚くといふ有様である。體操科に對する尊重の念は實にあはれはかないものである。吾々は世の中が輕んずれば輕んずるほど勉めねばならぬ。十年前に唱へたことも十年後の今日に善いといふ様になるから着實に熱心に天下の人に知らしむる必要がある。世人は必要を感ずれば思の外や

るものである。昨年新潟縣はスキイのため臨時に一學校に五十圓づゝを支出するといふことを聞いたが之は必要を感じたからである。體操科はまだ必要を感じないから出さないのである、故に世の中にその必要を感じしめることが最も大切である。

體育の發展については予は諸君と共に極力之に従はんと欲するもの、茲に予が管見を述ぶる、亦此の意に外ならぬのである。幸に御参考ともならば望外の欣びとする所である。(體育)

六、體操科改良案

講演の要項

- 第一 我國體操の沿革
- 第二 我國體操の現状
- 第三 將來に對する希望
- 第一 我國に於ける體操の沿革

吾々は、吾々の出發點を定める爲に、又未來の改良を工夫する爲に、先づ過去の進歩を反省せねばならぬ。私の狭い經驗に依て、先づ第一に舊來の普通體操、第二に兵式體操、第三に瑞典體操に就て、

反省的の所感を演べて見やうと思ふ。第二の兵式體操は他日に譲りて茲には略するが、第一の普通體操は我國に於ける普通體操は、その源に遡つて見ると、明治十一年より十三年頃にかけて、設けられた體操練習所である。その時の教師は米國人ドクトル、リョーランドといふボストンの人である。そのドクトル、リョーランドは米國のアマストカレーヂを出られた人であるが、その又先生はドクトル、ヒッチコックといふ人で、この人は今現に九十歳以上の老齡に達して居られるのである。然るに此のドクトル、ヒッチコックにも亦其の先生がある。それは、ダイオルウイスといふ人である。此の人は千八百六十八年頃盛んに持囃やされた米國新體操法といふものを工夫されたのである。そこで我國の舊來の體操は、其の源を此處に發して居る譯である。即ち此の新體操法がヒッチコックに傳はり、リョーランドに及び、次ぎに我國に傳へられたのである。

併し、此の新體操法は工夫者ダイオルウイス氏も突然に考へ出したのではない。其の源を尋ねてみると、獨逸のスピースといふ人から出て居る事を認める事が出来る。全體此の人はどういふことで此の體操を世の中に奨励したかといふと、此の人は社會改良家で宗教家である。で此の社會の風俗といふものを改良しやうといふことに、熱心したのであるが、心を善くするには、先づ身體を善くせねばならぬ、といふ意見を持ち、偶々歐羅巴各國を漫遊したとき、獨逸のスピース氏の體操に感じて、此の體操を工夫するに至つたのである。してみると我國舊來の體操は大體に於て其の組織はスピース氏の流れを

汲んだものである。即ち米國を經由せる獨逸式といふことが出来るのである。次に、第二の瑞典體操。此の體操法は、今日世界到る處に普及してゐる、我國に來たのは極めて最近のことであるが。此の體操も亦従前の普通體操と同じく、偶然にも米國經由である。即ち井口あぐり女史はポストンの體操師範學校を卒業せられた方で、それからドクトル川瀬元九郎氏も、同じ場所のポストンで修業せられた人である。即ち我日本の瑞典體操について、最も功勞ある二人とも米國修業である。それでは、米國に瑞典體操が如何にして來たのかといふと、之は米國に移住した處の瑞典人パールンツセ、によつて傳へられたのである。併し之を唱導して普及に力を用ひたのは、ヘメンウエ嬢である。嬢は瑞典體操が女子に適することを主張し、自ら資を投じて教師を聘し、熱心に之が普及を計つたのである。之れが爲め一千八百八十九年以來ボストンを中心として、非常に發達したものである、それから次第に廣まつて、今日では中央部までも及んでゐる。けれども米國に於ける瑞典體操は、主に女子の間に行はれてゐるもので、男子には行はれてゐないのである。それで自分が、瑞典體操をやる最も好い學校をといふので、諸々方々と探し廻つたけれども、男子の學校は見當らない。遂に自分は特別の許可を受けて、女の學校に入學したやうな次第である。それで今日米國に於ける瑞典體操は、非常なる勢を以て蔓つて居るけれども、要するに先づ女子の體操として蔓つて居るといふ方が、適當であると思ふ。

それでは、瑞典本國の體操は、どうであるかといふと、米國のそれと全く反對の事實が認められるのである。中央體操練習所を始めとして、都會でも田舎でも其の行つて居る體操は、どう見ても軍人的である。それで歴史を調べてみると、醫者の體操を除けば、最初は軍人が主にやつてゐたのである。即ち軍人の體操なのである。女子供のやるやうになつたのは、極めて最近のことである、一千九百年頃のことである。それで今日でも中央體操練習所は、教師は勿論生徒も陸海軍の中少尉が主で、其の他の醫者、教師などは僅かである。此處に居つた間の自分の感じは、どうしても學校といふ氣はおこらぬ、軍隊に入つてゐる様な氣がしたものである。それで瑞典式體操は女子にのみ適するか如くいふのは全くの誤りである。男子も男子、しかも男子中の男子たる軍人的なのである。女子供に適するものは少くて、寧ろ適せないものが多い。

次に
歐米諸國に於ける體操の現状は如何。我國に於ける之が適用は、果して巧みであつたかどうか。といふことを演べてみよう。先づ獨逸式についていつてみると、獨逸式では色々工夫を凝らし、教程が種々様々になつてゐて、必ずしも一定してゐる譯ではないが、大體に於て、之を形式的にまとめると、米國に行はれてゐるものも、又獨逸本國に行はれてゐるものも、略ぼ五段となつてゐるのである。即ち

- (一) 諸行進、
- (二) 輕體操、
- (三) 器械體操、
- (四) 跳躍、
- (五) 遊戲、

諸行進とは讀んで字の如しで、別に説明を要しないが、大抵之を行ふ時間は約五六分間である。

輕體操とは、徒手の體操、それから、啞鈴、球竿、棍棒などの輕き器械を用ふる體操である、此等の器械は、以前はなるべく重量を多くするといふことを主としたものであるが、今日ではなるべく輕きものを尊ぶやうになつた。即ち球竿は、もと鐵の球を附けてゐたのが木の球に變り、今日では全く球を附けないものを用ひてゐる。啞鈴も、なるべく小にして輕きを選ぶのである。又棍棒も態々内に鐵を入れて重量を多くしたものであるが、今日では中空のものをさへ用ひてゐる、要するに、輕妙に運動することを主としてゐるのである。

器械體操は、鐵棒、吊索、梯子、並行棒などで、之等は主として懸垂の用をなすものである。跳躍は、高跳び、巾飛び、繩飛び、木馬（小にして高低自在なるもの）跳び、棒跳びなどである。此の運動と前の器械體操とに、最も永い時間を費やしてゐる。

遊戲は動作付き、競争遊戲、毬つき、行進遊戲などである。

次に瑞典式に於ける形式は、どうであるかといふと、大體十段位である。併し之は形式であるから其の適用は無論自由である。必らずしも一定してゐる譯ではない。兒童には五六段位なものもあるし、大人には二十三段にも分けてゐるものもある。今我文部省の體操遊戲調査委員の報告の形式によりて示してみれば、



(一) 準備 には諸行進と徒手體操を課するのである、前者は單に規律が目的ではない、従て體操前に既に足の運動をなしたものは、之を缺いて直ちに後者を課す。徒手體操は既に熟したもので、新教材ではない。

(二) 首及胸 之は

胸を張る運動で、首ばかりの運動ではない。弧状運動である。進んだものになると器械を用ひて右の圖の如き運動もする。

(三)懸垂 徒手の懸垂運動(單に上肢運動とは異つてゐる)次に器械によるものは、水平棒、吊棒、吊索、梯子などである。

(四)調和運動(平均運動) 之は勞逸轉換の理に基いて行ふもので、心身の調和をはかり、心を落ち付け、身を沈靜にするのである。之に用ひる器械は平均臺其の他色々ある。

(五)肩及脊の運動、腹、腰の運動

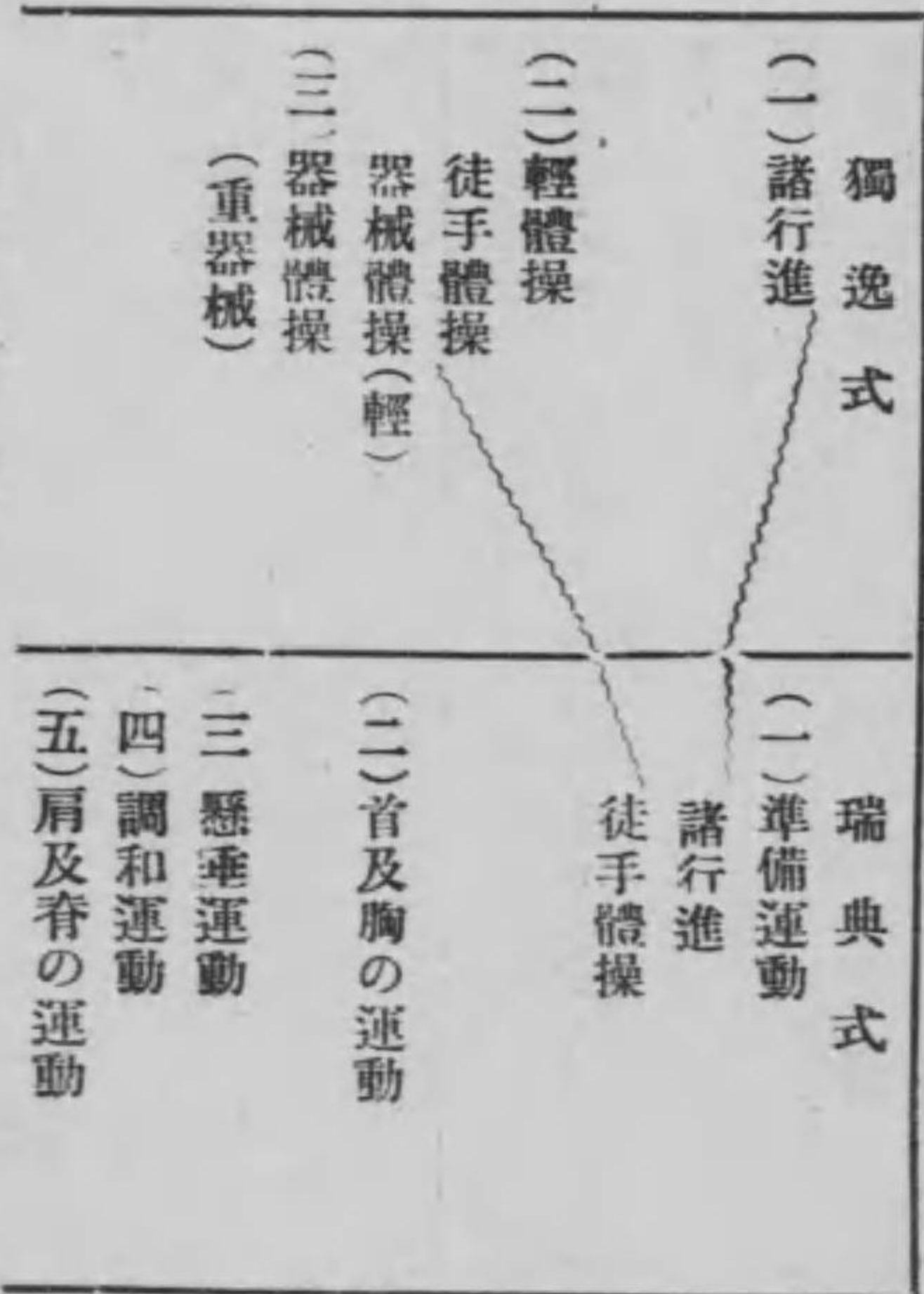
(六)跳躍 之は全く獨逸式と同じである。が瑞典のは全く軍人的で、自己の身丈を跳び得るものは尠くない。此の點は瑞典式の特質で世界一といつてもよろしい。器械は低いものから漸次に高く、狭いものから漸次に幅廣くすることの出来るやうに出来てゐる。

(七)遊戯 之は本來の瑞典式には、なかつたのであるが、獨逸流に學んで之を加へたのである。いはば藥に砂糖を加味したやうなものである。尤も女子には調和運動の際、跳躍運動として、舞蹈を課するので、こゝで別に遊戯を課せない。

(八)整理 此の段には、下肢運動、呼吸運動をやるのである。此の階段は獨逸式にはない、その理由として獨逸側の辯解を聞くと、形式としては之を缺いてゐるけれども、之に代用する運動は實

際行ふのである。即ち體操の終りに、水浴、湯浴をなさしめることは、やがてこの形式に相當してゐる。」といつてゐる。

要するに、獨逸式と瑞典式との兩者は 左程懸隔のあるものではない。形式としては、獨逸式が瑞典式ほど完備してゐないことは、いふまでもないけれども、獨逸の巧みな教師は決して瑞典の教師に劣らぬほどの教授をなし、又成績もあげてゐる。之に反し、瑞人の教師でも拙劣なものは、獨人に及ばぬものも尠くはないのである。今以上の兩形式を表にして對照して見ると、



四 跳躍	腹
(五) 遊戯	腰(體側)
	(六) 跳躍
	(七) 遊戯
	(八) 整理

最後に一言すべきは、兩者とも三つの基本形式の上に立てられたものである。三つの基本形式とは、

準備Ⅱ(温上)

運動(主なる)

整理Ⅱ(寒下)

を基礎としてゐるのである。

第二 我國體操の現状

以上は我國舊來の普通體操の由て來るところ、即ち獨逸體操瑞典體操に就て、その沿革及び現状について一斑をお話したのであるが、翻て我國に於ける體操の現状は、どうであるかといふことに就て、自分が歸朝以來の所感を述べてみやうと思ふ。日本從來の學校體操は極めて簡単な形式によつてゐた

のである。一例を上ぐれば、獨逸體操の中の輕體操を以て直ちに器械體操としてゐたのであるし、又瑞典體操もその強い烈しい運動を缺いて、他の一部分しか行はれてゐない。併し近頃、余が視察した二三縣の體操の有様、それから他の視察員の報告によつて綜合してみると、數年前の體操に比べて一段の發達をなしてゐることは事實である。之れは確に文部省の遊戯體操調査委員諸氏の研究になれる報告の力による事と信ずる。自分は此の報告に全々賛成であるとはいへぬが、併し大體に於ては、尊敬を以て之を迎へるのである。

ところが、實際之を行つてゐる人々の有様をみると、疑惑を抱きながらやつてゐるらしく、どうも力瘤が入てゐないものを多く見受ける。之れ一は法令の罪である。かの調査委員の報告は、實行上の法令となつてゐない、即ち舊法令は其の儘に現存してゐながら、更に此の報告を標準として示したに過ぎぬのである。又一は著書にもその罪を歸せねばならぬ。體操に關する意見が區々で、形式も色々異つたものが出でゐる。之れがため、世人は迷はされて、新舊體操の間に、彷徨しつゝあるためではあるまいかと思ふ。自分は此の現状を見て、我教育界の無見識を歎せざるを得ないのである。全體諸外國に於ては體操の種類が澤山ある。ところが我國では其の中の僅かに一二種だけ用ひてゐる。しかもその選擇、取捨に迷つてゐる。何れの體操でも其の適用さへ巧みであれば、即ち適材を適所に置きさへすれば、相當に効果はあるものである。そこで只一二種のものについて、その長短を論ずることを

止めて、宜しくあらゆる種類の體操中から適當のものを選擇して、之れを各種の生徒兒童に適用するやうにすべきである。さればそんなに迷ふことはいらぬと思ふ。要するに、新體操法が出て進歩した點は確かに認むることが出来るが、又一方には雜駁となつてゐることも亦事實である。そこで今後之等の迷ひを解き、充分に自信を以て實行することの出来るやうにするには、根本的原則を立て、適當な材料を選擇標準とすることが大切であると思ふ。ところが之を定むるには先づ今日我國に現存してゐるところの各種の體操について、夫々吟味をしてみる必要があるから、今順を追ふてしらべてみよう。

第一、矯正的のもの、

矯正術

柔軟體操(軍隊の徒手體操)

各個演習中のあるもの(瑞典式の矯正的のもの)

これ等は、名稱こそ夫々異つてゐるけれども、其の性質は皆同一である。尤も身體各部を均齊にするといふことは、二種の意味があつて、一は偏僻となつたものを矯正する消極的の意で、今一は完全圓滿に發達さすといふ積極的の意である。そこで此の種の體操は前者であつて既に一定の發達を終へたもので一種の偏僻あるものに課すべきである。未だ發達中途にあるものには適當してゐない。彼の

二十歳以上に及べる兵士だとか、青年以上の學生だとかには、此の矯正的體操の必要があると思ふ。

第二、發達のもの、

普通體操

輕體操

連續體操

各個演習(瑞典式)

これ等は、積極的に發育さすところの性質を有つてゐるから、之れが適用の時期は少年、青年である。

第三、鍛鍊のもの、

器械體操

重體操

各個演習中のあるもの(瑞典式の器械を用ゐるもの)

これ等は、皆身體各部を均齊にし圓滿にするといふよりは、心身を強く鍛へ上げるといふ性質のものである。それで之を適用すべき時期は青年以上である。青年といつても特に男子にのみ必要である。尤も如何なる時期でも、此の鍛鍊といふことの必要でないといふ時はないけれども、體操として課するのは、幼年少年の時期には適當でない。

第四、規律的、訓練的のもの、

隊列運動

規則的運動

運動準備(調査委員の所謂)

兵式教練

これ等は、協同的、秩序的の性質のもので、充分の事は、心身ともに一定の發達を終へた、青年以上のものでなければ望むことは出来ぬ。けれども幼年少年の生徒でも、一旦數十人が一團體となつて、生活をするには、常に秩序ある動作をしなければならぬ。又自己一身を立派にするといふ外に、他人と協同するといふことも大切である。此の二方面の目的に合するやうに訓練をする必要上、矢張幼年にも之を課せねばならぬ。言ふまでもなく、此の程度の兒童には困難であるし、從て充分なことは出来ぬ。けれども漸次に階段的に養成して行けば、つひには命を棄てゝも規律を守るといふ、完全の域に達することが出来る。所謂軍隊的精神とは即ち之に外ならぬのである。

第五 娛樂的、訓練的のもの、

遊戯

遊技(行進的のもの)

(競技)

此の種の運動は、娛樂的に心情を爽快にし、且つ身體の發達を助けるといふものと、鍛練的に心身を強くするといふ性質のものとの二方面がある。人は往々遊戯、競技といへば直ちに娛み一方のやうに考ふるけれども、その種類によつては、必ずしもさうばかりではない。例へば、英國のフットボールの如きは、尤も著しいもので、彼の英軍がウォートルローの一戦にナポレオンの軍を撃破したのは、確かに此のフットボールによる鍛練の賜であるといつてゐる。併し之等の運動は、種類如何によつて、斯様に差別があるにもかゝらず、一の共通の性質を有してゐる。即ち支配者の命によつて一々意志を働かすのではなくて、自發的に自由意志によつて活動する點は皆同一である。此の自働的に活動するといふことは、精神的方面にも身體的方面にも大切なことで、之れが此の種の運動の特徴として最も價値ある點である。從てどの程度の生徒にも必要であるが、只生徒の生齡及び性別に應じて、その適用の種類を異にする。即ち動作的遊戯は幼年に、行進遊戯は女子のために、又フットボールの如き強烈な競技は青年以上の男子に適用すべきである。要するに小學校に於ては娛樂的のもの、青年以上の學校に於ては鍛練的のものを課すべきである。

以上各種の體操運動は、皆それ／＼或特徴を持つてゐる。それで、どれも、一として見棄てねばならぬといふものはないのである。只吾人は此等の澤山ある種類について、適當に取捨し選擇をせねばならぬ。

らぬ。それでは其の選擇の標準はといふと、

凡ての成分を完備すること、

各成分相互が背反せぬこと、

全體として統一すること、

の三要件である。之の三箇條をさへ守つて取捨すれば、どの體操運動も皆とり所はあるから、それぞれ其の特徴を捕へて適材を適所に利用することが出来る。従來は或體操の可否を論ずるのに、確かな標準が立つてゐないために、一も解決する所がなかつたのである。ところが以上の標準に照して其の適用すべき場合と體操の特徴とを考へてみれば、容易に決定することが出来る、例へば啞鈴とか混棒とかの輕器械は、輕重いづれがよいかを定むるにも、其の使用する場合即ち發育的に用ひるので、輕妙敏速に動かす必要があるといふことを考へて、直ちに輕いものを選びべきである。かの法令に活快剛毅の精神を養ふといふことがあるが、如何に重いものを用ひたとしても、混棒ではとても此の精神は養ふことは出来ぬ。此の場合にはどうしても重器械の力を借りなければならぬ。又規律的のものは、身體の發育的方面にも、又鍛鍊的方面にも効果はあるに相違ないけれども、其の主とする所は規律の養成である。従て其の仕組は極めて簡單明瞭でなければならぬ、我國の軍隊は此の點に於て、大に外國軍隊に優つてゐる。我國軍隊の教練が大に行はれ易く、佛獨などの教練が實行に困難であるといふのは、

全く之を仕組の繁と簡との差別にあるのである。此の點に於て吾人は夫の調査委員の報告に賛成が出来ぬのである。我國の軍隊には、歐米諸國の軍隊も及ばぬ程の立派な規律的運動があるにも拘らず、殊更に新たなものを並せ用ひて繁雜を來してゐるのは、甚だよろしくないと思ふ。次にかの一時女子の遊戯とさへいへば、直ちに行進的運動であるかのやうな感を起した時代があつたが、之も大いに間違つてゐる。此の種の運動ばかりで、體操の目的が、どうして達することが出来やう。發達的に矯正的にしやうとするには、他の成分と適當に交へ用ひねばならぬ。

以上は、自分が歸朝後、我國の學校體操の現状についての所感であるが、要するに適材を適所に利用するといふことが、聊か不十分であるといふ一點に歸着するかと思ふ。

最後に、我國の學校體操と軍隊の體操との長短について一言してみやう。學校體操は右に述べた様にあらゆる成分を具備してゐる、ところが軍隊の體操は教育的規律的（教練は別として）の二方面を缺いてゐて、只矯正的と鍛鍊的の二方面ばかりしかない、しかも其の形式は佛國流その儘で（少しの進歩はあるが大體に於て昔のままである）餘り感服は出来ぬ。ところが實際の成績はといふと學校の遠く軍隊に及ばないことを認むる。自分は中學校と幼年學校とを比べて著しく差のあることをみて、尠からず失望したのである。全體學校體操が、斯くも材料に於て凡ての性質を完備しながら、その成績は彼の後にあるといふ原因は何處にあるかといふに、全く實行の勵行的方面に於て、一步彼に譲つて

ゐるからであると思ふ。軍隊は先づ各個教練に於て行き届いてゐる。之れは便利な地位にあるからであるが、又彼等の實行に當つて、少なくとも狐疑することなく、一意専心に之れが勵行に移むるといふことが、主なる原因であると思ふ。自分は内外の將校について、徴兵検査の成績を聞いたが、歐米諸國では上流社會が優れてゐて下流社會が劣つてゐる、之れに反して、日本では下流がよくて上流がわるいさうである。一體其の原因はどういふ點にあるかといふと、外國でも我國でも食物は下流より上流の方がよろしいことは勿論のことである。けれども彼の國々の上流者は規律正しく運動をするが、我國の上流者には之が缺けてゐる。此の相違が、やがて以上の如き結果を作つてゐる原因の主なるものであると思ふ。これから推してみると、食物の良否といふよりも、寧ろ運動如何といふことが身體に大關係を持つてゐることが知り得られるのである。即ち粗食しても規律正しい運動さへすれば健康と強壯とを望むことが出来るのである。此例は、ちようど我學校の體操と軍隊の體操との間に著しい優劣があるといふことゝ適合してゐる。即ち學校の體操は理窟もよく、材料もよく具備してゐるが、實行に力瘤が入つてゐない。軍隊の體操は各成分を具備してゐない、又理窟も餘り喋々せぬけれども、勵行的である。それで自分はこう思ふ研究はどこまでも廢してはならぬが、又實行は尙更寸時も忽にするとはならぬ。何時までも、研究々々といつて實行に身の入らぬやうでは、とても兒童生徒の體育を完うすることは出来ぬ。何時まで研究したとて、之が完全無缺の體操といふものは出で來ない。

又全く凡ての人の意見の一致する時もあるまいと思ふ。そこで先づ大體に於て多數人の意見の一致する點と、自己の經驗とによつて、一個の意見を立て、一旦實行に當つては少しも躊躇せず、狐疑することなく、斷乎として勵行すべきであると信じてゐる。斷じて行ふのと否とは、其の效果に非常な差異を生ずることは明かなことで、前に述べたやうに、軍隊が已に一定の發達を終へたもの、偏僻を全く矯正し得るに反して、中等學校が、未だ發達の中途にある生徒の偏りをさへ矯むることの出來ぬのは、明かに之を證してゐると思ふ。

第三 將來に對する希望

吾人は前項に於て、我國體操の現状は實行に於て、力の入れ方が足らぬといふことをいつた。それは今後の體操はどうすればよいかといふと、主として此の缺點に向つて力を注ぐやうにすることが大切だと思ふ。これまでとて、若し彼の調査委員の報告を尊敬して、少しも迷はず疑はずして、實行に奮勵したならば、今少しは良い成績を上げ得たに相違あるまい。そこで此の後とて研究々々といつて、實行を忽にするは大禁物である。何時まで待つたとしても、未來永久變らぬといふやうな、完全な體操は出來る筈はない。それ故に吾人は飽くまで彼の報告に尊敬を拂つて、只實行を務むるやうにすれば、それでよろしいと思ふ。尤もその不備の點に向つては、漸次改良を加へて行くことは當然のことであ

るが、先づ大體に於ては之に據つて差支はない。殊に女子供の體操としては、頗る適當であるから、此の後小學校、高等女學校、女子師範學校などの體操は、之を基礎として多少の改良を加ふればよろしいと思ふ。それでは、その不備の點 改良すべき點といふのは何であるかといふと、

第一、運動準備 である。之は我國軍隊に完全な教練があるから、それに準じて行ふべきもので、殊更に、學校體操に於て新に之を設くる必要はない。否、必要のないばかりでなく二重の類似のものを併せ課するといふことは、却て不都合である。彼の兵式の教練と普通體操の隊列運動との時間は異なる、二種の形式によつて「右向け」「廻れ右前へ」などをなさねばならぬ滑稽を演ずるに至つたのは、全く之れが爲めである。そこで之れは是非軍隊のそれと一致さすべきものであると信ずる。

第二、種類の過多 である。之れは充分に精選する必要があると思ふ。

第三、遊戯 は從來の如く、體操と分離して、體操は體操、遊戯は遊戯といふ風に孤立して課すべきものではない。全體操の一部として統一的に行はねばならぬ。即ち毎時限に於ける成分の完備をなすために遊戯を體操の内に組み入れて課すべきである。

次に、中等學校以上の男子には、如何なるものを課するかといふと、之れも大體に於ては調査委員の報告を適用してよろしいのであるが、一の大なる缺點がある。尤も本文の上では別に不都合はないけれども、其の説明中に、青年に最も必要な鍛鍊的要素を缺いてゐるのである。従て之れのみを課して

は青年相當の體操として不十分である。宜しく鍛鍊的方面に於ては、範を諸外國に求めて、救濟の方法を講ずるやうにせねばならぬ。

次きは、師範學校であるが、師範生の體操は二種の目的を以て課すべきである。即ち一青年としての體操であつて、生徒自身の身體の發育鍛鍊のために課するのである。他の一は未來の教師としての知識技能を與へることである。そこで師範生には、青年相當のものを授けると同時に、一方に於ては普通小學校的のものと、之れが教授の方法とを並せ課すべきである。之れは單に體操ばかりでなく、他の凡ての學科も同様で、師範學校の性質として當然のことである。ところが、往々師範學校の課程が、單に小學校的の體操ばかりで、一時限を終へつゝあるものを見受けるのである。それが、四學生でもあれば、まだしも一二學年生に向つて、かゝる教程をとつてゐるのは、大なる誤解といはねばならぬ。之れは恰も、大人に牛乳ばかり飲せて、固形物を與へず、消化器を薄弱にするのと一般である。

普通教育に向つての余の希望は大要右の通りである。ところが、以上は反省的態度を以て、我國體操の沿革、由來を調べ、批評的の眼を以て我國體操の現狀を研究し、其の取るべき點と改良すべき點とを明かにし、推して我國體操の將來に對する希望の大方針を述べたのであるが、今更に進んで、實地に適用すべき理論と實際案とについて、稍々詳細に述べてみやうと思ふ。

(一) 教材の選擇

教材選擇上嚴守すべき要件は、曩きに列舉したところの三箇條、即ち(一)精選を加ふること(二)成分の完備(三)調和統一である。第一の精選といふことは別に説明するまでもないが、第二の成分の完備といふことは、體操科の目的を達するための、あらゆる成分を具備するといふことで、心身の發達の方面、訓練的方面に大切な體操、それから秩序的、協同的習慣を養ふための規則的運動及び娛樂的鍛鍊的方面のため、遊戯を課する等、凡ての要素を缺くる處なく選ぶのである。之を食物に譬へて見ると、身體營養に必要な蛋白質、脂肪、澱粉等のあらゆる滋養成分を整ふるのと同じである。次に統一といふことは、各成分に過不足のないやうにすると同時に、其の配合を適當にし、各成分相互の間に衝突のないやうにすることは勿論、或運動は他と相俟つて體操全體の目的を達するやうにすることである。之を食物に譬ふれば調理法を巧みにすると同じである。どんなに澤山の材料を用ひても、どんなに營養價を多く拂つても、調理法を誤るときは、身體の營養とならぬのと等しく、體操に於ても、どんなに成分の完備をなしても調和統一を缺くときは、體操の教育的價値を發揮することは出來ぬ。

(二) 教材配當

前項の標準によつて選んだ材料を適當に配當するには、

(一) 生徒の事情に適合すること、

(二) 運動の性質を考へること、

之の二點に注意すべきである。即ち第一は、生徒の年齢、男女によりて運動の種類を異にするは勿論、進んで生徒の個性に注意し、身體的偏癖を矯め精神的鍛鍊をなすに、或特殊のものを適用するのである。第二は、材料そのもの、性質で或運動は小兒に適し、或ものは大人に、或ものは女子に適するといふやうに、それ〴〵特徴を有つてゐるから、此の性質をよく考へて配當するのである。此等の標準によつて、學校の程度により更に各學年、各學期、各週に配當すればよし。

(三) 教授の形式

教授の基本形式は左の三段である。

(一) 準備、

(二) 運動、(主なる)

(三) 整理、

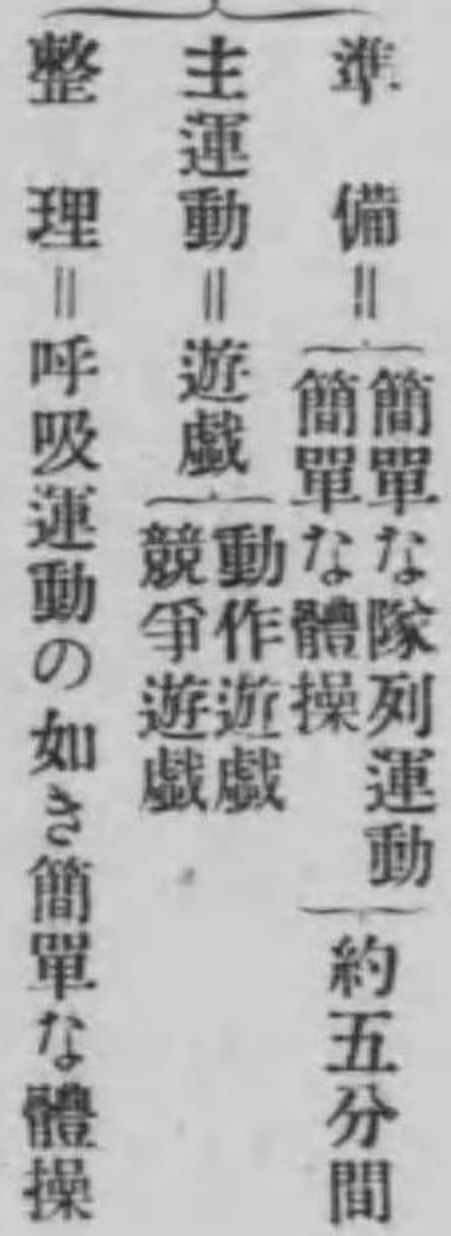
尙之を細分すると、かの調査委員の報告にある。基本形式のやうなものとなるのである。尤も調査委員の定められた基本形式は模範にしてよいが、實際の適用に當つては大に注意を要する、それは小兒も大人も同じやうに段階を踏む必要はない、小兒には極めて簡単な形式でよろしいし、漸次學年の進むに従つて複雑にすればよろしい。

以上は一般的理論を極簡単に述べたのであるが、今度は各種の學校、各學年の兒童について體操の材料選擇配當と教授の形式とをいつてみよう。

(四) 實際案

(イ) 尋常小學第一、二學年

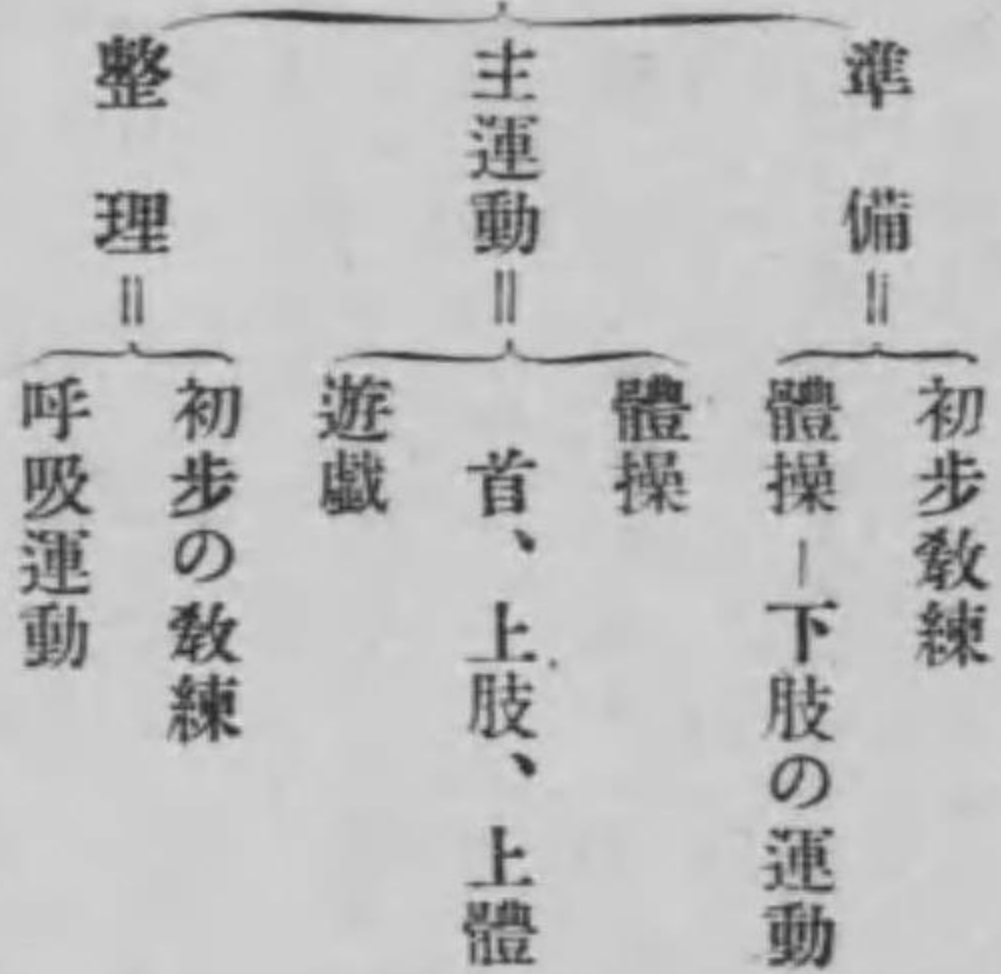
此の程度の兒童には、鍛鍊的のもの、矮正的のものは適當しない。教練的のものも、本來の規則によつて正確に行ふことは出来ない。只團體として、進退し得る程度に於て、課すべきである。主として適するものは、遊戯であつて、娛樂的に全身を運動させ、精神を快活にして、其の發育を助けるのである。又副とし、補助としては、體操の極めて簡單なるものを少量適用すればよろしい。其の教授の形式は、



一時限の長さは約三十分間が適當である。

(ロ) 尋常小學第三、四學年

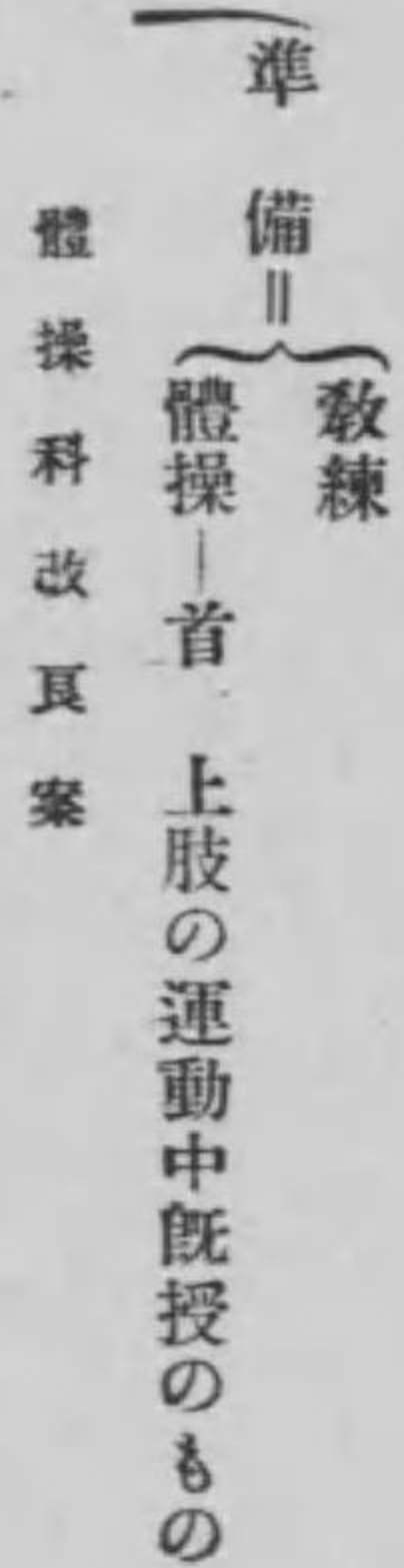
此の學年に於ては、發達の成分を増さねばならぬ。其の教授の形式は

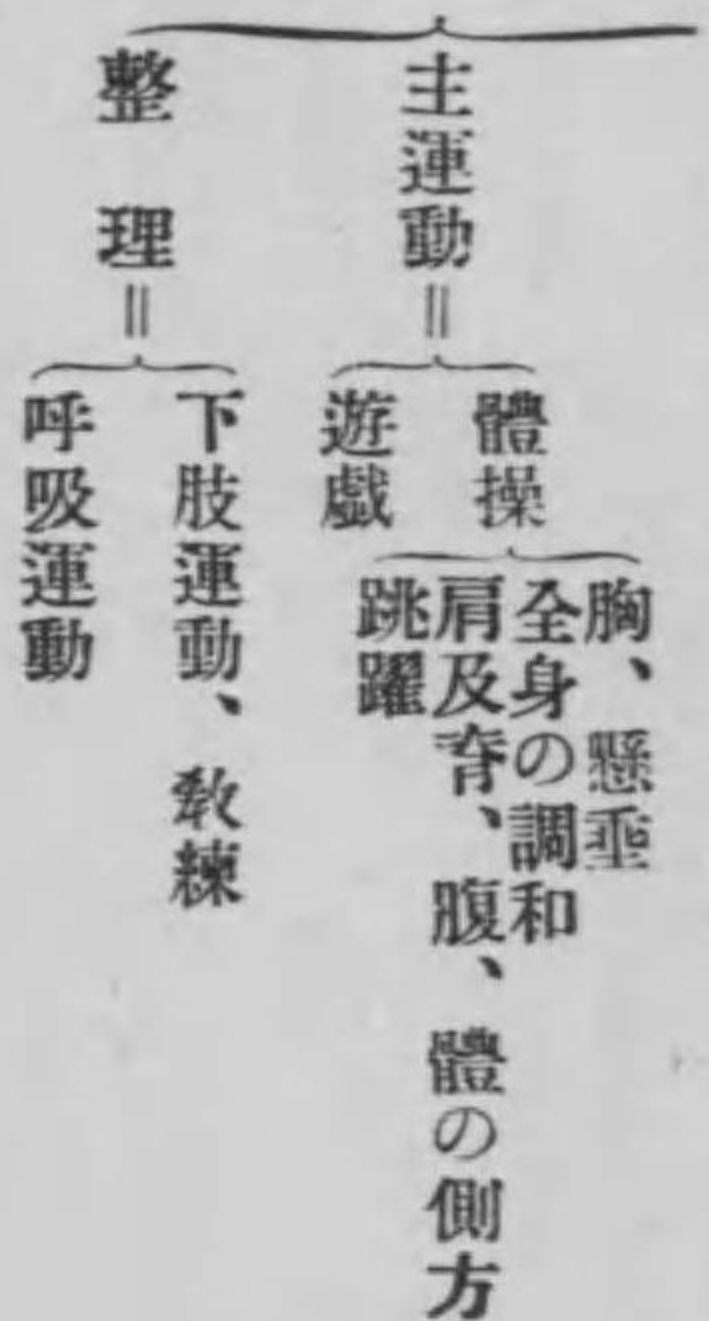


體操と遊戯との割合は、おほよそ折半位が適當である。尙尋常一、二學年と比べてみれば教練が稍々規則立つこと、體操が主運動中に加はることである。一時限の長さは、前と同じく約三十分間を適度とす。

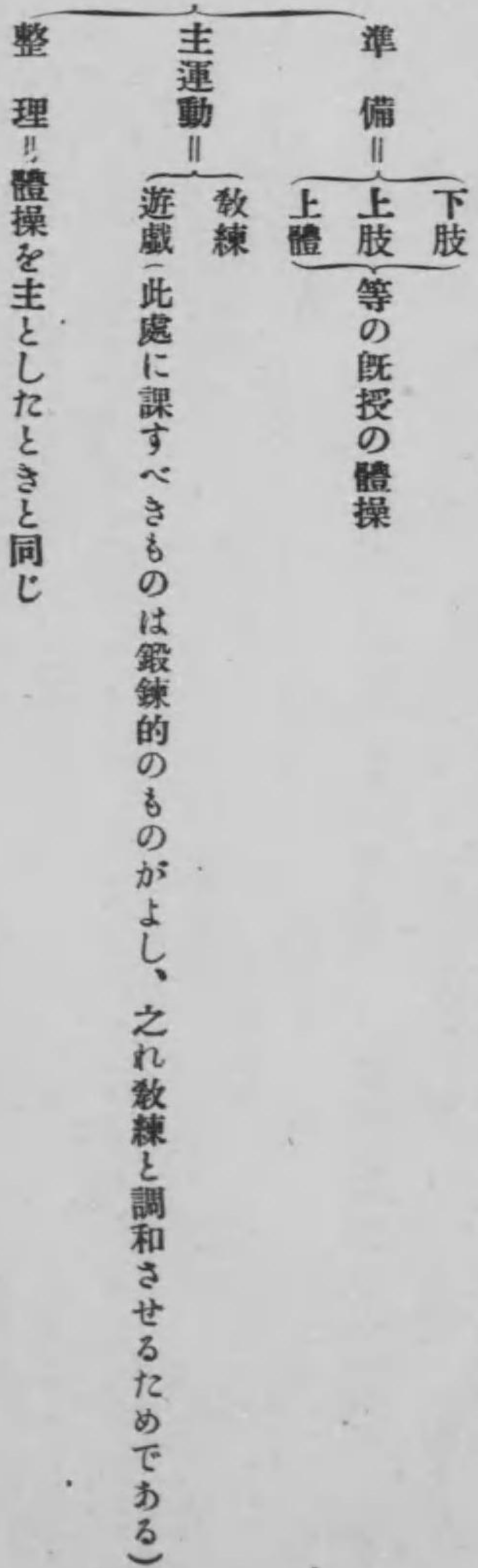
(ハ) 尋常小學第五、六學年

此の程度の童兒には、體操を主として遊戯を副とすべきである。従て體操の成分を愈々多くし、委員の調査報告にあるものは、凡て適用してよろしい。即ち、





斯く體操を主とした時間の外教練を主とした時間も必要である。今その形式を示せば、

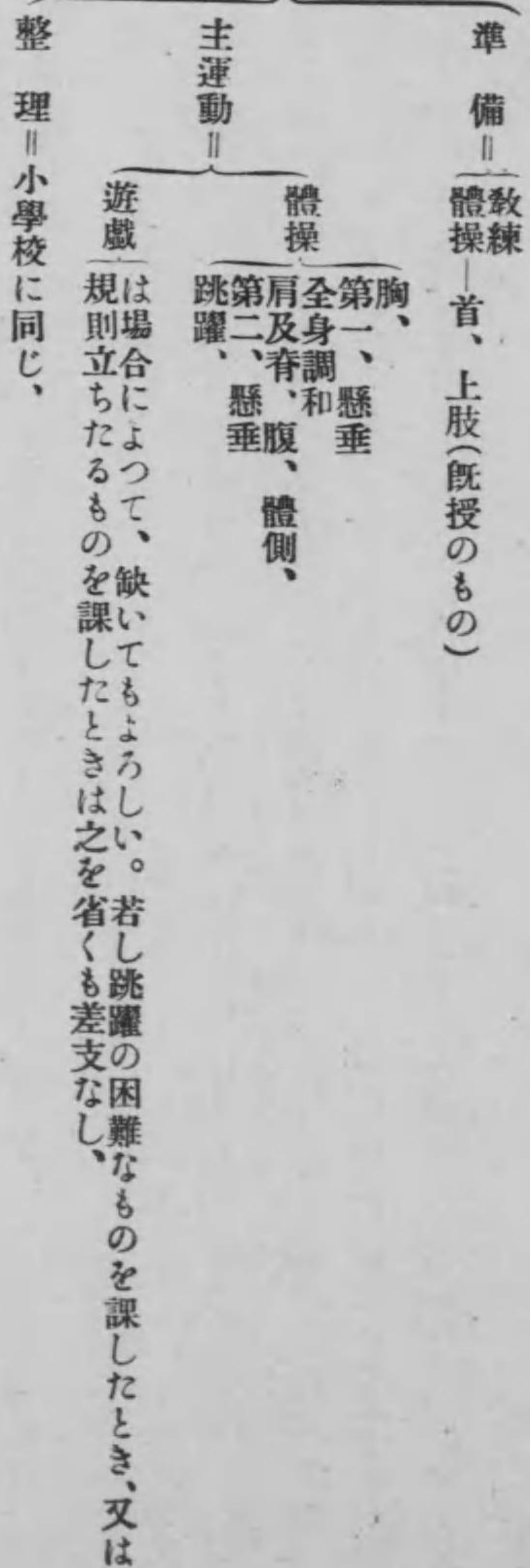


(ニ)高等小學校の體操は中學校のそれと、同じであるから略す。

(ホ)中等學校

此の程度の生徒になると、教練を主とする時間と、體操を主とする時間を區別することは、益々必要である。

(甲) 體操を主とする場合、



第一懸垂は、矯正的に課するもので、徒手若しくは、鐵棒を用ふ。

第二懸垂は、全身の強き運動を目的とするもので、跳躍が下肢によつて全身運動をなすのに對して、之は上肢によつて全身運動をなすのである。

中等學校の體操も、種類としては別に小學校と異つたことはないが、只その程度に於て差がある。

(乙) 教練を主とした場合、

準備 || 上下肢等の既授の體操

主運動 || 教練(四學年以上には執銃をも課す)

遊戯 || 武裝競争 障礙物競争等の規律的のものがよろしい

整理 || 前と同じ

遊戯は、運動に變化をつけるためであるから、時間の都合によつては之を省くも差支なし。

(一) 高等女學校に於ける體操は、尋常小學校五六學年と略同じでよろしい。只注意すべき點は、男子には鍛鍊的のものを年齢の進むと共に、次第に増すのであるが、女子には此の成分は必要がない。只下肢、上肢、上體等を鍛鍊するために、啞鈴を用ひ、尙ほ進んでは棍棒をも用ふれば、よろしいのである。

以上列擧したところは、各種の學校、各學年について、一般的に據るべき一例を示したに過ぎないから、もとより實際の適用に當つては、尙詳細に其の場合と兒童の事情とを考へて、適宜斟酌すべきである。

(五) 姿勢及運動の要領

最後に各種の姿勢、運動の要領について一言するが、全體我國の人々は、此の要領を會得してゐない。之れがために、同じ運動をなしても、十分の價值を發揮することが出来ない。運動といへば直ちに、單に動くことのみ考ふるは大なる誤りである。其の動き方が大切で、動方の如何によつては、必ずしも効果がある譯ではない。加之時によつては、却て害のあることもあるのである。例へば胸を張る運動をするのに、腹を曲



げるものを往々見受け
るが、之は胸を張る處
ではない、却て胸部を
縮少することゝなるの

である。又懸垂なども往々(イ)圖のやうな屈臂懸垂をなすものがあるが、斯くては胸部を壓迫して却て害がある。懸垂は臂運動ではない、肩帶の運動である。此の目的を達するためには(ロ)圖のやうな要領でなければならぬ。

要するに、我國の人は運動の要領に對する知識が幼稚である。そこで今後はその研究が大切で、如何なる部分を如何に動かせば、如何なる價值あるか、といふことを充分會得するやうにせねばなら

(六) 體操器械

茲にいふ器械は輕器械ではない、重器械である。此の重器械が從來使用された目的を調べてみるに、獨逸に於けるヤーン、スビース流は、無暗矢鱈に器械の種類を多くしたのである。之はもと、あらゆる筋肉を働かし練習して人間の稟有してゐる能力を、出来るだけ發達させやうといふ趣旨であつたが、



後には技術のために器械を使用するやうになつて、恰も輕業師でもあつたのである。之に反して、瑞典

式では身體の矯正鍛鍊のために、器械を使用するのであつて、器械に合する技術のために、之を課するではない。そこで從來の器械體操の目的は、

- 一、技術を練るため、
- 二、身體の矯正鍛鍊のため、
- 三、精神鍛鍊のため、

である。此の内第一の技術のために課するは無論不可である。第二の身體のために課することは、誰も異存はないのであるけれども、更に第三の精神鍛鍊と結びつくことによつて愈々價值がある。

如何なる種類の器械をよしとするか軍隊に用ひてゐる器械は、その種類は多いが、學校には適用が出来ぬ。何せかといふと、學校に使用する器械は、多數の生徒が同時に運動が出来ねばならぬからである。此の點に於ては、獨逸の器械は進歩してゐる、少くとも四人分丈は備へてある。瑞典に行くとき更に進んでゐる、少くとも半数丈は用意してある。大抵の學校では、人數丈の分が備へつけてある。そこで、此の後我國に新設すべき器械は、その種類を多くするよりも、數を多くして可就多數の生徒が、同時に運動されるやうにするがよろしい。けれども我國の現状は運動場で行ふのと、財政の不振といふ事情があるから、急に設備を新たにすることは望まれない。従つて外國のものを今直ちに其の儘採用することは出来ぬ。そこで差當り是非なくてはならぬ、最も急を要するもの二三種を新設するより外に仕方はない。それではどんなものが、最も必要であるかといふと、

(イ)懸垂器械 肩帶及胸筋の運動として大切である、
(ロ)跳躍器械 此の運動は、器械なしでも出来ぬことはないが、思はしくはいかぬ、
この二種である。次に從來の器械は、どうするか全く用をなさぬかといふと、決してさうではない。

使用者の運用如何によつては、隨分役に立つのである。けれども事情の許す限りは、適當な器械を新

設するに越したことはない。(教育研究)

七、體操科の改善に就て

我國の教育も餘程進んで、諸外國の教育に比較してもあまり耻しくない様になつたことは、寔に結構なことである。併しよく考へて見ると、内容上のことに至つては餘程改善しなければならぬものがあると思ふ。其の中でも體操科の如きは最も改善すべきもの、隨一であらうと思ふ。それは獨り外國の體操科に比較して考へて其の必要を見るのではないので、我國の教育上の他の事柄と比較して見ても最も改善を要すべきものと思ふ。其の事實は此の數年來普通教育に於ける大抵の科目の要目と云ふものは、文部省から立派に示されて居るけれども、體操科に至つては未だ要目も示されないのを見ても何より明に證據立てることが出来るのである。體操科に就て改善すべき點は澤山ある、形式上の改良も必要であるし、内容上の改良に至つては更に必要である。

そこで體操科の形式上の改善に就て最も大切なることは、我國學校體操の方針の整理である。我國に於ては此の方針、即ち文部省より示すべき要目と云ふものが定まつて居らない爲に一般の教育實際家は無用の迷ひに苦しみ向ふ所を知らないで困つて居ると云ふ狀況に陥つて居る。而して輕薄な者は其の一定の方針のない事を好い機會にして、根據も經驗も薄弱な勝手氣儘な體操などを得たりとしてやる

やうな事になつて居る。即ち眞面目な者も安心してやる事が出来ず、輕薄な者は濫用をして居る。そこでどうしても之を整理して、眞面目な人には安心した、向ふ所の方針を與へ、其の輕薄な者の濫用を防がなければならぬ。之が即ち文部省で行ふべき要目を定めること、言葉を換へて云ふと、體操科の材料と云ふものを選択して、さうしてそれを日本の體操科として統一することである。此の事は文部省のやるべきことではあるけれどもそれが今以て明に示されて居らないと云ふことは、我國の學校教育、體操科に於ける一大缺陷である。而して此の缺陷は不日當局者によりて補充せらるゝこと、信するのである、即ち之は形式上改良すべき最大なるものであると云うてよからう。今日は形式上の最大なるものが斯の如く決まらないものであるから、細かなことに至つては、今爰に言ふのを略する。次に形式の如何に拘らず内容上の改善に至つては、最も切實に其の急を要する。内容上の改善にはいろいろある。次第に項を分けて述べやうと思ふ。

第一 運動と云ふものは生徒の爲に適用するのである。運動の爲に生徒を動かすのではない。然るに從來の體操のやり方は、或る技術の爲に、或は單に運動と云ふもの、爲に生徒の狀況も考へず、生徒の發達をも問はず、唯々斯う云ふ運動があるからやると云ふやうなやり方である。是が先づ第一に改めなければならぬ點である。そこで從來の體操科のやり方と云ふものは、各運動の性質を知つて、斯う云ふ運動の性質であるから、之を斯う云ふ兒童にやらせやう、斯う云ふ運動の目的であるから、之

を斯う云ふ年長の生徒にやらせやうと云ふやうに、運動の性質に依つて生徒に適用すると云ふやうな考がない。體操は勿論、教練に於ても、遊戯に於てもそれぞれ皆各運動の目的と云ふものがあるのである。然るに其の目的を知らないで、唯々斯う云ふ遊びがあるから之をやる、斯う云ふ隊列運動があるから之をやらせる、斯う云ふ啞鈴の體操があるから之を使ふと云ふやうに、生徒と云ふ主體を離れて、方便の爲に生徒を使つて居るやうな風がある。それだから教師が此の運動はどう云ふ目的でやるのか、此の運動をすれば、身體の爲にどう云ふ効果を呈するのであるか、精神上にどう云ふ影響をするのかと云ふことを聞いて見ても少しも要領を得ない。言葉を換へると云ふと、教師が其の運動の意味と云ふものを自覺して居らない。之を譬ふるに、此の薬はどう云ふ風に利くか、此の薬は何に効があるかと云ふことを知らないで、唯々薬を盛る醫者のやうなものである。身體の扱ひは先づ命の扱ひの一つで、薬の性質を知らないで、之を盛る醫者があつたら危険と言はなければならぬ。然るに我國の學校の教師は略々之に類したる危険を侵して居つたのである。

要するに教師が各運動の意味を熟知すると云ふことが最も大切な今後の改良である。さうすると人は言ふ、それはなか／＼むづかしいことだと、けれども、むづかしいのは教育上の總ての事柄の性質で、もう既に兒童を扱ふと云ふのは、之は難中の難物である。若し精密に考へたら、如何なる學者でも難しとする所は、此の精神の教育で、其のむづかしさは、なか／＼身體を扱ふむづかしさの比では

ない。それでも教師と云ふものは、其の常識に依つて出来るだけは人の子を育てることをして行くのである。其の骨の折れる所が即ち教師の世の中に役立つ所以即ち教師の立場なのである。誰でも出来ることをやるならば、何も特別のむづかしい先生なんと云ふものは要らない。體操は其の運動に依つて生徒の身體を養成することであるからして、勿論むづかしいのは當り前のことであつて、之を易いと思つて居つたのが今日までの一大誤解である。大切な人の身體を扱ふのであるから、勿論むづかしくなければならぬのである。將來の教師は、體操と云ふものは決して易いものではない、他の諸教科と同じく大に研究をして、さうして其の意味を知つてやらなければならぬ。ところでどんな教師にても讀本の意味も知らないで讀み方が教へられるかと言へば、誰でもそれは逆も出來ないと言ふ、而して體操の運動の意味を知らないで、それを生徒に教へられるかと云ふと、ちよつと答にまごつく、それらが即ち今日までの考への足らなかつた證據で、之が先づ改良すべき第一の點と思ふ。

第二は上述の如く運動の意味を教師が自覺するばかりでなくして生徒の發達力量に應じて、出来るだけ生徒にも自覺させることである。今日までの生徒は體操をやらせられても、自分の爲にやらせられるとは思つて居らない。實は體操の如き各生徒の身體の爲に精密に當嵌めてやるべきものであるから、生徒が自分の身體を斯うする、あゝすると云ふ自覺がなくては出来る仕事ではないのである。ところが先生が既に其の運動の意味を知らないで、唯々斯う云ふ運動だ、さう云ふ運動だと言つてやらして居

るのであるから、生徒は逆も自分の爲めにやられたとは思はない。何だか餘計な仕事をさせられて居ると思つて居る。それだから興味などの起る筈はない。いやいやながら無理な仕事をさせられて居るやうなものである。今日までの體操科の有様を極端に言ひ表はすと、先生も生徒も何の爲めにやつて居るのかと云ふことを自覺しないで、唯々體操科と云ふものがあるからやつて居ると云ふやうな有様である。それでは面白くないことは當り前のことだ。そこで若し本統に生徒が出来るだけの自覺をしたならば、我身を愛せない者はないからして、縦ひ苦しくとも楽しんで之を良くしやう、此處を直さうと云ふ風に奮發せない者はない筈なのである。又在學中に於て自分の身體の爲にやる體操だと云ふことを自覺しないから、つまりいや／＼ながら學校の御務位にやつて居るのであるから、卒業した後はバツタリと止めてしまふのは、之亦當然なことで、我身の爲ならば、先生に就て居るときは先生と共にやらして貰ふけれども、先生がなくなつたならば自ら獨りで氣を付けることになる筈である。學校の體操科と云ふものは、世の中に出てから、先生にたよらずして自分でそれをやり得ると云ふ基礎を作るのが大事だと思ふ。ところが生徒に自覺させないから、今日までの體操と云ふものは、もう學校を出るとよしてしまふものだと思つて居る。之は體操の必要から云へば、非常な反對で、世の中が進み、仕事が繁雜になればなる程、自分の身體に注意して運動をする、即ち體操をするに云ふことは益々必要になつて來るのである。それで此の體操科に於ては、生徒に其の運動の必要を自覺させて、世

に立つてから我身を自ら養ふと云ふ習慣を付けねばならぬのである。此の事は餘程我教育界に於ては大切な改良で、随分分つた人でも此の事に氣が付かない者もあるから、體操と云ふものは、在學中だけやる仕事で卒業してからやれないなどと考へるのは非常な誤りである。之が改善しなければならぬ第二點である。

更に附加へて言ふことがあるが、生徒の成績と云ふことである。一體此の體操科の成績など云ふものは、どう云ふ處に注意を置かなければならないか、何れの學科でもさうであるが、點數などは何れも成績の主なものではない。點數など云ふものは、其の仕事の出來榮に符牒を與へたものに過ぎない。そこで此の體操科の成績と云ふのは何かと云へば、其の體操科に依つて生徒の身體がどうなつたか、生徒の精神がどうなつたかと云ふことが即ち成績の主體である。故に體操科の成績考査は言葉を換へると云ふと、一の體格検査と思へばよいのである。既に學校に於て行ふ所の普通の體格検査は、先づ主として醫者の行ふ體格検査である。體操科の成績考査は、主として教師の行ふ體格検査と思つてよいのである。故に點數よりも何よりも先づ各生徒其の者の身體並に精神の有様を考へると云ふことが極大事なものである。そこで此の體操科の成績を調べるのに試験をすると云ふと、人はちよつと試験と云ふものを妙に思ふか知れぬが、試験の仕様に依つては悪くないのである。一體世の中で試験と云ふと、何だか妙に近頃弊害でもあるやうに思ふが、それらは試験と云ふことに弊害があるのでなくて、試験

のやり方に弊害があるのである。體操科の試験も同様で、唯々點數を取るばかりにやるならば、符牒を調べる爲にやる試験などは一向害あつて益がない。けれども生徒の身體はどうであるか、生徒の體力は如何であるか、圓滿に能く發達して居るか、どこにも偏癖はないか、あるならば此の次ぎどうしやうかと云ふやうなことを試験するのは當然なすべきことで、頗る結構なことである。そこで普通の體格検査と同じやうに、各學期末なり、各學年末なりに此の本統の調べをすると云ふことは固より無くてはならぬことである。縦ひ點數をつけるとしても其の調べが濟んだ所で、其の調べの概評を點數に表はすだけに止めてよいのである。故に體操の成績考査は點數に依つて調べべからず、眞の成績に依りて點數を付するは差支ないと言はなければならぬ。之も體操科と云ふものが生徒の爲にやらせるので、點數や何かの爲にやらせるのでないと云ふことから自然改めなければならぬ點である。

第三 教師の精神並に身體を改善すること、

甲、小學校教員の精神並に身體の改善、

小學校令には、其の第一條に「兒童身體の發達に留意して道徳教育並に國民教育を施し」云々と立派に示されて居るにも拘らず、兒童の身體に留意することは、極めてボンヤリして居るものが多い。其の中に最も明に注意しなければならぬ、又極めて注意し易き此の體操科すらも一向ボンヤリしてやつて居る者がある。甚しきは全體育を掌らなければならぬ所の小學校教師が其の中に於て大切なる體操科

を受持つことをば、餘計な仕事の如く思つて居る者もある。先づ此の間違つた心は第一に改めなければならぬ點である。

次には教師の身體である。教師の身體は生徒の活きたる鏡であつて、勇將の下に弱卒なしと云ふならば、其の反對に弱い教師の下に強い生徒の出來ると云ふことは、むづかしい注文である。それで自然の其の人の感化から考へると云ふと、健全なる國民を作るには、先づ健全なる小學校教師に依らなければならぬ。然るに實際我國に於ける小學校教員の健康状態と云ふと、實に言ふに忍びざるものがある。此の間統計の示す所に依ると云ふと、病氣殊に肺病に罹る者などは、あらゆる職業の中で、小學校教師の如きは最も多い方の一つであると云ふ、一體考へると云ふと、小學校教員は、天真爛漫なる子供を相手にして、子供の活動生活と一緒に腕白に無邪氣に朝から晩まで騒いで居るならば、最も健康的生活が出来る筈なのである。然るにさう云ふ弱い、病氣の者も多いと云ふことは教師としても立派な生活をして居らないと云ふことが一つの原因だと思ふ。尤も弱い教師の中に師範學校卒業生などが少くて、其の他の者が多いと云ふことを考へると云ふと、或は兒童の相手になつてから弱くなつたのではなくて、兒童と一緒にならない前、即ち教員になる前に弱かつた者があるかも知れない。若しさうならば、小學校教師と云ふものが、ひとのみより弱い體で出來ると誤解したのであつて、昔小學校教師は怪我をした者や、不完全なる者のやる仕事、言葉を換へると云ふと、廢物利用と思つたその

考へが今日まで残つて居るものと言はなければならぬ。若しさうなれば小學教員の精神覺悟上亦最も取り去つてしまはなければならぬ點である。

乙、中等教員の精神並に身體の改善、

中等學校で言へば、中學校であらうが、高等女學校であらうが、男女師範學校であらうが、最も元氣ある青年男女を相手にして居る。體育上から言へば、其の元氣ある青年男女の相手となつて之を率ゐて行かなければならぬし、訓育上から言へば、最も危険なる時代の青年男女を勇ましく、而も眞面目に率ゐて行かなければならぬ。斯る任務をもつてゐる中等學校の體操科は、なか／＼骨の折れるものである。従つて中等學校の體操教員と云ふものは、其の元氣も青年男女の指導者たるに足るやうに、其の常識も體育の中心、訓育の中心者として十分でなければならぬし、其の身體は其の元氣、其の常識を應用して模範を青年男女に示すことの出来るやうな強健なる身體でなければならぬ。ところが從來の中等學校の體操教員と云ふものゝ大體を見ると云ふと、其の精神に於ても、又身體に於ても随分足りない者が多いやうである。之も將來大に改めて行かなければならぬ點である。

次には當局者の心を改善すること、以上小學校教員の覺悟が宜しくなかつたり、或は中等學校教員の資格が不十分であると云ふことの熟々其の本を考へると云ふと、世間一般、殊に當局者の心が不十分であつたからと考へる外はない。若し當局者にして十分に注意して率ゐて行き、十分に氣を付けて養

つて行つたならば、今日のやうに甚しくはなるまいかと思ふ。一體今日までの日本の人は體操科と云ふものを尋常視して居らぬからいかない。尋常視しないと云ふならば、特別尊重して居るのかと云ふと否々特別に輕視して居る。言葉を換へて言へば尋常以下に見て居る。そこで尋常のことならば尋常の人でやれる。非常のことならば非常の人でなければやれない。さう考へると云ふと、尋常以下の仕事は勿論尋常以下の人のやるものであると輕んずる。そこで小學校教員あたりが體操科に對して不熱心であるなど云ふことは、世間一般の人、殊に當局の人が體操科と云ふものを尋常の者と見なかつたからで、下の者も矢張り之を輕んずるに至つたものと見える。それから中等學校の體操教員などの資格が不十分だと云ふことも、此の中等學校に於ける體操科と云ふ者が大切である、少くとも尋常一様のものであると云ふならば、それに従事する所の體操教師と云ふものは、尋常以下では間に合ふ話でない。矢張り少くとも尋常一様でなくてはならない。ところが我國の體操教員の俸給平均額を見ると云ふと、教員の中でも最も低い方である。此の間文部省の講習に於て各府縣の師範學校の體操教員が五十餘名集つて來た、是等の體操教師は全國體操教師の中では經驗に於ても、或は資格に於ても先づ良い方の部の人である。さう云ふ人の俸給を平均して見た所が三十八圓ばかりである。之を通常の各府縣に於ける教員の平均給に比較すると云ふと及ばざること遠い。先づ最も比較的の良い體操教員の平均給でも普通教員の平均額には達して居らないのである。以て一般の體操教員が如何に低く取扱はれ

てあるかと云ふことが分る。低い所の安い所の尋常以下の人を使つて、尋常若くは尋常以上の仕事をしやうと云ふことは實 無理な注文ではないか。此の科に無資格教員の最多いのも偶然ではない。尙ほ教員養成のことに就て考へて見ても、一體此の體操教員に限らず、總て教員の善し悪しは突に起るものではない。能く養へば良い教師が生じ、養ひが足りなければ不完全なる教師が出来るので、教員の善し悪しは一時の出来事ではない。教員養成と云ふ永久の仕事の結果である。然るに今日までに於ける體操教員の養成の状況を調べて見ると云ふと、明治十二三年頃に體操練習所など云ふものが生じ、體操教員の養成等も一時あつたが、其の後廢合一ならずで、高等師範に時々ある位のもので、官設の常備的の仕事としては殆ど無いと言つて宜い。蒔かぬ種は生へぬと云ふならば、教員を養成しないで教員が出来やう筈がないのである。之も矢張り體操教員と云ふものは、ちよつとやれば出来ると云ふやうな寔に軽々なる、即ち輕視した考の下から、こんなことになつたのである。そこで總ての教員の養成等に就て、随分教育家も口やかましく言ひ、世の中の人も唱へ、當局者も大に心配するが、體操教員の養成に至つては、近年に至つて漸く氣が付いて來た位のものである、天下の事總て人につて存すると云ふならば、實は此の教員養成のことを改善しなければ外のこととは形式を整へるだけで、決して内實的に能く改善せられるものでない。故に體操科の改善に就て、最大の急務は其の教員養成の點にあると言はなければならぬ。

序ながら爰に教員養成に就ての考を述べて見ると云ふと、一體教員養成には二つある。一つは永遠の養成、一つは焦眉の養成、其の第一の永遠の養成と云ふのは、此の一般教育の状況から断えず教師を供給し、世の中の進歩と共に出来るだけ優つた所の教師を作つて行かうと云ふことである。焦眉の養成と云ふのは、今日の此の體操教員の不足、若くは無資格教員の多數であると云ふやうなことに向つて、成るべく資格のあるものを速成し、又無資格な者を養つて之を資格ある者に引直すことである。永遠の養成は高等師範學校に於て、文科、理科等と同じく、體操科といふものを設けてやるべき仕事であらう。焦眉の養成は高等師範でやらうが、どこでやらうが、之は講習會等で速成的にやるべき仕事である。故に永遠の養成の方を單に教員の養成と云ふならば、焦眉の養成はまゝ教員講習と言ふてもよい。世の中は始終此の永遠に教師を作ることに、それから目下の急に應じて教師を改善して行くこと、此の二つが伴はなければならぬと云ふことは何れの教科でも同様であると思ふ。最も不整頓なる體操科の教師に就ては、殊に此の二つのことを大々的に施設する必要がある。此の事に對して現在の當局者は非常なる覺悟を有して居らるゝこと、信頼するのである。而して之れ體操科改善の大根本であると思ふ。

以上之を要するに體操科と云ふお膳立ては、世界の教育に倣ひ他の教科に似せて出来て居るけれども、其の内容を本統に進めて行くには、上下悉く非常なる覺悟を要するものと認めるのである。即ち上下

心を一にし、智識を世界に求めて盛に經綸を施さねばならぬ。而して其の經綸の第一着は以上述べた通り體操科に對する世人の心の改善と並に其の教員の養成とである。(小學校)

八、中學校に於ける體操、遊戲、擊劍及柔道

本日は開會の劈頭に於て諸君に御目に掛り、不省なる私の意見をば御話する事になりましたのは、實に光榮に堪へない所であります。只意外に早く此の光榮を得たと云ふことゝ、又取込んで居ります最中と云ふ事に依りまして、其の上極短い時間を以てお話をせねばならぬと云ふやうな場合でありますので、左なくとも話が下手で長い御話をしなければ要領を得悪い私のことでもありますから光榮ある此の機會をば十分に利用することの出來ない虞のあると云ふのは、私の非常に心配に堪へない所で、豫め諸君の御含を願つておくことでもあります。斯る次第でありますから、早速本題に入つて、殊に中學校の體操に關する御話を致したいと思ひます。

中學校の體操について御話するには、若し時間が許すならば、歐米各國の狀況と御對照の出來るやうに、先づあちらの狀況を簡單に御話して、其の後に比較的に我國の中學校の體操のことを御話するが、私の話の順序からは極く工合が宜いのでありますけれども、此の短い時間で双方をやることが出來ませぬから、心の中に諸外國の狀況を描きつゝ、短刀直入直ちに我國の體操教授のことに付て御話

することに致します。それで御話をする間に、或は西に飛び、或は東に飛び、東西のことが入混ることがありませうが、之は前に申上げます所から已むを得ずして起るのでありますから、賢明なる諸君に於て、私の話の混雜するのをば、十分に御聽分にならんことを希望して置きます。

それで此の體操をば教授の事と所謂體操の事と遊戲の事と此の三つに分ちて御話を致します。それから最後に擊劍、柔道此の四つに付て御話をしたい。其實は三つであります但現在の狀況より特に四つに分ちて御話を致します。

第一 教練

此の教練と云ふことは御承知の如く兵式教練から採つたことでありまして、之を廣く申しますれば、小學校生徒の隊列運動より、中學校生徒の兵式教練に至るまで、總て團體的規律を以て、秩序的の習慣を養成すると云ふ訓練の目的を持つて居るものが、皆私の所謂教練でございます。そこで中學校の兵式教練の今日の有様を察しますると、良い教師のある所は誠に良く行つて居ることは疑を容れませぬけれども、往々にして其の間に教師其の人の宜しきを得ない者も亦多くあることも遺憾ながら認めざるを得ないのであります。其の第一は中學校の先生の中にはいろいろの人がありますけれども、所謂普通體操の先生と、又軍人上りの先生と、此の二つの區別が大略あるやうであります。そして此の

兵式教練に對しては、所謂普通の體操の先生と云ふやうな人は、自分の行つて居る普通體操のために、此の團體を教へて行く上からは、是非此の兵式教練によらねばならぬこと、秩序的習慣を養ふ上に於て、其の訓練をしなくてはならぬと云ふ趣意を知らずして、兵式教練は全く自分の仕事には關係のない如く考へて居るものがなきにしもあらずでございます。之に反して、軍人上りの方に於ては、それが本職でありますから其の點は餘り心配がありません。寧ろ兵式教練を更に擴大して、之を學校に行はうと云ふ希望を持つて居ると云つても宜い位であります。併ながら其の良い人を除けば、多くは軍人先生には、教育的の素養なく、活用の才に乏しく、即ち其の貴き軍隊の精神を學校の生徒に植ゑ附くる心得の乏しい者の多いことを、認めるのであります。さう云ふ人の多くは、兵卒と學校生徒と、種々の點よりいろいろ違ひのあることも心付かず、同じ方法を以て其の目的を遂げやうとする者も多くあります。斯る者は、自然其の目的を達せないことに終るのは、當然のことで、如何にも熱心は感服すべく同情もすべきものであるけれども、御氣の毒ながら、活用の才に乏しくして、其の目的を遂げざることの多いことを認めるのであります。又普通體操から入つた先生は兵式體操は、殊に出來ないで、學校の兵式教練と云ふものは、兒戯に等しいものであるとおもひ亂雑なしだらしないのを以て當然と諦めて居るのであります。茲に至つては實に慨嘆に堪へない次第で即ち兵式の先生にも、普通の先生にも、良い人の居ることは私は認めますが、先づ大體より見ますと双方の缺點があるのであ

ります。之等は即ち最も諸君の御指導に依つて、其の足らざる所をば補つて戴かなければならぬ點であります。

第二 體操

前に申した普通體操、器械體操、軍隊體操等のものを總括して狭い意味の體操といふのであります。之には大別すると二つありまして、一は身體の圓滿なる發達を期する所から身體を養つて行くと云ふ養生的發達的のもの。例へば從來の普通體操の如く、全身に於ける有らゆる筋骨を働かして圓滿に身體を養つて行かう。若し何分の弊が起つたならば其の弊を矯正して行かうと云ふ即ち積極的の方面と消極的の方面とを備へたものであります。殊に中學校生徒の如きは、小學校の生徒よりも一層發達するもので、宜くない發達をすることも多いのでありますから、此の二つの方面の方便に十分に注意してやつて行かなければなりません。併し要するに、此の両面とも圓滿に身體を養ふ所の方便であります。私は假りに之を養生的體操又は發達の體操と分類して居るのであります。併し身體の如きは唯圓滿に伸びたと云ふ形を作つただけでは満足すべきものでない。之れに勢力を與へなければならず。之れを強健に發達させなければなりません。それがためには、是非十分に練習を與へて鍛鍊を加へなければならぬ。其の點より身體を使ふ事でも、走ることでも、丁度被教育者に適した走り方をさせ、又

器械體操をさせると云ふ風に、鍛鍊的の體操を課さなければならぬ。それで此の二つの體操は養生的の方は即ち養ふものであつて、鍛鍊的の方は之は用ひるところのものであります。一方の養ふのみにして用ひることがなければならず。又用ひやうとするには是非養はなければならぬものであります。極く卑近な例を以て言へば「エネルギー」を蓄へんとするには身體が先づ飯を食はなければならぬ。能く食はなければならぬ。併し食べただけで働かなければ其の食も役をするものでない。即ち能く食することゝ、能く働くことゝ、相待つて行かなければならぬ。即ち狭い意味に於ける體操は發達的のものと、鍛鍊的のものと、二つになると云ふことを始終忘れないやうにしなければならぬのであります。

然るに中學校に於ける先生方のやり方を見ますと云ふと、此の二つに偏する所を注意して行くものは餘り澤山にないと云ふことを發見するのであります。即ち一部の先生は、從來の普通體操もしくは器械體操を以て十分の體操と心得て居る。それをやれば自分の職業が盡きた如くに考へて居る。斯の如きことは即ち養ふことを知つて用ひることを知らぬ、唯身體を伸ばすことを知つて、強健に鍛へ上げることを知らぬのであります。それと反對に一方の側には、青年の體育としてあんなやうなものは仕方がない、宜しく十分に男らしくやる所の體操を以て中學校生徒の體操としなければならぬと云ふ。其の心は誠に私も賛成であります。併ながらさう云ふ人の多く用ひやうとする軍隊用の徒手體操

若くば器械體操は體操教範にも示してある通り、兵隊ですら各兵士の要求に應じて餘程注意して適用しなければならぬものであります。然るに兵隊其の儘のものを持つて來て、兵士の間の差などよりは一層甚しき差のある、殊に下級の學校生徒などに、之を用ひやうとして居るのは實に大なる誤りであります。彼等が元氣を養成することに向つての着眼は、青年の教育として、寧ろ私は其の方に手を舉げたいのであります。元氣の源は唯さう云ふ方便で出来るものでない。先づ身體を養つて行かなければならぬ。

序でながら御話して置きますが、日本の輕體操、普通體操と云ふものは、諸君の御承知の通りに、從來は一時間の始めから終りまで繰返して居たのであります。之を研究すれば尙更の話、深く研究せぬでも、諸外國の實際と對照すれば、我國でやつて居ることの解すべからざることを知るのであります。即ち何れの國に於ても、普通體操のやうなもの輕體操のやうなものは、殊に中學校生徒の如き青年の教育にあつては、一時間の中、長くて十五分を越すものはないのであります。即ち青年に十分活潑なる體操をなさしめんための準備として輕い體操を課するのであります。此の輕い體操を以て全時間を通すと云ふことは何處にもないのであります。尙更前申上げました如く、此の體操に二つの種類がなければならぬと云ふことを簡單に考へて見ても、從來の普通體操を以て、一時間を通せると云ふことは、おかしな話で女若しくは子供ならば格別であります。諸君の御教育になる中學校の生徒の如

き青年に取つてはあ、云ふ體操だけを以て満足して居るやうなことではいけないのであります。身體の上より見ても、又元氣を鼓舞する點より見ても、足らないのであります。

第三 遊 戲

之は前よりも簡單に御話をしたい積りであります。此の遊戯と云ふものにも二様ありまして、即ち一は慰樂的にやる軽いものと、又之を以て英吉利國民の如く紳士たるの素養を與へると云ふやうな訓練的のものとしてあります。遊戯と云へば即ち遊びの如く考へて居る人がありますが、決してさうではないのであつて殊に之を正科として用ひると云ふ事になつては訓練的の遊戯は勿論慰樂的のものでも種の注意を要するのであります。此の點より諸君の御參考に諸外國の遊戯を大きく三つに分けて批評を下して見やうと思ひます。一は商賣的にやつている所の遊戯。米國や英吉利でやつて居る所の「プロフエツショナル」のもの、其の目的は飯を食ふにあるのでありますから、吾々教育者は之に對して多言を費す價值のない品物であります。次はどう云ふものであるかと云へば、勝敗を主として居る遊戯、即ち勝負一方で勝ちさへすれば宜いと云ふやうなやり方であります。此のやり方が諸君の國にありますが、最も多く行はれて居るのは亞米利加で、殊に西部亞米利加の方に多いやうであります。此の遊戯の價值如何は既に諸君の御承知のことと彼此申上げる必要もありませんまい。之等は商賣主義

よりは一步進んで居りますが、未だ勝敗を以て主とする所の域を脱しない非教育的のものであります。それで第三のものは何んであるかと云へば勝敗以上のことを主とする所のもの、即ち目的を訓練に置いて……固より勝敗はします勝敗なしには遊戯の多くは出来ませぬから、勝敗はやりますが、其の勝敗以上に、精神上のことを主としてやる所のものであります。之等は東部亞米利加の大學等でやつて居ります。殊に英吉利遊戯の大半は之で、最も英吉利流の感服すべき所は此の點にあるのであります。即ち日本從來の遊戯は別として、歐米各國の舶來的の遊戯を、吾々が如何に用ひるか云へば、前に申上げました所の三種の遊戯があると云ふ事を警戒して掛らなければならぬのであります。そこで同じ「ベースボール」をやつても、同じ「フットボール」をやつても、其のやり方が何れの精神でやつて居るか云ふやうなことに、能く警戒を加へて、さうして私は即ち此の後の方針に依つて、勝敗以上の訓練に重きを置いて掛る所の遊戯を採用するやうに注意しなければならぬと思ひます。歸朝以來日尙淺くして、日本全國の遊戯「マッチ」其の他の状況を精細に自ら拜見することが未だ出来ませぬのであります。此の舶來的の遊戯の實行に付いては、此の點に注意を要すると云ふことだけは、今日まで耳に聞き目に見る所に依つて、其の必要を感じたのであります。

第四 擊 劍 及 柔 道

實は私の胸の中には、此の擊劍并に柔道は、先刻申した第二番目の體操、其の内鍛練的の體操の内に這入つて居るものであります。即ち武術の如きは身體上より見ても、精神上より見ても、鍛練的體操の最も立派なものであると云ふ事は、始終私は考へて居るのでありますが、諸君も御承知の通り、之は法令に於て未だ正科になつて居りませぬ。まだ隨意科でありますから、假りに第四番目に入れたのであります。併ながら私個人の意見としては、大に此等に希望を懷いて居る。擊劍并に柔道の如きは、我國特殊のものとして、世界に誇る事の出来るやうに、將來教育上に改良もし應用もして行かねばならぬと思ひます。私は此の武術に就ては、何の素養もありませんけれども、日本國に生れたおかげで、幾らか武士的精神の遺傳を受けて居るものと見えまして、諸外國の體操は勿論、其の他随分彼方の擊劍、此の方の角力、其の他色々の事を見まして、其の技の巧妙で、其の力の強い事は種々様々感服したことがあります。併ながら最後にどうも一點物足らぬ氣がしたのであります。夫は何であるかと云ふと、どうも大事などとの詰りの武士的精神を養成して行くと云ふこと、武士らしく正しくやると云ふ側がどうも足らない。一つの例を採つて御話するならば體の姿勢を立派に拵へる事は、劍の掛け方拂い方を遣る仕合をさせても中々巧い、實に完全だけれども、どうも何だか最後に物足らぬ氣がする。どうも何だか所謂俳優の技ではないか知らぬ、到底用をなさぬではないかと云ふ感が度々起つたのであります。日本に歸りまして、此の點には偶然に感じた事がある。唯だ「コンモンセンス」上一寸

感じた丈けではなかつたと愉快に感じましたのは、私が陸軍戸山學校に居りました時のことでありま
す。戸山學校に參ると云ふと、門を入るか入らざるかに、一種の空氣に撃たれたので有ります。歐米
に參つて方々の體操の専門學校を見る、又諸軍隊其の他にも參つた事が澤山ありますが、未だ斯んな
風の感じに打たれた事はない。之は何かと思ひまして、更に進んで彼等の遣つて居つた處に參りまし
た。器械體操を遣つて居るものでも、擊劍を遣つて居るものでも、銃槍を遣つて居るものでも、實に
一種の元氣を具へて遣つて居る。即ち私が歸りました時に打たれた處の空氣は、其の人々が實行して
居る處の元氣な空氣なのであつたと云ふ事を知つたのであります。夫で彼處の將校と一緒に見て廻る
内に、私が外國で見たものよりも所謂武士的精神があると云ふ事を認めた。私が從來諸外國で見て足
りないと思つた事を今眼前に此處で遣つて居る。歸り早々喜ばしい事であるとお話をした。處が其の時
附いて居られた大尉が云はれるのに、夫に就ては斯う云ふ奇談がある。曾てクロバトキンが露國の將
校連を連れて彼の學校を見に来た時に、此の容子を見せた處が、露國の將校大いに笑つて曰く、あゝ
云ふ亂暴な事はない。あんな事が實際に出来るものかあんなに無茶苦茶に突いた位ならば、銃劍は折
れて仕舞ふと云つた。其の時にこちらの大尉は只笑つてゐたさうであります。間もなく日露の戦争
が起り、其の優劣は事實の上にはあらはれた。回顧するに日露戦争の勝負の決は、あの時に定つたと云
つて差支へないと云はれた。即ち此の武士が劍を持ち、銃を持つて立つのに、銃劍が折れやうか抔と

心配をする、そんな氣合では決して勝てるものではない。東も通れ刀も折れよと突いて行つた刀がまだ三尺も離れて居ると云ふのが實際の状況であります。彼等は即ち無用の形式に走つて、其の形許り遣つて居るから實際の役に立たない。此の事は一例であります。私は實に我國の誇るべき點と信じます。夫で此の擊劍柔道をゆく／＼正科に加へたい正科にさせぬにした處が、之を行ふに付ては、即ち最も特徴の發揮に注意して頂かねばならぬのであります。茲に於て反省して見ますと、最も良い方を遣つて居る處諸君が能く御指導なさつて居られる處には、立派に參つて居るものと思ひますが、私が廣く觀察致しました處では、我國の武術に斯る特徴があるにも拘はらず、どうも學校の擊劍柔道杯と云ふものが、時に依ると矢張り技の末に走つて居ると云ふ事を認めるのであります。此の所謂武者杯の遣る事は、唯だ負け勝ちのみを争つて、上手だとか下手だとか云つて居る之では我國の特徴たる元氣よりは唯だ技の末に走つて居る傾向が認められるのであります。勿論夫を養ふ方便としては、勝負もしなければならぬし、又遣る以上は即ち勝つのが宜し又強いのが上手であります。其の勝負上の事も、精神教育修養の一つの徳を認めて、夫を主眼として行ふ事にならないでは、決して左迄の効はないであらうと思ふ。之には殊に諸君の如く中樞にお立ちになる方々に、御注文をして置く事が必要とおもふ。良い主管者、良い先生の居られる處は幸ひであります。中々普通の柔道や擊劍の先生に夫迄の考へを持つて居るものは、ないのでありますから、即ち諸君の精神に依つて其等の人を能く指導していただきたい、本統の我日本の擊劍柔道を發達させる事を切に希望するのであります。

第五 姿勢矯正と衣服

以上は先づ所謂體操教授の側から見たるお話をしたのであります。茲に特に諸君を通じて一般職員に希望する點がある夫はどう云ふ事であるかと云ふと、體育上の事並に德育上の事は、彼の智育上の事とは異りまして、各科分擔杯が出来るものではありません。全職員が共同一致心を協せて其の事に盡すと云ふ團結がなければ、何れも目的を達する事は出来ないのであります。勿論智育上にしても決して離れ／＼にして宜いとは申しませぬが、ある度まで聯絡を取つて行けば宜いので德育や體育と同日に論ずることは出来ませぬ。夫で道徳修養の點から申しても、諸君は既に御經驗の如く、修身で教へて遣つて夫れで満足して居ると云ふ方はありますまい。即ち修身で教へるのは、唯だ其の修養の軌範を示す、其の實行の機會に寧ろ有らゆる學校生活にあるのであります。體育に就ても同様であります。體操科に於て教へる處のものは、即ち身體上に於ける動作の軌範の一斑を示すに止つて、其の實行の機會は寧ろ有ゆる平素にあると云ふ事を思はねばならぬのであります。其處で又例を擧げてお話をすれば、例へば極く簡単に體勢を正しく整へる事に致しまして、一週間の内僅かに三時間と云ふものを、首を正しく心を正しく、體を正しく中正に置いて立派に遣るやうに教へて置きまして、其

の時間丈之を守つて、次の教場に行くとき首を曲げる、肩を上げたり下げたりする。胸は縮め、呼吸を苦しきうにして頻りに書いて居ると云ふやうな事をやつて夫でどうして其の目的を達する事が出来まいやうか。此の點に就ては私杯彼方に参りまして、日本人としてはそんなに姿勢の悪い方ではないと自惚れて居りますが、彼方に参つて見るとどうも右からも左からも、何で日本人はそんなに姿勢が悪いか、お前杯は體操を調べに来て立派に人を教へると云つてゐるのではないか。それにどうだ其の容子は、そんなものでは仕方がないではないかと云はれた事がある。殊にボストンの體操師範學校長は六十五のお婆さんであります、其の注意は至つたもので、飯を食ふ間でも少し姿勢が亂れると、直ぐにお前は何の爲めに外國に來た體操の時丈正しくしても、其の以外の時に忽ち姿勢を壞つて終うやうでは駄目だ。此の點は日本では是非改良せねばならぬと云ふ忠告を受けました。私個人の経験から云つても、さうであります、是を廣く日本一般の青年等に見ましても「氣を着け」の時丈姿勢が正しくて其の他の時は全身凡て氣が脱けて居る。有らゆる先生が之を直す事に氣を着けねばならぬ。もう一つ服裝の一點から見ても、私が歸つてから有らゆる生徒の服裝を見ましたが、中學校生徒並に高等師範學校の生徒の服裝は、哀れなものであると云ふ事を見ました。どこが哀れかと云ふと服は體を悪くする爲めに着て居る傾向がある。體の爲め最も大事な處は胸部であります。然るに生徒が着て居る服は苦しきやうであります。即ち時々欠伸をしたり、呼吸をする時に見て居ると、夫を脱します。電車でも脱して居

ります。是は服を着けて居ては、苦しいから脱して居る方が自然の要求する處です。それで私は彼等に始終機會のある毎に勸めて居ります。服は體の保護の爲めに拵へたのだから、服を拵へる時には氣管部胸部を抑制するやうな服を拵へてはならぬ此の胸部は十分に息を吸ふても、尙餘裕のあるやうにして置かねばならぬ。又之は殊に如何なる人でも大事な事であり、發達盛りの人に取つては最も必要な事である。で諸君のお扱ひになつて居る青年の如きは、發達中の者でありますから、私は其の點を特に例として引いた譯であります。併し之等は唯だ體操教師一人で出来るものではありません。諸君を始め全教員が心を協せて、始終斯る事なけれかしと云ふ事に就て氣を着けねば目的を達する事は出来ない次第であります。殊に規律に至つては、體操の如きは、極めて簡單の規律を養成するに過ぎません。今の教練は色々の習慣を養ひ、色々の精神教育を行ひますけれども、夫は實に僅かの部分であります。即ち夫を遂行する機會は寧ろ平生にありますので、獨り唯々體操の時に於て拵へた規律に相反せざるのみか、寧ろ其の規律以上に有らゆる機會に於て養成を圖らなければならぬであらうと思ひます。此の點に於ては、諸君の多くは既に御注意の事と思ひますけれども、どうも未だ體操の價値と云ふものを見る事に就て深くない事があるのみならず、此の體操丈け遣れば夫で體が良くなる、規律が正しくなるやうに思つて居るものも少ないのであります。之は諸君が總ての職員並に其の體操先生に御注意下さいまして、全職員共同一致して遣らねばならぬ事と思ひます。

第六 校長先づ自ら發奮せよ

最後に失禮ながら諸君に向つて直接な希望がある。則ち其の一つは精神的の訓練の事である。諸君は教育を綜攬して居られる事でありませうから、體操の事に就ても諸君が直接に總括の位置に立つのみならず、其の應用の有ゆる問題に對しても、其の訓練の大綱を綜攬すると云ふ事に尙一層心をお着け下さらんことを願ひます。即ち其の一例を擧げて申せば、全體の旅行をするに就ても、全體を集めて體操杯をするに就ても、或は其の他兎も角も全般の生徒を集めて何かすると云ふ機會に當りましては、餘程注意をなさざらんと、其の心はありながら、形に於ても精神に於ても、共に目的を達する事が出来ないと思ふのであります。全校の生徒が悉く一致し協議して、規律的運動を爲す時も、其の全校の中心たる校長が綜攬の位置に立ち、有らゆる職員が一致して、生徒に接するのでなければ、生徒全體が悉く一致して一團體の如く働くと云ふ事は望まれないのであります。其の遣方も色々ありまじやうけれども、校長自ら綜攬の位置に立つと云ふ事を以て、凡ての機會に於て最も大切な事と思つて戴きたいのであります。元氣ある處の青年を養成する者は、身を以て是を率ゐねばならぬ。又我々が國民兵役の義務年齢を脱せず、四十五歳にならない内に其の元氣ある青年を率ゐて行く事が出来ぬやうでは、實に情ないものと思はねばならぬ。勿論青年の如く高く飛び早く走る事は出来ませうけれども、少くとも四

十歳四十五歳迄は、國民として吾々が手本を示さねばならぬ。自分で出来る事ならば骨身を吝まらずに遣らねばならぬ。全力を盡してすら彼等を感じさせる事は容易でないのに、自分の出来得べき事を爲さずして、夫で目的を達しやうと云ふ事は實に六ヶ敷い話であります。それでありませうから、お出來になる方は、矢張努力をなさいと云ふ議論をする位は、もう説明を要せぬ事であります。而して其の精神に至つては、其の訓練體操を軍事上を利用して行く以上は、少くとも校長自身が自ら訓練の中心に立つのでなければ、教育上の目的を達しないと云ふ事を斷言するのであります。で之が諸君に望む一點である。

第七 體操教師を保護指導せよ

もう一つは本日お話しすべき内の重用の點であります。先程教練體操其の他の事に就いて、色々考へべき事があると申しましたが、其の申しました内にも、諸君がお悟りである通り、之を行ふ處の人、即ち體操教師が圓滿なる性情と人格とを具へて居らないではいけないかと云ふことに必ずお氣が着くと思ひます。實は理想的に求むれば如何なる教師と雖も、決して圓滿とは申せないが、體操教師の如きは現在の中學校職員の中で、先づ最も不足の點の多いものでないかと思ひます。夫で諸君の如く、全職員を率ゐて居らるゝ人は、足らざるものを保護して、修養せしめ人の子を損なはしめないやうに、其の人々

將來安全にすると云ふやうな様々な方便をお採りになつて居る事と考へますが、其の點から見て體操教員の如きは最も諸君に指導誘掖等を望むのであります。唯だ彼等の及ばざる處を責めたり、缺點を數へた處が何の効もありません。殊に從來の體操教員は斯々の方針で養成してありませぬから、此の方針で世の中に出して呉れねばならぬなど云ふやうな希望が起るでありませう。夫は將來の話で、現代を忽にする事は最も吾々の取らざる處であります。けれども現在諸君に於てお扱ひになつて居る體操教員中には、立派な方もありましやうが先づ大體について、彼の方法を取つて居るのでありますから、彼等を保護して教へて、どうぞ並々の教員として之を生徒に接しさせる。生徒をして本統に其の教員より感化を受くる事の出来るやうに、假令へ出来ない迄も出来易いやうに御指導をなさる事が最も大切の事でありませぬ。即ち凡そ世の中の事は法にあらざる人にあり。其の技ではありませぬ其の人であります。人即ち體操教師の如何と云ふ事が、體操科の消長に關すると云ふ譯でありますから、歸する處は要するに其の人を良くすると云ふ事が第一で、即ち其の人を良くする以上は諸君の如き人を率ゐる人、即ち人の内の最も人なる諸君に向つて希望すると云ふ事は、最も私は當を得て居ると信するのでありますので、此の事に就ては色々希望致したい事もありますが、時が許さない爲めに、之丈で止めますがどうぞ、將來十分に諸君の御發奮を以て、種々改造して先づ第一に親切に其の體操教師を指導誘掖なさらんことを希望するのであります。(帝國教育)

九、學校體育に就て

今回は當縣に於かれて教育の爲めは勿論社會の爲めに誠に結構なる講習會の御企があつて、本日まで諸君は現在爲さつて居る仕事の爲め、且つ將來の爲めに種々有益なる御講話を御聴きになつたと、推察を致します、其の終りに當りまして私の如き者が又諸君に御話をすることが出来るやうな次第になりましたことは、實に望外の光榮でありまして、私一個に取つては勿論從來餘り我日本人々より重んぜられなかつた體育の道に取りまして、實に本縣當局の方に感謝して措く能はざる次第であります、唯願みれば最後の殿といふことは餘程の勇者でなければ出来ないのであります、戦のみならず、斯ういふ御話でも諸君が諸大家から種々有益なる御話を御聴きになつた後に私如きものが詰らない御話を申上げては、獨り折角是までの愉快を無にするのみならず、利益を削減する様の譯で又甚だ恐れ多くなる次第である、又諸君御承知の通り、元來自分の職業は體育―體操を以て本分として居るのであります、デ、人間には筆の人もあり口の人もあり腕の人もある、熟々我身を考へますのに筆の人でもなし口の人でもなし先づ腕の人であります、是より諸君と俱に走ることを試み、諸君と共に飛ぶことを試みるならば、及ばすと雖も聊か其の勇を奮つて見るといふだけの自信はありますが、口を以て諸君に十分なる愉快を與へ、十分なる利益を與へるといふことは信じて居りませぬけれども、

幸にも諸君は賢明なる諸君である而して、此の講習會に於て益々諸君の頭腦を明快にされて、來るところの物、悉く容れざるはなしといふ御心になつて居ること、信じますから、私の言ふことは或は詰らなくても、諸君の鋭敏なる明快なる頭に依つて御聴取り下さつたならば、或は私の足らざる所を補うて餘り有ると信頼いたすのであります、即ち此の信頼に依つて是より約三時間の豫定と致しまして一場の御話を致さうと思ひます。廣く云へば我邦の體育、狭く申せば學校の體操科等に取りまして、申し上げたいことは山々ありますけれども、時間に限りが有りますから本日は先づ大體的に一般體育のことをちよつと申上げて、其れから後に此の學校體操科といふことに付いて稍々詳しく申上げやうかと思ひます、一口に體育と申しますが、一體此の體育といふ言葉は、さう明瞭に解釋されて居る言葉ではありませんぬ、そこで本日は其の體育の定義等を御話いたしますといふと、是でも稍々長き時間を要しますからして、唯體育といふ言葉はボンヤリ言うて居る廣くも解釋され狭くも解釋される、併し廣く解釋を致す方が穩當であるといふことの結論だけ申上げて置きます、即ち廣いといふのは、一般衛生上の事より、運動總ての事に至るまで特に意を注いで施すところの身體上に於ける教育、之を總て體育といふ意味に御話を致すのであります、さういふ意味に於ける體育と致しまして、我を考へる爲めに先づ人を考へる、即ち我日本を考へる爲めに、諸外國の情況を考へて見ますといふと、歐米諸國に於ては此の廣い意味の體育といふものが、從來如何なる有様であつて、今日如何なる傾向に進みつゝ、

あるか、即ち其の歐米諸國に於ける體育の趨勢を考へて見ますと實に我々はジツとして居れないといふことを考へますのであります、一言にして申せば、其の盛なること、其の注意を拂つて居ること、其の爲めに金を費やして居ること、其の爲めに設備を完うして居ることを挙げましたならば實に驚くばかりであるのであります、彼等の多くは個人と致して我身體に注意すること、我身に體育を施すことは銘々の義務であるといふことを、自覺して信じて皆やつて居ります、故に若い者は勿論、而かも年取れば年取る程身體の教育を盛にし、即ち我身の健康に注意して、永く活動が出来、長く世の中に仕事をしやうといふことに向つて常に怠らないのであります、又彼等の自治團體、市町村等の有様を見ますといふと、此の體育といふことは即ち市民の體育といふこと、町村人民の體育といふことは、市町村人民を健全にし富裕にするところの基礎である、又身體上のことに向つて活動させて置くといふことは、彼等の品行を善く導くところの第一の捷徑であるといふことを深く信じて、彼等をして閑居不善を爲さしめず、十分に身體を丈夫にして、而して善い行が出来るといふやうな風に、此の市町村自治の行政を致しまして、此の事に深く注意を拂つて居ることを見るのであります、尙國家等に於ても注意したるところの國ほど此の體育といふ仕事をば、國家行政の大切な仕事の一に勘定して、或は對外的に或は對内的に種々様々苦心慘愴を致して居るのであります、其の例等を一々申上げれば實に指を屈するに遑あらず、本日は到底それを御話するところの時間を見出し得ないほど、雄大

なる有様なのであります。

所が諷つて我日本の社會全般の體育は、どうであるかといふことを考へて見ますといふと、實に冷汗が流れざるを得ないのであります。能く是で健全なる國民が出来て居る、能く是で國家が生活して居ると、此の方面から見まするといふと感ずるのであります。自然の生存の儘に放置して居るところの國家は碌なことは無い、自然の發達の儘に抛棄されて居るところの子供は碌に育たない、自然に打棄てられてあるところの生物は、餘程の物にあらずんば能く發達をしない、其れ故に人為の救済を加え、工夫をして其の道を施せば生物はドン／＼立派な種類を見るに至る、人民も國家も其の手段を施せば則ち人に優つたゞけ、他の國家に優つただけ、一層發展をするのであります。然るに我日本の如く、此の人間の命を支配するタージシ人間の活動を支配するところの、其の基礎たる身體教育といふものを、社會全般の者が氣が付かずして、空々漠々として經過して居るといふことは、實に容易ならぬところの現象であります。我邦の多くの文明は今より五十年——四十五年前、維新以前に於て大いに着手し來つたのであるけれども、此の體育上のことは、今以て國家的大なる着手をしないのであります。寧ろ維新前に於ては日本國民全般ではないけれども、國民の中軸とも云ふべき武士が受けたるところの教育上、其の中の體育の如きは、何れの國へ持つて出ても恥かしからぬところの教育を施して居つたのであります之を歐米諸國の體育の歴史に比較して、或は希臘の體育とも比肩すべきほど、雄大なる有

様であつたけれども、維新と共に其の事は棄てられた刀を棄てると共に大事な教育まで棄て、仕舞つて、其れから後には、此の社會全般に體育として日本に組織的のものは存在して居らなかつたのである、故に特殊の方便を用ひずして抛つて置けば、衰へるといふことが當然の原則であれば、それから思へば、我日本人の體格が悪くなつて往くなどは、少しも怪しむべき現象ではない、寧ろ當然の結果である、寧ろ今日まで二十七八年の戰爭に勝ち、或は三十七八年の戰爭に勝つたなどといふことは他に長き歴史が自然あつて然らしめたので、能くも斯る身體で勝てたと思ふ程であります、尤も其の不思議の事實は争はれませぬ、もう少し長く続けば日本國民の體力は盡きたなどといふことは、日露戰爭の最後に於ては、間々有識者の眼に見えて來たのであります、そこで斯る大事の戰爭が一年も二年も続けば、國民の體力は盡きて仕舞ふ、そののみならず我々が平常社會萬般の仕事に當るに付いて死物狂ひで他より一層精神的健全なる力を有つて居らなければ、文明なる立派な仕事は出來ないといふ風のことゝに氣が付かず、謂はゆる空々漠々として國家全體が今猶ほ過去つて居るやうな有様である、後に御話するところの社會の一部、教育の本源であるけれども、學校教育の中に體操科といふものは有るが、社會全般の體育などいふものは無い、殊に前に歐米の例を挙げましたが、我國に於ては義務教育が濟んでより、男子で申せば壯丁になるまで、女子で申せば人の母となる時まで、如何なる教育手段を國家が回らして居るが、如何に身體教養の手段を自治團體が施して居るかといふことを考へます

と、比較は出来ない、先づ國家全般には有れども無きが如き有様で居るといふ今日の現状であります、先づ女子の方は預つて置いたところで、義務教育が濟んでより、壯丁になるまでの生活の有様など、いふものは、人生中最も大事なるところの過渡期であつて、身體の上から申せば強くなるも弱くなるも生きるも死ぬも大抵ある青年の時期に定まると云ふて宜しい、其の大事なる青年の時期を抛つて置いて、さうして健全なる壯丁の發生せむことを望むなどいふことは、謂はゆる木に縁て魚を求めよりむづかしい、そこで年々壯丁の體格が弱くなつていかないといふならば、何かそれを補ふ所の他に良い手段が無くてはならぬ譯である、所が尋常一様のことでは弱くなるのが當然なのであります、而も我日本國は世界列強の中に這入つたなどいふことを自覺して見れば、他の列國は先程も申し上げた如く、個人としても、團體としても、國家としても、體育の事に熱心盡して居るけれども、其の仲間入をした所の日本は此の體格の點に於て世界の競争に打負ける原因を具へて居ると云はなければならぬ、此の點に冷汗を流さなければ如何なる點に冷汗を流すか、命あつての物種、健全なる身體には健全なる精神が宿る、其の精神の健全は勿論大切なことであるが、是は身體上の健全に待たなければならぬ、然るに身體上の健全に付て社會が未だ斯の如く不注意で居るといふことは實に將來の爲めに冷汗を流さざるを得ざる次第であります、所が幸にも私すらも斯く氣がつくものを、外國に行かれた方も澤山あり、直接間接に外國の事を調べたことのある御方もありますから、私と同じやうに氣が附

かれた方は今日餘程多くなつて參つて來たのであります、或は私以上に氣の附かれた方も餘程多くなつたのであります、或は東京市に於ても市民の體育を奨励して居り、或は大阪市に於ても同様の事をして居る、北の方を廻つて見ましても岩手縣知事の如きは其の土地の氣風の改良を體育上より圖る爲めに、此の冬などに於ては氷滑りなどを奨励して居る、秋田縣知事の如きも餘程さういふやうなことに向つて心を掛けらるゝので、其の成績が年々歳々見えて來たのであります、段々さういふ風に氣を附けられ、其の方に向つて着手する人が殖えて參つたといふことは、冷汗を流した後に於て實に愉快に感ずる次第である、而して本縣が今日私の如き者まで呼んで諸君に其の事を御聽かせ申す光榮を與へて下さるのも、此の事に向つて當局者が大々的着手を爲さるゝ所の先が明かに見えて來たといふことを喜ばざるを得ないのであります。

所で諸君、さういふ風に注意いたして參つたことは誠に結構なことではありますが、茲に又社會全般から申しますといふと、先づ日本今日の有様では社會全般の人は、從來或宗教家などの如く身體はどうでも宜いと云つて放つて置いて、唯精神上の事が成立つものといふ考へは無くなつて來て、先づ今日の人は身體が大事だといふことを思つて來たのであります、其の證據には近頃或は深呼吸法であるとか、ヤレ何に養生法といふやうなこともあるといふとなかく歓迎して參つた、是はどういふ現象であるかと申すといふと、歐米體育の發達を考へて見まして、一度斯ういふ時代を通過することを認む

るのである、どういふ時代であるかといふと、我身の體育に注意し、運動に努めること、兎に角是ではいけない、丈夫になりたい、丈夫になりたい時には大概人間には弱點がありますから餘り骨を折らないで丈夫になる工夫をする、ちよつと毎朝深呼吸法をやつて丈夫になつた人があつたら結構だと、餘り骨を折らないで丈夫になる工夫をやる、それもぼんやりして居る者から見ればどれ程結構か知れぬ、我身を自ら注意することをしないのと、ぼんやりして居ないで兎に角丈夫にしたいといふので注意し出したのは雲泥の差でありますから、結構なことではありますが、成るべく骨を折らないで健康になる法がありさうなものだといふことを望むのは極めて初歩の考へである、非常の事を爲さんと欲せば非常の覺悟を要する、尋常の事を爲さんと欲すれば尋常の覺悟を要する、尋常以下の覺悟をして尋常以上の事を望むのは慾が深きに過ぎる、深呼吸は實に結構なことであるが、之をすれば勇氣が増すなどといふことは慾が深過ぎる、所で斯かる現象は丁度今より四五十年前歐米諸國に於てもありまして、歐米諸國の人が眼が覺めて來たのは、遠く云へば百年前であるが、本當に眼が醒めたのは四五十年前である、丁度其の眼の覺めた時に餘り骨が折れないで丈夫になる工夫を盛にした、健康法秘傳、深呼吸法其の他様々なものがあつた、歴史を見ますといふとさういふものが幾らもあります、丁度我日本は今其の時期に際會して居る、先づ一世紀とは申さぬが、半世紀程遅れて居る、遅れたりとも雖も茲に至つたといふことを私は喜ぶ、即ち今日日本はさういふ體育上の夢が醒めて來た時代になつて來たのであり

ます、それではより本當に體育上の維新をする、即ち明治の維新は五十年前の前であるが、體育上の維新は今日に在るといふことを御同様覺悟しなければならぬ次第なのであります、社會全般の體育のことは極めて大事なことでありますが、時間の無い爲めに是丈けに致して置きます。

そこで此の社會體育の中に於て此の教育上の最も基本ともなるべき學校體育のことを是より少し御話をして往く積りなのであります、是も矢張り自ら省みる爲めに世界の狀況を少しく考へて見ませう、歐米諸國に於て學校體育の有様はどうであるかと云ひますと、是は實は餘程むづかしい問題なのであります、又私の既往を顧みますといふと此の問題は危険千萬な問題であつたのであります、なせかといふと我々は我々の心で以て彼等の學校體育を見やうとした、我々の心と云へば我日本に於ては前に申す通り社會の體操といふものはない、體操とか體育とか云へば學校丈けであつた、さういふ心を以て歐米諸國に於て社會の下に存在して居る體操などを見る時に於てはちよつと失望することが幾らもある、なせこゝろいふことが起つて來たかといふと、彼等は此の體操に付ては學校の課業としてもやり、國民として市民としては社會的に發達させることを先に心掛けて居る、それは當然の事で、普通の教育、種々の學問を社會に夙に入れて居りますが、それ等は社會の隨意であつたのを普通教育に採り用ひて來たのである、それと同じに體育に付ても社會でやつて居ることを學校からやるが宜からうといふので學校に入れて參つた、そこで歐米諸國に於ては社會の體育に付ては色々あつたけれども、學校

の體育に於ては後れて發達して來た、獨逸の如きでも其他米國でも實にあとの頃に體育を入れて参つた、英吉利の如き或方面の體育としては紳士の要素としてフットボールなりクリケットなりをやらせるといふことがありはありましたけれども、丁度他の教育と體操とを相併せて獎勵して参つたのは極めて近年のことであり、故に歐米諸國の學校體操は歐米諸國だけで申しますといふと、社會體育よりは寧ろ遅れて居るといふことを見出すのである、故に歐米諸國の社會體育の進んで居るものを見ないで、單に學校體育を見て、歐米の體育はつまらないといふと歐米を見損ふ、それで歐米では學校體育は社會體育より盛でないが、之を我日本の學校體操、學校體育と比較して見たならばちよつと話にならないのであります、なせさういふことを申すかといふと我日本に於ても學制の上で體操といふものを教育の中に入れましたから、設計だけは揃つて居る、形式だけは出來て居るけれども、やつて居る所を見ると少しも精神を用ひないで、空々漠々とやつて居る、彼等はさうでない、それ以上社會の進んだことを有つて居るから、やつて居る所の子供を捉へて聽いて見ても、先生は勿論、或範圍に於て其の體操の意味といふものを能く知つて、さうして着々實行いたして居る、ちよつとやつて居る所を見ると、時間割などを見ると一向つまらない、日本よりは却て一時間少いといふことを見るけれども、やり方を見ますと遙に我上にある、而も彼等は今日までの現状を以て満足せずして、段々に力を入れて來たが是ではまだ足りない、是でもまだ足りない、矢張り本當に此の社會に體育を施すに付

ては他の教育と同じく學校ももう少し本當にやつたが宜いといふので、氣の附いた國程學校の體操科の時間割を殖し、其の事を多くして參つて居るのである、例へば最も保守の國である所の英吉利の如きも先程も申しました通り、從來は彼のイートンカレッジ、ハローなどのセコンダリー、スクールといふ中等以上の學校が從來の遊戯で國民を養成し、精神を鍛ふるといふことで満足して居つたけれども、段々圓滿なる人格を鍛へるには矢張り獨逸や瑞典で行つて居る所の體操もやらなければならぬといふ爲めにイートンカレッジの如きは教師を留學の爲めに瑞典に送り、尙歸つて來た曉には瑞典の體操場を、其の儘イートンの體操場に移したと思ふ程、體操場の設計から何から瑞典の通りにし、内に備附けてある器械でも瑞典から輸入するやうにして居る、保守中の保守といふても宜しい英吉利が他に先んじてさういふことをして居るのでありますから、もう大勢は言はずして明であります、殊に進取に富んで居る所の米國の如きは我日本とは尠からぬ關係を有つて居るので、我日本の御膳立が先に整つたのは先づ米國を則つたからである、而も米國では普通の學校で體操の無い所はないが、大學等でも大抵ありますが従前は體操科を正科とした所は少なかつた、所が不思議なるかな、或は僥倖なるかな、我日本の體操の基礎とも淵源とも謂ふべき場所は、マサチューセツト州の中にあるアマーストカレッジといふカレッジで、此の學校では體操を正科として今から六十年前から盛にやつて居るのであります、其の時には其の學校が亞米利加で第一着に體操科を大學の正科としたといふので有名なも

のでありましたが今日に於ては範圍に少し差はありますけれども體操を入れない所の大學は殆んど無い、我日本の大學などがほんやりやつて居るのは餘程違つて居ります、或大學では體操の出来ないやうな大學生は天下にいない、身體が弱いやうな卒業生は役に立つものでない、そんな事情で體育を勧め、體操を十分に完成しない者は卒業させない、それ程までに勵行して居る大學等も殖えて來た、專門教育に於て斯の如き有様であるから、普通教育に於て彼等が年々益々斯道の發展に注意いたして居ることなどは私などの想像の餘りであります、けれども此の問題は先程申した通り全然嚴密に調べて見ないと分らぬ、ちよつと見ると御膳立は日本よりも劣つて居ると見えるやうなことで、ちよつと見ると氣が附かないのであります、矢張りさういふ爲めであるかと考へるが、從來日本より諸外國に出張する、御方、留學された方は澤山ありますが、色々な學問に於て彼等を凌ぐ程に良い學問をして來られて十分に仕事をした方があるが、又彼地に行つた教育家は少くないが、此の社會教育上から學校の教育から、斯んなことでは日本はほんやりして居られぬといふことを言ふた方はあらうか、大に言ふた方は少なかつたといふことは私などが調べて見て成程是では言へなかつたといふことを考へたのであります、兎に角歐米諸國の學校體操の有様は社會體育に較べて見れば左程に盛ではないが、年々益々之を盛にする所の盡力を爲しつゝあるといふ有様であります。

先づ彼地のことは是だけに致して置いて、是から我日本の學校體操はどうであるかといふことに考へ向けて見ませう、我日本に於ては先程もちよつと申上げたが、法令上に於ては學校に體操科などを早く入れ、御膳立だけは早く出來て居る、殊に小學校令を改正された時などを見ますといふと、小學校の法令の第一條などには實に兒童身體の發達に留意し云々と體育を陣頭に立て、旗幟鮮明に御膳立は出來て居る、何と云つても道德は國民の身體發達上に留意しなければ行ひ難いのである、即ち體育に留意するといふことは總て教育の出發點であるといふことを明かに示して居りますけれども、残念なるかな實際に於ては之を扱ふ所の教育者にしても又當局者にしても、之を唯空文に屬させて居るといふやうな有様である、どういふ風に兒童の身體に留意するか、兒童の身體はどういふ風であるかといふ身體に付ての知識、又兒童を育てるに付て學校衛生の事から何から明確に教師が知つて居るかといふと、學校醫に依つてどうか斯うか誤魔化して居る、教育者自身に學校衛生に向つて精密に留意する程の考はない、又教育中の中心とも謂ふべき體操科といふ正科ですらも實にほんやりやつて居る是は後になつて御話しますが、明確な考を持つてやつて居らない、又一週三四時間の體操位やつて體育が濟むかと思つて居るのは間違ひである、それ位であるから體操科以外に時々刻々毎日獎勵すべき所の科外の運動等に付ても明確なる熱心なる研究を遂げて居らないものが先づ多いといふ有様である、近頃になりましたは斯ういふことに心掛けて來る所の學校長等が多くなつて來たけれども、まだ、學校全體より見る時には多いとは申されない、社會の根原になる所の學校體操、學校體操中の先頭に立

つ體育といふものが、斯る有様であるといふことは、實に我々は慨歎せざるを得ない所の現象なのであります。是は是位に御話を略して置きます。

更に範圍を縮めまして、其の中の學校體操科といふ正科にして居る此の有様に付いて少しく御話をし
て見たい、先程イートンカレッジ、亞米利加の大學等の有様を御話しましたが、即ち歐米諸國に於ては
各々學校で體育を一部とし、而かも主要なる一部として此の體操科といふものを考へて居る、從來は
善い加減にして居つた所も、益々此の點に向つて注意を致さなければならぬといふ風に總ての人の心
が向いて居る、即ち學校教育上に於て其の體育の中に於て體操科といふものに最も注意してやらな
ければならぬといふことは、もう彼等は少しも疑はない所、否、今日よりも大いに發展しやうとして努
めて居る次第であります、所で今度其のやつて居る事柄に付て申上げるといふと、從前の歴史に據れ
ば或は獨逸風に或は英吉利風、或は亞米利加風、色々其れはありました、又今後と雖も如何なる方法
を用ひまするか、其の人が違ひますれば自ら違つて参りますから一樣では無いけれども、熟々歐米諸
國に於けるところの體操科の有様は如何なる體操をやつて居るかといふことを觀察いたしまするとい
ふと、もう疑ひ無く人の身體を基礎としますところの體操は、即ち普通人の謂ふ所の瑞典の體操とい
ふものに皆歸着しつゝあるのであります、それはどういふことを申すかといふと、從來の體操は人の
身體を基礎とせないで他のことを基礎とした、器械を基礎として啞鈴を持つてやるから啞鈴體操、器

械を持つてやれば器械體操として器械の爲めに子供を持つて往く、所が今日はさういふことは段々棄
てられました、子供の身體を土臺として此の身體には斯うする、是をやるといふ風に兒童の身體を基
礎として體操の工夫をする主義である、是は最初瑞典に於て考へられました、人は能く瑞典の體操と
申しますが、何も瑞典に限つたところのものではない、兒童身體のことを基礎として考へまして、其
の形式やり方などは第二に置いて、先づ以て兒童の身體を考へる、言葉を換へて言へば則ち生理解剖
等の原則に依り、心理上の原則に従つた體操、之が兒童に適用するといふ風になる、是が從來謂ふ所
の瑞典體操、獨逸では瑞典體操とは言はないけれども、それと同じ主義を以て進むやうになり來つて
居るのであります、先づ向ふの學校で體操に身を入れて來る所の有様、用ひて居る體操の種類等を簡
單に御話すると斯様なる次第であります、而して愈々我日本の學校の體操、本日の主要な點に是より
御話を及ぼして参ります、我邦の學校體操科の從來の有様、並に今日の有様などはどうであるかとい
ふことを少し御話をして置きたい、先づ短刀直入に申上げますれば、我邦今日の有様は、此の體操科
に於て迷ひの時代より目が醒める時代に移る所の過渡期であると言ふて差支ないやうであります、む
づかしい言葉で云ふと、迷誤の時代より覺醒の時代に移る所の過渡期である、何でさういふことを申
すかといふと、從來の殊に三十八年以前の體操の如きは、明治十二年頃から日本で實施して以來の
體操といふものは何が何だか分らぬ、あんなものだと唯信じて居つて、どういふ譯で之をやるか、ど

ういふ意味で之を行ふかなどといふことは考へて居らない、體操と言へば唯腕を斯うやる、徒手體操第何節は斯うやる、唯やればそれで済むかの如く考へて居つた、所が私は二年前に横濱市の御依頼に依つて、停車場前の學校で御話をしたと思ふ、私は常に斯る體操のやり方をば讀方に譬へて朗讀流の體操と云ふ、意味なんぞは知らぬで唯朗讀して居る、もう少し古い寺小屋流で、體操も何にも知らぬ、唯讀書百遍義自ら通ずる位の體操さういふ體操、所がそれから後、或は瑞典の體操が這入つて來たり色々ものが這入つて來るといふと、従前たつた一つであつた位に思つたのが二つ這入つて來る、こいつはどつちが本當かしらんと思ひ出したのは偶然ではない、あちらの方が善い、あれが宜い、もう一つ出て來た、是はどつちが善いか分らなくなつた、そこで謂はゆる迷ひの時代に這入つて來た、イヤこんな體操がある、こんなのもある、或は他の人に聞くとこんなこともあると云ふので、益々迷ひ出したのであります、是が若し先程御話をした外國であればそんなことは無い、何故かと言へば、外國では社會に種々様々の體操がある、種々様々の體操の中よりして學校の體操はどれを用ひて兒童に教授しやうと初めから澤山あるものを持つて來て之に選擇を加へて用ひるから迷ひが無い、最初選擇も何も無く日本では何にも分らずボカッと一つ見た、實は歐米の社會に澤山ある體操の中から唯一つ持つて來て見て、それ切りだと、思つて最初迷信して居つたから迷つた、譯を知らずにさう思つたが、其の次他のを見せられたから迷つたのであります、そこで先づ其の時まで迷ひの時代、迷信時代、尙

此の後更に精密のことを御話いたしますが、此の我日本で普通體操など、いふものは、甚だ普通ではない、普通とは讀んで字の如く普ねく通ずると書くが、あれは普ねくは通じない、あれは普通ぢやない、あれは半分或は四分の一、半端の體操なんで、普通などと云ふのはちよつと烏澁がましいのである、而かもあれが普通であるなど、言ふが、どうして普通など、いふ名が附いたかといふことを考へて見ますと、ちよつとあれなどは歴史がある、其の歴史は先程御話した如く、我日本の學校體操は米國人ドクトル、リーランド氏が初めて教へた、其のドクトル、リーランド氏はマサチューセツト州のアマーストカレーヂの卒業生であります、アマーストカレーヂに於ては體操を學校で盛んに教へて大いに奨励した、其の奨励をする時に、如何なる學生でも色々體操をやる、先づ初めは徒手の體操をやる、又初めは啞鈴を持つてさうして十五分間許やる、それを終つてから或は器械を用ひる、或はベースボールとか或はフットボールであるとか色々のことを後からやつて往くやうに、あれは誰にも準備に施すところの體育の意味であります、そこで誰でもやるから共通です、其所から出たけれども、體育はそれで済むのではない、體操はそれで済むといふ譯ではなくて、準備の爲に十五分間許させましてそれから後に本文に這入る、準備を本文と心得るのは是は非常の間違ひと言はなければならぬ、故に從來此の普通體操と云つた徒手體操、啞鈴體操あゝいふ風のものはいち一部の體操である、それを全部と思ふが如きは大した間違ひであります、即ち我日本に來た本源を尋ねて見ますとアマーストカレー

チから持つて来たもので、即ち全運動の準備に過ぎない、而かも亞米利加だけに基いた、ところが獨逸の體操はどうであるかと思れば、國民の體格を強うする爲に工夫をしたものである、獨逸の體操の如きはどうかであるといふと、従前私共が想像して居つたとはまるで反對で、従前私共があゝいふ普通體操が獨逸から来た、獨逸の體操はあれだけと思ひましたけれども、熟々向へ往つて見たり歴史を調べて見ると、寧ろ獨逸本來の體操は、此の日本人に言はしたならば器械體操、即ち鐵棒に乗り、木馬に乗る、あゝいふ物で跳んだり躍つたりする習慣があつた、それであつたから成程理窟が分つた、初め獨逸の體操は大いに勇敢の氣象を養ふといふことでありましたから、私共はあれで勇敢の氣象を養ふのは困難である、忍耐力を養ふのは困難であると思ひました、獨逸の體育の根本になつて居るところは勇往快敢の氣象を養ふといふのは餘り附會と思つて居りました、それは本體を知らなかつたからで本體を見れば尤もの理窟を附けたもので、其の理窟を附けたところのものは、身を捨て、浮ぶ瀬もあるといふ風の勢で、殆ど日本人が見たならば輕業ではないかと思へる程危険の思ひをして斷行するところの器械體操であつたのであります、而してそれをやる前に、それに併行する爲にまづ弱い者にやらせる爲に謂はゆる此の輕體操といふものをやらせる、故に従來我々日本人が普通體操と云つたのは、獨逸の體操の準備になるところの輕體操に過ぎなかつたのであります、それを體操といふものはこんなものと思つて居つたのであるから、本當のものが出た強きものが出て來たから迷ふ筈であつた、

尙もう一つ其の間に軍隊で課せられる體操、兵式體操など、いふものがあつて、兵式體操の中で後に御話をする右向け左向けなど、いふ、斯ういふ規律的運動は別として、此の徒手の柔軟體操或は器械體操などがありますが、是は偶然にも強きもの、代理を兼ねた、丁度偶然代理をして居る形である、しかし元々は教育上から本當の理想を立て、是は準備は本體といふ關係であつたのではない、それで面白い、同じ目的を以てやるところのもの——是は普通體操、是は軍隊の體操と二つ同じ目的を別々の考へでやる、斯ういふ風の考へであつて、そこで尙性質より考へても壯丁に近いところの、中學師範等はまア左程ひどくないが、之を幼稚の兒童等に其の儘用ひるに至つては是は誠に憐れ果敢ないものである、何故かと云ふと軍隊體育は壯丁を専門的に軍人に短日の間に兵隊に仕遂げて仕舞ふといふ或特種の教育であります、専門の體育、特殊の専門體育壯丁に施すところの體育を、其の儘幼稚の生徒等に用ひたならば兒童の身體の發達など、いふことは何所を考へて居られるかといふことにならなければならぬのである、勿論其の中には用ふべき原素は有るけれども、専門に壯丁に用ふべきものを兒童に其の儘用ひるといふことは、我々が子供でも大人でも誰も同じ體格であるかどうかといふことを考へたならば到底出来る仕事ではないのであります、故にあれにはあれの長所が有るけれども、私は教育として偏頗なものと思ひます、尙其の次に採つて來たのは、三十四五年より瑞典の體操といふものです、日外御話したことがあります瑞典式といふのであります、瑞典式など、云ふのは瑞

典に對して大變濟まない、決して瑞典式などいふ馬鹿なことは言へない、身體の爲に行ふところの體操には式は無い、式の爲に人を持つて往くのぢやあない、身體の爲に體操をやる、身體の爲にやる體操に式は無いから、瑞典主義の體操で瑞典式の體操では無い、そこで私は今言ふ意味は瑞典式でない、瑞典主義の體操が我日本に行はれた、是は形の上から申せば亞米利加に於て適用した所の瑞典の體操が傳へられたと云へば、即ち理窟上から云ふと完全であるが、實際上から往くと多くは眞似形と言はなければならぬ、さういふものが先づ川瀬、井口兩氏等によつて、日本に傳へられるやうになつて來た、是は主義に於ては私共も同感で、あるけれども、多くの人の眼鏡が違つて居る、即ち自分が從來懸けて居つた青い眼鏡で見居る、青い眼鏡で見居るから今度來たやつは、本當は赤いけれど紫になつて居る、無色透明の眼鏡で見ると赤いけれども、從來の青眼鏡で見居るから紫と思ふ、さういふ風に大分誤解されて居る、それは致方がない、それでまだ本當に理解されて居らない有様である、さういふ風であるから、サアどうしても先程申します通り即ち迷はざるを得ない道理である、それを稱して私は迷誤時代と云ふ、併し覺て覺醒時代に移る段階としては歷史上已むべからざる次第である、迷信時代からハッキリと覺醒の時代に移るので、學問をして善い加減にして居ると分つて居るやうであるが少しも分らない、もう少し考へて見るとアアさうだと本當に分る、碌に勉強もしないで分つたとして居る、其の上に本當に勉強すると本當に分るが、途中で苦しい状態を経る、そこで我日本は

今日迷ひの時代になつて居る、迷ひといふことは誠に残念至極不感のことであるが、覺て覺醒時代に移る時、移り換るといふ歴史の上から考へますと、敢て悲觀すべきものではないのであります、そこで愈々然らば私の意見として、我邦の學校體操は如何に改正さるべきものであるか、是は文部省で昨年私共の發案を各地方に諮問いたしたけれども、是は小學校の御方まで普く今行渡らないで御承知ないかも知れませぬが、中等以上の諸學校の御方は御承知かと思ふ、唯茲に御斷りをして置くことは、あの草案は謂はゆる草案でありまして、少し名前は變はつて居りますけれども、内容は敢て違ひはありませぬから、先づあれを要目私案として、私は要目ではない積りでありまして、あれは唯改正を致します大骨の即ち方針であつて要目など、あれに銘を打つ積りではなかつたのでありますけれども、内容はあれで違つて居りませぬから、あれで宜しいとして御話を致します、所で是は私の意見として申上げる、私はあれを定むるに付いて聊か我日本の學校で整理を致すに付いては、どういふ風の方針で是をやるかといふことに向つて少し御話を置かなければならぬ、第一あゝいふ案を立てましたのは改革を致す積りでやつたのではない、改革と云つて何か前の者を悪いとして新しい者をひよつと出すといふ積りでやつたのではないのであります、從來參つて居ります、まだ外國に較べると少いけれども、幾つかあります、其の中でどれを取つてどれを捨てるか、二兎を逐へば一兎を得ず、二兎のみならず三兎も四兎も逐うては駄目でありますがどれを研究比較して取るべきかといふと、即ち整頓を

しやうといふのが目的であります、改革が目的でなくして整頓をしやうといふのが目的であります、尙第二に他の言葉を以て曰へば、新しく造らうといふことは考へない、それは永久考へない譯ではないが、今日の日本は新しく造るよりチリ／＼バラ／＼になつて居るものを、統一することが必要と思ひますから、新作、新造、新説といふことは私は大に避けた點であります、或人は私を捉へて新體操といふから私は大變不足を言ふ、それはいつまでも舊體操で満足して居らないが、現在のものは舊の舊の大舊である、決して新のものではない、段々チリ／＼バラ／＼にならずして統一する體操科にしやうといふのであります。

尙其の點に付て日本國內の有様から見れば、日本國內では先程申したやうな次第で色々な體操が出来て來ましたが、其の中でどれかを取らうといふのであります、尙之を對外的に申せば、何も外國人だから懸離れた特別な體操を拵へやうといふ考へは少しもない、外國人がやる丈けのことをやつて見る以上に、それ以上に發展するならば望む所であるが、外國人の仕事だからやらない、新發明をやつて見るなどといふことは宜くない、一體生徒となつたならば先生のやつたことは皆出來なければ先生以上になれない、我々は外國人の今日までの研究、今日までの經驗を見るといふとまだ／＼及ばざる點が多いからして、先づ外國人がやつて居るものゝ中で我日本に於て行はれさうなものを唯撰擇するに過ぎない、故に頗る機械的である、どんな良い説でも安心しない、どの人に聞いてもどの國に行つて

もやつて居るものを先づ安全なものとして取る、故に今回施す所の此の改正は成べく世界を通じて誤らない所の材料を用ひたいといふのが主眼であります、創設的に工夫しやうといふことは之を實行した後に譲らなければならぬといふ考であります。

それから尙材料に付て申すといふと、今日、日本人の有様を見るといふと、外國人よりは社會全般の知識が不足であると同時に、教育家の中に見ても幼稚なものがあることを認めなければならぬ、幼稚な者には幼稚な物を宛行はなければならぬ、餘り複雑なものは日本人にはやり兼ねるといふことを案じたのである、故に材料は外國から出來得る丈け少く取つた、詰り成べく簡要精選の主義を採つたのであります、随分時に依つてはどなたも同じことで、材料は是もよいから取らうそれもよいから取つて宜いと思ひますけれども、逆もさういふことをしてはいけないさういふ積りで成べく割愛主義を採つたのであります。

それから次に申上げることは、尙從來やつて居つたものを聊か違へた點がある、改正した點がある、其の改正も私が改正したのではない、人の改正したものである、又從來青い眼鏡を懸けて見て居つたもの赤いものを紫と云つて居るものを本物の赤と改正したに過ぎない、言葉を換へて言へば、從來無かつたけれども、世界の人が此の材料を用ひて居るといふ所があれば、其の從來無かつた所を加へたのであります、此の方が屹度良いといふものを加へたがある、又從來やつて居るものを捨てたものが

ある、從來やつて居るもので間違つて居るものがある、十年前にはさう思つて居つたが、今日はさう思はぬといふのが、私の意見でなく世界の意見であれば喜んで改良したのである、故に改良したと云へばそれ位のものであつて、大體は總理統一といふことが目的であるのであります、さういふ考から案を立てまして今日以後日本人に行つて貰ひたいといふことを私共考へて居るのであります。

そこで其の考の結果、我邦の學校體操科はどういふ風に整理せられたか、其の結果の一端を申し上げなければならぬ、あの草案を御覽になつてもあれはちよつと分りませぬ、私の手帳を御覽になつても私が何を手帳に書いて居るか分らぬ、あれは私の手帳位のものであるならば、私以上の方には十分御分りになるか知らぬが、私と同等以下の方には中々御分りになるまいと思ふ、そこで私は聊か諸君に向つてそれを説明する義務を持つて居る。

第一、體操科の教材に於て教練(ドクトル)とかディスンプリンとかいふのであるが、他の言葉で言へば規律的運動といふものがある、從來日本の隊列運動といふのも其の一つである、從來の小隊教練、中隊教練といふのも皆此の種類である、是には色々あるけれども、歸する所大勢の者を一緒に集めて團體的、規律的行動をさせる、主としてあの教練が目的であります、そこで此の規律的運動なる所の教練は如何なる方針で行ふことに整理を致したかといふと、是は我日本に於きましては大體に於て陸軍の歩兵操典に依るといふことに致したのであります、是が外國ならば外國の歩兵操典に依つて整理いた

しますが、我日本のことでありますから我日本の歩兵操典に依るといふことに定めたのである、之に付ては地方の御方などには大體のことが分らぬやうであるが、小隊教育、中隊教育をやるのは勿論是であるが、我生徒の如き軍隊に劣とらないやうにする、例へば歩くにしても歩調取れと歩調止めのこゝとしか操典には載つて居ない、敵を相手として命を賭けて進むこと、勇往邁進することを本旨として居るので、それきりしか操典に載つて居らない、それで彼等が道を歩くにも廊下を歩くにも歩調を取つて居らないのは御覽の通り、人の家の座敷に行つて歩調を取り、家の前に行つて歩調を取るといふことは如何に兵隊と雖もやらない、唯操典にはそれは明記してない、けれども學校生徒の生活にはそれが皆必要である、而も規律的運動といふことは動かんと欲せば動き、止まらんと欲すれば止まり、静ならんとすれば静に、強からんとすれば強く、進退動作之に適ふを以て宜しきを得るとして居る、故に勇氣を以て敵前に出やうと思ふならばそれも出來、敵の前に静に出やうと思ふならばそれも出來る、故に學校生徒の如き軍隊と同じやうに進むこともあるが、又廊下などの歩き方や家の内の歩き方も其の時の事情に依つてするが宜い、命まで賭けるといふやうなことを總ての場合に行ふことは却て事情に適せない、而も軍隊と雖も勇往邁進と云へばいつも宜いと思つて居るけれども、これは或時は非常に宜い、勇氣を出す時に勇氣を出すのは結構である、軍人は武勇を貴んで女々しいことのあつていけないことは分つて居るが、併ながら勅諭の五箇條にも血氣の暴勇は戒めてある、而も常に人に交

るには温和を第一にせよといふことがある、是は決して勇往邁進の氣象と衝突するものでない、武勇といふのは武骨といふものではない、靜に往かんとする時には如何に苦くても靜に歩くといふのが軍人の勇氣である、歩くといふのでも其の時の境遇に従つて歩かせなければならぬ、而も軍隊に於ては一に兵をして、此の戦に役立つを以て主眼として居るのが専門の教育である、故に其の教育に依つて立つた所のものはそれと同じ機會に於ては其の通りやるが當然である、それと異つた場合に於ては種類の變化斟酌をしなければならぬ、故に私共は學校生徒の歩兵教練は大體に於て歩兵操典に準據をすることにしたので單に其の形式にのみ従ふとはせないのであります、從來同じ右向け右……にしても徒に異にして居た師範學校などに行つて見ると普通體操の先生が来て、氣を附け、右向け右……斯うやる、兵式體操の先生が来て氣を附け右向け右斯うやる小學校などに行くところ更に面白い、或小學校を見た時に、男の生徒を前に置いて、女の生徒を後に置いて、先生が同じ號令を掛けて右向け右、前へ……男は一つ待つといふ様の事をやらして居る、さういふ風に師範生徒などが同じ心を以て同じことをやらせる時に使ひ分けさせる、是等はどつちかにならなければ不都合なことは分つて居る、所で此の點はどうしてそんな妙なことが出来たかといふと、是は三十八年の取調委員の落度であると思ふ、ちよつと何かしら間違つたのだと思う、考は私は少しも違はぬといふことを知つて居る、何かといふと、あの取調委員は斯ういふことを言ふて居る、體操科に於て而も特に一定すべき必要ある事項

としてある、特に一定すべき必要なる事項として、右向け等を規定してある、所が何でさうしたかといふと、現今の教練に於て一つの教練があるといふことは忘れたい、忘れたらこつちに別なやり方がある、こつちに別なやり方をすれば二つになることは三歳の童子も明である、之を一定するならば一定にしなければならぬ、其の一定は是からは規律的の運動をして、兵隊のは棄て、此の通りにせよといふならば之れも主義あつての一定、そんなことは止して、全く我國軍隊の通りにせよといふならば之れも主義あつての一定、一方は其の儘にして片方を一定といふことであるならば何か抜けたに相違ない、即ち其の爲めに今言ふ通りの奇觀を演出したのである、所でさういふことであつたらなく日本の教育家を迷はして居つたのであるが、斯んなことは今はもう問題にならない、英吉利に往けば英吉利軍隊の運動の法がある、亞米利加に往けば亞米利加の軍隊の法がある、瑞典に往けば瑞典軍隊の運動の法がある、學校は其の通りにやるが當然である、日本の學校が瑞典の軍隊の法を學ぶに及ばぬからそんなことは關係がない、高等女學校などは兵隊になるのでないからどうでも宜いといふが、私共は規律的になることを以て主として居る、社會の規律といふものは精神は勿論、形式に於ても成るべく變らぬのが社會の人に勵行し易い、而も男の規律と女の規律が從來日本人が考へたより變つては困る、殊に高等女學校の生徒が突然這入つては來ない、皆小學校を通過しなければならぬ、此の間までは小學校で此の規律的運動を與へられて、高等女學校になつた爲めに別なものを與へらる

るといふことは利益がない、同じ精神で仕上げて行つて宜い、高等女學校になつたならば特別の規律運動にしなければならぬといふことは我學校に於て毛頭認めない、故に斯かる運動などはどつちがむづかしいとか、足を斯うやるとかいふやうなことは、所謂一擧手一投足の勞のみ之をどつちをやつて見た所が胸がどうかいふやうなことはない、斯ういふことも規律上は大切なことであるが、身體上からそんな大切なものでない、それを枝葉の所に理窟を立て、どつちが宜いかいふやうなことを言ふのは、是れ即ち大局に通せざる者の爲す所である、故に私共は大局の上から見まして、さういふ風に一方に準據することに致したのである。

所で變で序ながら申して置くことは、此の教練といふ大事な規律的運動を、運動準備だの準備運動だのと言つて居る方がある、是は二つの點から間違ひがある、第一は準備の運動でも何でもない、是れ自身が立派な運動である、是は規律的運動といふ純然たる立派な運動である、もう一つは運動準備など、いふことは何處から出たかといふと、ズット昔の所謂普通體操をやる時に兩手を開かしたり色々しますから其の初のことを運動準備だといふことから出て居る、もう一つは體操の基本的形式に初に運動準備といふものがある、それには歩かせることや何かありますが、それだけと思つたらしい、所が運動準備など、いふことは即ち物の用意をすることで歩かせるに限つたことはない、頭を動かさせることも手を動かさせることもある、即ち後の用意をしなければならぬ、用意といふものは何も歩

くと限つたものでない、そこで運動準備といふものは何も歩くに限つたものでない、下肢の運動の如き、上肢の運動の如きも運動の準備と稱すべきものである、即ち教練を運動準備など、思つて居ることとは、教練といふものを定義なしに考へて居る誤解と、もう一つは運動準備の趣意を了解して居らぬといふことの二つの間違ひであります、そこで教練に付ては大體それ位に御話を止めて置きました、三時間の約束で今丁度半ば頃に當つて居りますから、爰でちよつと十分間休憩いたします。

先程規律的の時に即ち教練のことも序に御話を簡略にして置きましたから、第二は體操科の中の先づ本分とも云ふべき體操といふ英語のヂムナスチックス、狭い意味に於て申す次第であります、是は先程申上げました通り今回の整理に於ては、謂はゆる瑞典主義の體操に致したのであります、即ち世界的承認を受けて居る所の方法に準據することに致したのであります、之を明治三十八年に各大家が取調べられました報告された所のもものと比較いたしますといふと、稍々同じ精神であるけれども其の強さを異にしたのであります、三十八年に於ては瑞典の體操を大體に於て採用すべきもの云々、併し從來の體操もといふやうな風に言ふて居つたのでありますけれども、今回はさういふ二兎を追うては詰り一兎も得ざるやうに信じたのであります、何もその劣つたものをそんなにクヨクヨするには及ばぬ少しでも良いものがあるならば我々は日進月歩の主義から、從來やつて居つたものを惜むには及ばぬ從來やつて居つたものを保つて置くやうなことをして居つては百年待つても改革改良はむづかしい、

我々の仕事といふものは激變急變は宜しくないが、確かなる調の上に於て、確かなる經驗の上に於て、是が良いといふならば何も從來のものをさうクヨク云ふには及ばぬ、故に今度は一層強くして始て其の従前大體に於てと言つたのを、根本的に先づ此の方に重きを措くといふことに決めて仕舞つたのであります、そこで三十八年の取調委員も其の點に付いては殆ど同様のやうに見えますけれども、聊か強さを異にして居るのであります、そこで一々具體的に申して往くと、體操に於て普通や兵式といふ言葉は我々は廢して仕舞つて、兒童の身體の爲に施す所のものは兒童を基礎とした所の體操である、普通だの兵式といふ言葉は不都合であるから、さう云ふことは斷然棄て、仕舞つたのであります、其の次には從來は色々の名を其の物に由つて附けたのが澤山ある、或は徒手の體操とか柔軟體操、矯正術、美容術、啞鈴體操、球竿體操、棍棒體操大きく言ふと器械體操、夫々物を使ふと直ぐに體操に名を附ける兒童の此の部分(場所を指す)善くする爲に、此の全身を善くする爲に是だけの運動があるといふ基本を決めて置いて、そいつを貫くには斯ういふ方法がある、斯ういふ方法には斯ういふ器械があるといふ理想的秩序ある方法に據らないで、方法や物に名を附けてやつた、故に其の間には同じ性質で名の違つたものが甚だ多い、例へば徒手體操、柔軟體操、矯正術と云ひ美容術と云ふも皆同じもので違つたものではない、軍隊限りで用ひる徒手も同じである、其の徒手はどういふ點に在るか云ふと二等卒に應用する、二等卒を完全に矯正する爲に用ひる體操、特に柔軟體操は何だと云ふと其の

矯正する爲めに堅くては出来ぬから謂はゆる柔らかにして揉み解す、柔らかにするから柔軟と云ふ方便がある、それから矯正術これはそれに由つて矯め正しうして善くする矯正術、是は其の意味から名を附けた、美容術、美容術といふことは近頃は言はれないが一度ちよつとあつた、それはどういふこととで名を附けたかと云ふと其の矯正したところの結果自然に優美なる體勢になる、それで美容術、是は顔などを立派にする美容術ではありませぬ、さういふ風に皆同じ性質のものである、殊に同じ意味を濫用するのはひどいもので、全く其の體操の中の一部となる所の斯うやつて斯うやる體操(形容を示す)あれを整容法と云つて居る、即ち體操をして正しくする所の法、體操をして正しくしないものは仕様がありませぬ、悉く皆整容法であるが、あれだけ整容法と云つて他は實際善い加減のことをやつて居る、さういふ風に總て物に由つて名を附け、事柄に由つて名を附けるからあんなことになる、今回は皆さういふことは取去つて、唯兒童身體の發達に應じて身體の要求はどういふ運動であるか、身體の要求する運動の性質に由つて名を附けることになつて居ります。

それから次の點は謂はゆる連續體操、連續體操といふのは三十八年後に却つて出来たやうで、三十八年前にありましたところのものは、普通體操に先程申しました通り、謂はゆる輕體操といふ一部の體操を成して居ります、けれども其の後に生じたる連續體操といふものは、是は不合理でありまして成立つべからざるものであります、これは先程申しました通り即ち青い眼鏡に由つて成立つたものであ

る、所で茲に諸君に體操といふもの、主眼を御話して置かなければならぬ、ちよつと連續運動の不合理なるものを云ふには、此の體操の一つ主眼とする所を言はなければならぬ、體操は勿論身心の均齊發達することを主眼として居る、而かも其の均齊を知るに付いて尺度となるべき標準がある、どういふ物を以て標準とするか、是は何れの點から考へるかといふと、此の事柄は第一に我々の身體の部分即ち解剖上から見まして體操では最も何所を注意するか、身體の何所が宜いかと云ふと胸で見ます、指の尖、足の尖や耳などでは見ない、此の胸である、何故かと申しますと云ふと次の生理上の事で解かります、第二今度は生理的から見ましてどういふ所を主とするか、總ての働が大事でありまして考へなければならぬが、其の働が果して圓滿に行はれて居るや否やといふ所を知るのは何であるかと云ふと呼吸であります、息をすること、そこでは全體操悉く呼吸を盛んならしめることを目的とする、呼吸を妨げて居るのは即ち生活を妨げて居るのである、丁度能く醫者が我々の健全を試めすのに先づ脈を診ます是は御承知の通り血液の循環を見るのであります、心臟を見るのであります、所が體操をして居る者が、オツと斯うやつて脈などを取つたならば走られない、そこで脈と同じに見る所のものは先づ此の呼吸であります是が正しく行はれて居るならば、血液の循環は大體宜しいのであります、呼吸と血液の循環は相待つて居る、醫者は脈で見るといふ説明で大抵御分りになると思ひます、尙贅言を付しますれば、我々が強いが強くないかなどといふことは一番呼吸が影響し

て居る、先づ強い人の息は氣焰萬丈など、云つて勢ひがどうも恐ろしい、虹の如き息を吐くけれども、弱つて居るとか失望したとか、失敗でもした時は青い息を吐いて居る、尙寢て居つても知れる、健全の人は鼾聲雷の如しとあるけれども、弱い人は是は息が有るか無いかと云ふ、而かもそこで思ひ出すことは熊ですら人間が死んだか生きて居るかを見る、どうして分るか、脈搏ではない、鼻の上に熊が手を翳してフンと云つたときには、ア、是は生きて居るといふので直ぐ突撃を加へるけれども、息が無いと死んだと思つて手を着けない、熊ですら呼吸を以て人間の生死を知る、そこで強いが弱いか息で知れる、先づ此の呼吸などは誰も能く知らぬ、所が今言ふ通り、熊すら知るものを學校の先生が知らぬとあつたら大騒ぎである、それで即ち此の生理上からして尺度とする所のものは呼吸であるのであります、それで呼吸の在る所は第一に述べた胸廓であるのである、而して第三に心理上から言へばどうであるか、之は連續體操に最も關係のある點であります、最も著しいのは隨意筋である、隨意筋の由つて動く所は即ち意志の修練であります、英語で言へばヴォリシヨナル即ち意志の修練である、空々漠々にやる所の運動と、此の如く意志を注いでやるとは大變な違ひがある、之を昔は筋肉を強くするだけと申したが、我身體を立派に支配する所、身體を養ふのが我體操の目的である、我身體を立派に支配するのは何で支配するか、即ち此の腦髓で支配する、即ち支配して能く言ふことを聞くやうになれば我身體は自由になる、故に體操に於ては意志の修練に由つて、即ち隨意筋に由つて我身體を

良くするものである、故に心理上から云ふと意志を主とする、そこで體操をやるときに、喉の運動であるならば、斯うやつてグルツとやつても運動であります、唯歩くのも是も運動であるけれども、斯ういふ歩き方はそんなに意志を注いで居らぬ、此の時に一步一步ウン：ウン：…そんなことはして居れない、所が體操ではそれをする、一步前へちやんと出してちやんと揚げて、ちやんと意志を注いで居る、それは先程の教練の方にもある、勇往邁進意志を注いで、矢張り意志をそれだけ特に使つてさういふ方法でやる、今手を動かすにして、意志を注いでちやんと一々前へと皆寄せる、そこで静かならむとするときには静か、速かならむとするときには速か、止まらんとするときには止まる、といふ風に身體が言ふことを一々聞く、進退の間、座作進退皆我意志に依つて、我身體を支配するといふのが、體操の目的であります、故に空々漠々たる運動は運動として役立ちませぬ、體操として價値が無い、そこでそれが先づ此の體操に於て主眼とする所の三點である、そこで從來の所謂連續體操といふもの、骨子はと云ふと、實は其の體操の主眼は固より瑞典主義の精神の在る所を知らない結果、連續すべからざるものを連續して居るものが多い、連續すべからざるものとはどんなものであるか、それは色々有りますが其の二三を例せば其の一は胸を張るなど、いふ運動、胸を張る、斯ういふ風に（動作を示す）胸を張つて後ろに反る、斯ういふ運動は手などをヒョイツと動かす運動と違ひまして、斯ういふ所を良くしやうといふには餘程穩かに意を注がなければならぬ、穩かに意を注ぐに従つてさ

う早くは出来ない、先づやつて仕舞つて能く出来たか出来ぬか分らぬ内に元へ復しては役立たない、そこで斯ういふ運動をやるのは遅くて、而かもやつて仕舞つたならば暫く止めて置かねばならぬ、そいつを若し終始連續體操の意味で總て一二三四五六などと云ふ（動作を示す）まだ出来たか出来ぬかかさつぱり分りはしない、是位はまだ宜い、甚だしきに至ると、こいつに是などを加へる（動作を示す）もう體操に於て是などは是をちやんと斯うやつて斯うやる（動作を示す）のは餘程むづかしい、是は體操の経験ある人も尙難しとして居る所である、それを唯斯うやるんだから造作ないと思つて徒手體操、連續體操に於てもうドン／＼やる、大人でも難しとする所を兒童にやらして居る、故に多くは全く分らない、其の多くは胸は張れないで腹ばかり出して居る、即ち是等は連續すべからざるものを連續したからさういふことになる次に平均運動といふのがある、全身調和の運動、其の文字から云へば斯うやつて立つて居つても平均です、平均しなければ立つて居られませぬ、歩くのも平均です、此の平均は…皆さんは子供の時を忘れて同情がないから御笑ひになるけれども、子供が立つまでどれ程の苦心慘澹をするか、それから歩くまでどれ程苦心をするか、餘程骨が折れるのであります、今はもう大人になつて平氣な顔をして居りますが、初はなか／＼骨が折れるのであります、故にさういふ理窟を附けますればそれでも平均運動であります、けれども體操に於て特に平均運動と名を附けるのは、斯かる平生の状態でなく、或特殊の機會を與へなければならぬ、そこで唯立つて居はしない、

之を片足で立たせる、是は普通の状態でない、平均をむづかしくした丈けに保つて居なければならぬ、之を意味なしに連続してバタ／＼やつたらどうです却て立つて居るよりも易い位、故に平均運動といふ場合にはちやんと全身の平均が取れるやうに保たせて置かなければ効がない、其の保たせて置くべきを連続させるのが一の誤です。

それから次は懸垂運動、取調委員は上肢運動と云つて居ります、それを混同すべからざることは後に申します、懸垂運動はブラ下る運動である、此のブラ下るのは尋常一様でない、餘程決心しなければブラ下れるものでない、私共子供にさせたり女などにも教へて見ますが、力が無いからボタリ／＼落ちて仕舞ふ勇氣の無い者、自信の無い者は懸垂は下手です、そこで懸垂をするにはちやんと身體を保つて居らなければならぬ、斯ういふ運動は調子を取つて連続などしてやられる運動でない、所がそれを後に往つて御話するが、上肢の運動など、混同させて仕舞つて居る、上肢の運動は連続が出来ないけれども、懸垂運動は連続などされる運動でない、それを上肢の運動と混同して連続運動など、いふのは沙汰の限りである、更に跳躍運動、跳躍の中に連続のものがある、即ち走るものは切る譯にいかない、勿論木馬を跳ぶのは駆けて行つて跳ぶまでは連続するが、それは從來謂ふ所の連続とは違ひます、跳躍は懸垂と同じに本来の意味に従へば、全身を激烈に動かして極めて強く體力氣力を練る所の方便である、一身を犠牲に供してウント跳越して仕舞はうといふので、さういふものは所謂連続など

は出来ない、それを跳躍は字の如く跳ぶのだ、跳びさへすれば跳躍、さうするとビヨン／＼と一寸足を舉げるのも跳躍と考へて居る、けれども特に稱して跳躍運動といふものは斯かる子供欺しのものではない、少くも全力を盡して走る位のもでなければ跳躍とは云へない、それ等を矢張り連続の間に入れて跳躍運動をやつたなど、喜んで居るのは、精神上から云つたならば逆も比較になるものでない、ある物を跳越してやらうといふ意氣込はビヨン／＼跳ねて居るのと比較にはならない以上やさしいものから云へば平均運動なり、胸を張るなり強いものから云へば跳躍運動、懸垂運動といふものはなんと云つても所謂連続の出来るものではないのであります、それをば曲解いたして従來の青い眼鏡を懸けて形式中に連続してやらうとしたから所謂妙な連続が出来た、是は無理に形式に合した所の弊であります、天下廣しと雖も世界に斯かる妙な連続を工夫した所の人はない、あれば木に竹を接いだよりはもつとひどいかも知れぬ、木と竹なら同じ植物だが、あんな風にやつたならば石にでも竹を接いだやうなもの位に近い、是が即ち所謂連続體操といふものは世界に成立つべからざる性質のものであるといふことを話したのであります、殊に形式に合してやるに至つては絶対に成立ちませぬ。そこで御断りして置くのはあの形式でなくして上肢なり下肢なり連続すべきものを連続させるといふ、従前やつて居つた普通運動はあれなら成立つが、三十八年のものは成立ちませぬ。

次に少し専門的になりますけれどもちよつと御話して置かなければならぬ運動の種類部門別け、此

の種類別に付て三十八年の取調の報告は稍々退化の氣味がある、是は御意見を承はらなければならぬが、兎に角退化の氣味がある、極く昔は頭の運動、體の運動、臂の運動、脚の運動と斯う四つに分けた、是は瑞典主義の元祖としてリンクでもそんなのであつた、斯ういふ風にぼんやり身體を考へて、それに應ずる所の運動を致した、所では凡そ百年前の瑞典が是でありましたが、其の後瑞典は年々歳々改良が出来て變つて來た、所が我日本の軍隊の體操は先づ此の程度に在る、瑞典の九十何年前と殆ど同じである、それからどう變つたかといふと、總て物は同時に多くの部分を正しくしやうとすれば一部だけを十分に正しくしやうと思ふ程正しくならぬ、社會は分業に依つて發達する、商賣人でも何でも本當に發達すると、或店に行けば或物しかない、所が昔は八百屋に行けば何でもあつた、是は段々さういふことはない、精密に段々此處を良くしやう、此の部分を良くしやうといふやうに考へて來た、段々さう考へて今日はどうなつたかといふと、頭丈は矢張一つで顔を良くする體操、後ろを良くする體操は出來て來ない、所が體は幾つにも分れる、先づ第一に胸を正しくする、それから今度はそれと反對に背の方を正しくする運動、今度は腹の方を正しくする運動、今度は横の方かう見まして横腹とは俗語過ぎるが、良い言葉がない、それで假に軀幹側方、兎に角横腹の運動さういふ風に同じ體を今申したやうに諸方から考へ、從前の體の運動でも自然に、横も腹もあるが、脊の方になると之を正しくするといふ考がない、特に胸を良くしやうといふ考は無かつた、實際それだけぼんやり致し

て居る、それから今度臂の方に往きますといふと、身體の方の一つの部分はさういふ風に精密に考へて來たが、臂の方は精密に云ふと指に往たつり何かする、所が考が皆中心に近寄つた、全身の健康を維持するに付て指がそんなに重大なものでない、軀幹部が我健康には大事な部分である、或獨逸人などは其の考が枝葉に分れまして先の方に往つて仕舞ふ、それで指の運動を初めた、所が瑞典主義は主眼が全身の健康に在る、大なる本部にあつて枝葉の方に無いから中心に往つて仕舞ふ、即ち肩の關節に依つて臂は大きく動く、それが最も胸廓に影響し、最も全身に影響する、故に指の如きは大體の目的たる健康上から云ふと枝葉である、故に臂とは簡單なる臂でなくして却て肩を含むのである脚の方も同じことで上體の關節、腰の方が大事である、故に立つて居るのが正しいか否やを見るには腰のしつかりして居るか否やを見なければならぬ、さういふ風に總ての機關に於て健康の中心たる所の内臟周圍の本部に重きを置いて、考を精密にして參つたのであります。

所が又一方に於て斯かる部分的に練習することの必要を認むると同時に、全身的に練習することも極く大事なことである、それで全身的の運動を段々考へた、殊にそこからして遊技などいふことをも加ふることに至つた、遊技といふものは此の部はどうしやう、あの部はどうしやうといふてやるべきものでない、あれは自然の衝動的に行はれて愉快にやるものである、それで體操と遊技とは併行してやらなければならぬといふ考が成立して來たのであります、一方では極く精密なると同時に一方では

全身的の運動を加へ、而も統一すべきもの、相俟つべきものといふ考を向けて參つた、そこで體操の方の全身といふのはどういふものかといふと、靜かなものでは先程申した平均運動、是は足で立つて居りますが、手でブラ下つて居つても平均ですが、足で立つのが多い、けれども全身をちやんとして居らなければ平均は取れない、故に我身體を穩にする所の平均運動、是は取調委員が全身調和運動と云つたのであります、それから強い方になるといふと先程申した懸垂、是は手でブラ下るけれども、手でブラ下ると思つたら大變な間違ひ、なか／＼強い全身の運動、もう一つは跳躍運動、跳躍も脚のみで飛ぶと思つたら大違ひで、非常な全身の力を要するものである。殊に跳躍に於て空中に飛揚して居る間に我身を眞直にしたり或は横にのばしたりするといふことは非常な心身の運動である、斯ういふのが總て全身の運動であります。

種類別をすると先づ是丈けであります、所が茲に方便的種類がある、それは何かといふと呼吸運動、なせ之を方便的と云ふかといふと、實は體操では呼吸運動など、特に言ふには及ばない、全體操は悉く呼吸を主として居るものである、而も胸を張る運動、胸廓を擴張する運動などは非常に呼吸を盛にする、又飛んだり跳ねたりするのは激烈なる呼吸運動、諸君が御やりになつて息が切れるのは山に登つたり何かするので、是が呼吸を盛にする方便として最も良いのである、故に呼吸作用を盛にするに云へば強く運動すること、思つて居らなければならぬ、全體操悉く呼吸運動である、而も強き運動程

呼吸運動と云つて宜い、然らば特に呼吸運動とはどういふ方便かといふこと、強き運動をすれば我々の呼吸が忙がしくなり、活潑になるけれども落付かない、それを補うて落付かせる爲めに施すものである故に是は呼吸を唯盛にするのでなくして、呼吸と調はせるといふ目的を以てする、運動である故に或體操家或學者は呼吸運動といふ一種類を設けない、是は終りの矯正的運動としてやる、何を以てやるか、上肢運動を利用したり下肢の運動を利用してやるといふことになります、併し實行上は運動した上は仍ほ身體を常態に復らしめなければならぬ、それに付ては呼吸を調べるのが大切なことでありますから、方便としては大切なことである、故に種類としては這入つて居らぬが、方便として呼吸運動といふ一項を設けてあるのであります。

そこで、取調委員は往々此の部類別を併合した、折角斯ういふ風の考へ、頭なり胸なり、一時一事で謂はゆる一局部であるものを特に一緒にした、それから又是と是を一緒にして居る、肩と背がクツ附いて居る、昔の肩胛運動を背に併せるはよいが、單に肩としてある肩は寧ろ上肢の方に附くべきものである兎に角是と是を一緒にした、折角幾つにも骨を折つて別けたのをゴタゴタにして居る、故に斯ういふことは發達上から申しますと、退化であると申さなければならぬ、それで私は瑞典に於て百年も掛つて段々發達して來たといふことを御承知になれば、幾ら偉い所の日本の大家でも、百年掛つて今日にまで發達したものを、二年か三年で勝手に廢するといふことは慎重の態度でないと思う

私共は勿論日猶淺いことでありますから、こいつは從來の苦心慘澹したる所を尊敬いたしました成るべく從來の方法通りやつて居ります、若し諸君凡そ我々が將來發憤いたしました、是より精密なる尙合理的なる方法があつたならば、それは幾ら變へても宜しいが、まだ今日吾人の程度は、其處には進んで居らないと思ひます。

次は運動の性質に付いて此の取調委員が稍々誤解して居る、前に連續體操、さういふもの、誤解は申上げて置いたから、是は省いてそれ以外のことを申上げる、先づ第一に言ふべきものは上肢と懸垂との混同である、成程懸垂する、斯うやつて(動作を示す)懸垂するには手を舉げる、斯うやつて手を舉げると此所の筋肉の動いて居ることは似て居りますが、働は全く違ふ、色々の點から違ふ、第一に働く方向から言へば手を舉げると支點が下になる、臂丈を舉げればよい、所がブラ下るといふやつは上に支點があつて、さうして子供でも何貫目大人なら十貫目といふ全身の重みを持たなければならぬ、一方の手を舉げるのとは違ふ、十貫目の身體をこつちで支へるから、全く反對に斯う働いて居る、斯う働が違ふから強弱がある、假令小さい子供でも腕を舉げる位は出來ますけれども、ブラ下るなど、いふことは、もう小さい子供や訓練しない女であつたならば随分むづかしい、先刻お話する通り、懸垂といふことは唯ブラ下つて居るやうであるが、勇氣と自信とを要する、況や懸垂して後に色々の運動を加へるとしたならば中々勇氣を要するものでありますけれども、手を舉げる位はどれ程の勇氣を

要するか逆も比較にはならぬ、それから尙此の運動を用ひる方法に付いて混同して居る、と云ふものは、懸垂運動は中々力を要する、故に斯ういふ運動を始めるときには、餘程強い運動であるから運動の真ん中頃、さういふ積りで用ひますけれども、上肢運動にそんなに骨の折れる運動ではない、而も此の運動を行ふときには全身の血液を活潑にする、寧ろ是は即ち準備的運動に用ひる、懸垂は中央本部に用ひる運動で、上肢運動は準備に用ふべき方法である、さういふ風に性質が色々違つて居る、然るに其の動く部分が似て居るからといふので、上肢運動と懸垂運動を一緒にして仕舞つた、之れ本來の性質を失つて居る一つであります、で、彼の人々の説明を聞いて見ると、あの運動は動かす部分で名を附けた一體動かす部分で名を附けるといふのは、餘程已むを得ずして私共も附けることがあります、すが、主義として動かす目的で名を附けなければならぬ、問題は鳥渡他の例に往きますが、我々がクビと見るのは、是は頭です、頭とは言はない、此所の運動は兩方名が附く謂はゆるヘッドエキザサイズ(頭の運動)ネックエキザサイズ(頸の運動)と二つある、諸君御承知の通り謂はゆるヘッドといふものは動くべき機關ではありません、此の密接した頭蓋は動く筈はない、動くのはこつちの頭である、けれども運動の目的は何所に在るか、運動の目的は我精神の宿る所、我精神の窓の開く所、最も上端の正しく置くべき所が、心身一致の關係を有つて居る、頭である所で頭を正しくするといふ目的であります、そこで頭を正しくするといふので頭といふ字を使つて居る、そいつを方便であるから、

頭であるネックとして仕舞つたならば動く部分に名を附くることになる。故に懸垂の如き勇往快敢の氣象を養ふのに、動くだけの部分に附けたといふのは今のやうに間違つて居る、是は決して混同すべきものではないのであります、次には胸といふものは腹といふものとの混同、胸と腹の區別をされない、腹と胸との練習は、鳥渡同じ様に見えて大に差があるものを説明する、胸を張るには諸君御承知の通り斯うやる(動作を示す)そこで斯うやるのは宜しいが斯うやる(動作を示す)と體重が後ろに往く、體重が後ろに往けば倒れては大變でありますから腹をツイ引張る、そこで成るべく胸を張らうと思へば此所(腹を指す)を弛めて置かなければならぬ、そこで胸を張るときには成るべく此所の骨を屈げぬやうに、此所らを眞直にして胸を張るのです、所が腹の運動となると丁度それが斯うなる(動作を示す)直腹筋の練習で、是はちやんと是から保つて居つて弛むことはない、弛めば斯うなる(動作を示す)後ろへ斯う往けば倒れて大變だ、それでさう引張らるれば直腹筋の練習であります、それですから腹の筋肉の練習をしやうと思へば後ろへ倒す、胸を張らうと思へば成るべく倒さない、斯ういふ風に差があるそいつを混同して居る、序ながら御話をしますが、一體立つて居つて後ろに胸を張るのは中々六かしい練習であります、最も完全な練習は後ろにやつて後ろで物に支へをさして體重を後ろに托す體重を後ろに托すと前の腹筋の働きがらくになつて思ふ存分に胸が張れるのです、腹の練習とは大に其の模様を異にして居るのです。

それからもう一つ申上げて置くことは體操其の者ではないが、體操をやるに付いて用ひる所の始めの姿勢がある、例へば胸を張らうと思へば、手は斯うしてやるが宜い、足は斯うしてやるが最も宜い、とか立つてやるが宜いとか、坐つてやるが宜いとか色々ありますが、さういふ風に……どういふ風にしてやるのが一番胸が張るとか、どういふ風にしてやつたのが一番姿勢が正しいとか、運動をやるときに初めに執る姿勢がある、そいつが從來誤解されて居る、姿勢といふものは其の運動をやる爲に拵へたものである、併し其の運動の爲に此の運動には是が宜い、此の運動には是が宜いといふちやんと目的がある、それをどの運動にも悉くそれを使ふやうに考へて居る、腹の運動には是を使ふ、胸の運動には是を使ふ、脊の運動には是を使ふといふことがちやんとある、何所へでも持つて往つて宜いといふ譯ではない、而もそれを何所へでも一つものでやつて居るやうなことがある、其の一例を御話すると、例へば手を頭に擧げる、手を頭に擧げるときには胸をどういふ風にして居るか、此の姿勢は(動作を示す)胸を張つて脊を正しくして居るが、此の姿勢の目的は此の胸の部分は別に心配に及ばぬ、之を正しく保つて居る(動作を示す)是で宜しい、そこで上體を轉向するなり屈げるなり遠慮なく練習せよ、といふにあるのですさういふ風にしてやるのは宜しいけれども、若し胸をちやんと張つて置いてベストの姿勢を執れ、而して更に後ろに屈げて最良の姿勢を執れといふ様に最良の姿勢を執つて居るものに更に少し最良、と來ては無理である而も此所を(動作を示す)正しくホールドにせよ、此所をち

やんと動かさず保つて置け、而して其所を動かせと云ふ、のは注文の衝突である、あういふ風に何でも構はずやつて居る、それからこんなことをやる片臂前伸)あれは斯うやつて居る姿勢である、謂はゆるヴヲリシヨナルで所々にさういふことがあるけれども、これを體の左右屈などにやつては役立たない、さういふのは物の意味を知らないで濫用するといふことになる、一言にして之を申しますと、従前は考をさせない議論をさせない自覺をさせない議論をさせないで何でも無意味に或例を示したので従つて其の例を濫用する傾がある、又取調委員自身の報告も聊かそれを濫用させる頃を以て書いてある、警戒して書いて無い、そこで今回の其の要目等に於ては各運動に依つて用ひる始めの姿勢をちゃんと明示してあります、あれに限つたものではないけれども、濫用の弊を防がむ爲に聊か限つて置きました、即ち以上は體操といふことに付いて大體の缺陷であります。

次は第三に遊技に就いて御話を致します。遊技といふものは随分廣いのであります、社會に有る遊戯は到底擧げて數ふべからざるもので、學校に於て用ふべき遊技も随分有るけれども、茲には學校用の遊技を大凡二つに分ける必要を認めて居る、一方は一週三時間なり四時間に於て、僅かの時間に體操に加へて使用すべきところの遊技、餘程是は範圍が狭くなる、一方は學校生活中兒童をして大いに用ひさせる所の科外の遊技、斯ういふ二つにどうしても別けなければならぬ、三時間か四時間の體操時間を遊技ばかり課して居つては體操をやる時間は何も無くなつて仕舞ふ、而も時間の餘計掛る遊

技、或は少數の兒童に限られたる遊技など、いふもの、兒童を成るべく澤山に動かさうといふやうな普通の教授に於て使用すべきものでない、さういふのは彼等をして各々好む所に従ひ自由に動かす所の科外に使用すべき性質のものである、故に遊技には科外遊技と體操中に用ふべき遊技と二つある、從來學校でやる遊技を見るに、以上の區別を知らぬよりして二つの極端がある其の一は何でも彼でも體操時間にやらなければならぬやうにして居る所がある、其の二は遊技は體操と統一して用ふるものではない、體操科と別にしなければ行ふべからざるものとして居る、そこで今回の趣意は體操科と統一して用ふべきものは、成るべく簡單なるものをさせるもので、複雑なるものに至つては學校の體育に於て體操科以外の運動に用ふべきものとして其の立場を明かにしたものであります、それで何故さういふ風に致したかといふと、先程申した通り、從來どうも此の點に於て誤解されました、此の體操と遊技を體操科の時間中に何でもやつて仕舞はうといふ人がある、遊技なるものは體操時間に皆やつて仕舞はなければならぬと考へて居る人と、それと其の反對にこいつは本領を異にするから、別々にしなければ虻蜂取らずになるといふ風に斯う考へてる人もある、前の方を云ふと、特に時間を設けて科外にやらなければならぬものを、可惜一週三時間か四時間の體操時間にやる爲に、大事な體操が出来ないといふことに陥つて居る。

それに反して體操と同一にやれるものもあるのに之をやるといふと虻蜂取らずになると考へて居る後

の方の人は折角體操と長所を異にして、體操は身體を或點から云ふと窮屈に或點から云ふと意思的にやつて居る、それを遊技は全身的に活動する、兩々相俟つて用をなすといふことを知らないのである、それで一緒にすると駄目になるといふやうに考へて居るのである、之を譬ふるに別々にやらなければいかぬといふ人は、御馳走を食べるのに肉は肉の特徴あり、野菜は野菜の特徴あり、故に野菜と肉と同時に食べては特徴を失うといふやうなものである、肉と野菜とは一緒に食べてこそ誠に旨い料理が出来、斯ういふのは統一すべきものであるからさうするが宜い、けれども宴會をするなど、いふことは特別に施さなければならぬ、是は特別に行ふべき性質である、宴會を以て常食とし、肉と野菜とは統一すべからざるものなりといふことを考へるのは何れも極端な説であります。而して私の斷言は私個人の意見でないことは先程から色々と申上げた通りであります、世界の大部分は先程申した通り、英吉利にしても遊技と體操とは統一しなければならぬ、獨逸にしても遊技と體操とは併行しなければならぬ、米國に於てもさう恐く云ふても宜いといふやうに、實際さうなつて居る、故に今日亞米利加に參つても、獨逸に參つても、瑞典に參つても、十年以前ならいざ知らず、今日參つて其の實際を見たならば大體に於て皆體操と統一すべき所の遊技を教材中に狭んで仕事をして居るのであります。而も其の遊技の種類に依つて行進的の性質のものを眞先にやつて見たり、或は全身調和的のものを懸垂運動の次にやつて見たり、或は身體を快活に動かすものを最後にやつて見たりして居りますが、大抵は

殆んどして居らぬものは無いのであります、尙彼等の書いた所のものも、十年以前のものはいざ知らず、今日に於ては遊技を教材中に入れない所の書物は得んとしてもむづかしいのであります、即ち歐米の實際と理論と共に體操遊技の統一すべきものなりといふことを認めて居りますから、我々一個の考へでそんなことをしていけないといふことを考へられない、そこで尙申すことは、瑞典の體操に付て井口先生の如きは、最も功勞のある人であります、先生に聞くに遊技を單獨に用ひたなど、いふこととはない、或は講習等に付て分けて講習したか知らぬが、實際に分けて宜いといふことは教へたことも言つたこともないといふことであります、我日本に眞先に瑞典の體操を實際に奨めた井口先生はさういふことはして居ない、唯先生の著書を見ると遊技といふ階段が無い、是は十年前のものを編みましたものですから無いのは當り前である、けれども先生の實際は加つて居ります。

以上は遊技に付ての大體の御話であります、最後の種類は日本の武術とも謂ふべきは劍道柔道のことです、是は主として我邦の青年に利用すべきものであると信じますからさう詳しくは申さない、唯一言申して置きますことは、柔道劍道といふものは我普通教育に於て所謂青年の教育といふ中學校、師範學校等に於て事實上やつて居らない方が少い、そこで之をやるに付てどうやつたら宜いかといふことを考へるのが我々の希望である、柔道劍道を名義上正科としても良くやらなければ役に立たない、折角

名義上正科と見ても抛つて置いては役に立たない、名義上正科とせず抛つて置いて發展するか、正科とするが發展するかどちらかと云ふと、我々がやつて居る以上は本氣になつた方が宜い、故に正科とする方が宜いといふを取つたけれども、正科とすべしとは言はない所以は、今日我邦の事情は先づ等一に其の人に待つといふのは即ち教師、第二には學校の設備、其の他時間等の關係もむづかしい、さういふ色々な關係から其の學校の教員、設備、總ての點が果して能く之を正科とする程に整頓し得るや否やと考ふれば總ての中等學校等に望むといふことは無理でないかと考へる、けれども本氣に成るべくやつて、之を正科とするやうにしたいのであります、是等は特殊の學科として我日本では、利用すべきものと信じましたから、やる以上は本氣でやつて貰ひたい、或は之に付て一度に正科にすることは出來まいと云はれますが、是は尤もな話であります、之れを全體に正科とすることは日本の状態が許しませぬけれども、正科とする程の覺悟を以て正科としてやられた方が宜いと信じて積極手段を取つたのであります、柔道剣道を正科とし得るといふ精神は今立派に成つて居るからといふ意味ではない、之を立派にせむが爲めに本氣になれといふ希望なのであります、故に文部省は之に付て精密なる要目を立てたり、精密なる法則を不したりすることの方針は立て、居らない、それが無いが本氣にやつて作らんとするので是が私共の實行主義であります、テーブルの上で百年河清を待つより實際にやつて發展を期する方が實行的基礎なのであります、さういふ精神であります。

そこで教練、體操、遊技それから武術といふものに付ての精神の御話を致しましたが、更に二三の又附帶の事件を申上げて置く必要がある、次に申上げますことは取調委員の基本的形式、即ち之を一般の言葉で云へば教授の階段、英語で申せばデスオルター即ち其の日に數ふべき運動の排列順序、是は或意味から形式と云つても教段と云つても、どうでも宜しい、兎に角教ふる順序であります、此の教段に付ては取調委員が基本的形式即ち標準的教段を定め、斯うすると生理上、心理上宜からうといふことを示した爲めに、大變從來のものより改正を見たことは結構であつたけれども、惜いかな教段の階段といふものは之に限つたものと人が思つたらしい、そこで教段の簡單なること複雑なること、多いとか少いかいふことは生徒の發達に依つて違ふ、そこで生徒が發達しなければさう澤山の運動はやらせられない従つて運動の數は少い、運動の數が少なければ従つて教段は簡單である、年長の生徒にあつては其の生徒を十分に鍛鍊する爲めに其の生徒を十分に強くする爲めには澤山やらせなければならぬ、従つて澤山やるに付ては教段は複雑になる、故に先づ第一は生徒の發達に應じまして運動の多寡が生ずる、運動の多寡に依つて教段の簡單と複雑が生ずるといふことを、知つて居らなければならぬ、次に實際上になりますと教段の多寡と相俟ちまして時間の長短、長い時間なら澤山の教材をやりますが、短い時間では澤山の教材はやれない、故に十分の教材の排列、三十分の排列、一時間の排列として之を行はなければならぬ、さうして兩方合せて見ますといふと尋常小學一年、二年、三年生

位の程度では運動の種類もさう多からず、時間も従つてさう長きを要せず、故に三十分位宛毎日やつて宜いといふことが、生じますが、さういふことは教材は簡單で宜しい、併しながら尋常小學五年、六年となり、高等小學は勿論、進んで中學、師範學校等に至りましたならば、少い運動で以てそれを強くすることは、むづかしいことでありますから運動の種類が多い、さうなれば三十分ではやり切れない、一時間を要する、従つて其の教段は複雑にならなければならぬ、即ち教段の簡單と複雑といふことは、さういふ風に違ふといふことを考へなければならぬのであります、それから尙各運動の選ひ方、どれを先にやつてどれを後にやるかといふ其の順序です、是は簡單なるものと複雑なるものと、列べた時には關係的性質を異にする前のものと後のものと列べ、先のものとの後のものとを列べ、前後の關係が良く往くやうにしなければならぬ、極く卑近な例を言ふと強いものもあり弱いものもあり、極く力を要するものがあり、落付けるものがあるといふやうにしなければならぬ、前のものは強く、後のものは弱くなるやうに排列しなければならぬ、それが運動の種類が違つて往く、それを何でも上肢の運動はどれも同じこと、胸の運動はどれも同じといふやうにやつて仕舞ふと、それでは前後の關係を考へたと言へない、そこで從來取調委員は基本的形式として極つたやうに示したけれども、私共は根本的に異に致しますから、幼稚の生徒には簡單なる形式で宜しいから例へば斯んな風、(——)一年の生徒には例へば斯んな風、(——)四年の生徒には斯んな風、(——)上級の生徒には例へば斯んな風、(——)

(——)といふやうに一々違ふといふことを示したのであります、それを從來の朗讀的體操の習慣に従ふと或は實行し難いかも知れないけれども如何に我日本幼稚なりと雖も、我日本の教育家をしていつまでも寺小屋流をやらせるといふことは忍びざるものであります、又日本の教育者は斯かる哀なるものと信じなかつた、今日は是では悪かつたといふことが知れた上はそんなものでないと信じて居る、故に物の道理が分りさへすれば、身體に留意する程の者が體操の排列が分らないことにはないと思つて、其の例を示したのであります、そこで従前の取調委員が基本的形式を示したけれども、是は聊か固定した傾がある、故に是は一の例と思へば宜い、大體はあんな風なものであると思へばそれで宜い、私の示した所の例も矢張り例、唯ア、固定したものではないと思ひます、是が即ち教段に付ての意見であります。

次は私が個人として言ふことは少し差支があることであるが、私の希望として言ふて置くが、文部省は一體要目といふものを如何に發布すべきものなりやといふ私の意見、そこで國家が大體の方針を示さず、嚮ふ所を知らしめないといふことは文部省は有つても無くても同じこと、是は天下をして略其の時代をして嚮ふ所を知らしめなければならぬ、議論の定まるを待つならば千年経つても百年経つても出來ない、議論の如きは断えず研究と共に生ずる年々歳々發達する以上は議論も常に生ずる、否それがあるから發達する、若し満足した時には退却を始めたのである、故に議論を恐れてはいつまでも

教育の方針は立たない、故に二年か、五年か、十年か知らない、現在此の方針に従つてやるものであるといふことを文部省としてやるべき筈でありますから、是非やつて貰ひたい、其の方針を示さなければならぬけれども、而もそれは方針であつて細目でない、一體細目の如き各兒童の要求に應じて施すべきもので、鑄型などに入れべきものでない、殊に日本全國各學校各事情を異にして居る、昔の通りの器械に依つてやるものではない、其の器械を揃へなければならぬ、其の事情に依つて物を揃へるのであるから、物の均しいことは要しない、故に大體の方針は定めても細かく如何なるものをやれとか、如何なるものを課すとかいふことはさう輕卒にやらないことを希望して居るのであります、そこで更に繰返して申すと、大體の方針を示さない時には、天下の嚮ふ所を失つて濫用の弊に陥るけれども、餘り精密に過ぎるといふと形式に拘泥して發展しないといふ弊に陥る、で私共はどうぞして當局者は其の大體の方針を示すに止めて、さうして年々歳々各方の先生方をして研究の餘地あらしめるやうにしたいと思ふのであります、而も研究の結果或は五年經ち十年經つた時は第二の改正を施さなければならぬ、又二十年經ち三十年經つたならば第三の改正を施さなければならぬ、若しそれを怠れば何時迄も空々漢々に經過して我は諸外國と同等なる體操の發展は出来ないことになる、故に先づ私は唯さういふ風に考へて居るのであります。

以上は是より將に發布せんとする所の要目に付て私の個人的意見を申し上げたのである、而して先き

に社會全般の體操の状況を御話して置いたが、又我邦の體操科といふものも餘程根本的に考へなければならぬといふことを今御話した積りであるが、而して之を實現するに付ては餘程教育者の覺悟を要する、尋常一様の覺悟で之を貫けるものではないと考へます、そこで其の覺悟上諸君に老婆心を以て申上げたいことが胸の中にはウント出て來ますが、其の中或事柄丈けを申上げて置きたいと思ふ、纏めて申せば第一の條件は、諸君は我明治の初に國家が取られた所の大御心に從つて知識を世界に求めよといふことである、反對の言葉で言ふと今日までのことを是とせずして、頑冥固陋の弊に陥らずして、進んで改良工夫の途を始終講じて往かなければならぬといふことでもあります、是は諸君御承知の通り我日本が明治の維新に際して斯かる計畫を立て、掛つたから今日の發展を爲したのである、日本は良い方の例であるが、他の國の歴史を見ましても、知識を世界に求むることをせずして頑冥固陋に止つて居るものは必ず世界の進歩に後れて自滅して仕舞ふ、外國に於て其の例鮮なからず、近く清國の如きはそれである、世界は頻りに發展して往くのに昔の通りやつて居つたから即ち今日の如き有様である、個人としても其の通り、知識を世界に求め、さうして我身の發展に努めない者は、謂はゆる時勢後れとなつて人に嗤はれ世に棄てられる、是亦當然の結果である、然るに教育家の如き國家を双肩に荷つて居ることを考へたならば、最も天下に後れぬやうに注意しなければならぬ、而も我身が天下に後れるといふことは、懸てより多くの子を後らすといふことでもありますから、餘程大

事に其の警戒をしなければならぬ、而して知識を世界に求めるといふことは、直接と間接とを問はぬ、自ら西洋に行つて西洋の事情を見るも大に可し、又人から聞き西洋の書物に由つて西洋の事情を知るも可し、其のいづれかは私の問ふ所ではありませぬ、此の交通が良くなつて世界の距離が短縮した、此の文明の世界にあつて往つて見なければならぬといふ時期ではない、其等は直接間接どちらでも宜いが、兎に角廣く世界的計畫を立てなければならぬと思ふ、是は全教育に就て悉くさうであります、取分け幼稚なる體操科に付いては最もさうであります。

第二は盛んに工夫實行をして貰はなければならぬ、唯聴いただけではいかぬ、知つたゞけではいけない、因循姑息はいけない、理窟はよいが實行はどうもなんと云つて居てはいけない、宜しく工夫をして、どうかしてやるやうな風に、どうかしてやるといふには、今日出来なければ明日、明日出来なければ明後日、今月出来なければ來月、今年出来なければ來年といふ風に、不撓不倦どうぞ實行して貰ひたい、良い事は一步でも早く實行するといふ風に、若し之を我國是の言葉を假りて言へば、盛んに經論を行つて貰ひたい、そこで諸君は此の國家を双肩に荷つて居る教育家として切に私は希望する、其の點は先程申す通り、日本の社會でも體育の幼稚なものであるといふことに段々氣が付いて參りましたが、其の魁をなすところの者は誰であらうか、矢張り我日本に於て私は教育家であると信する、體育は大事である、能く之を奨励しやうといふには、先づ請ふ隗より始めよ。其の隗たるべき人は教育

家であるといふことを、私は切に信じて疑はぬのであります、故に諸君社會の體育、國家の體育を發展せしむるに付いて、先づ請ふ隗より始めよ、諸君自ら大いに此の體育に注意し、運動を奨励して掛らなくてはならない。

第三は學校兒童の爲に兒童の身を思ふたならば、我は兒童の模範である、兒童が良くなる良くならぬは、我良し悪を見るところの鏡である、あの可憐の兒童を考へたならば、我は良好模範を示さなければならぬ、兒童が悪るいのは此の模範が良くない爲である、兒童をして弱くさせるのは私が弱い爲である、それで一方には親に向つてあの子は弱い、先生も弱いけれども能く注意して居る、あの子も注意して欲しい、注意せよ、といふよりは、出来得るならば勇將の下に弱卒なし、先生の通りに強くなれといひたい盛んに先生が工夫をし苦心をして、さうして積極的に訓練し、貰はなければならぬと思ふ此の前も御話をしたと思う、私は常に考へて居る、學校の先生は氣を若くしてさうして兒童に先んじて運動する位でなければいけない、兒童は腕白であるから、自分も一層腕白にしなければならぬ、兒童は無邪氣であるから、自分も一層無邪氣でなければならぬ、而して運動の如きは最も腕白無邪氣を表はすところのもので、兒童の如きは最も此の運動的生活をするところのものである、故に模範を示されるには、兒童より腕白に、兒童より無邪氣に運動するやうにやつて往かなければ相濟まぬやうに思ひます、是が私の心であります、己の欲する所は之を人に勸めて差支ないと思ひます、諸君は年

取るに従つて益々氣を若しくして、此の兒童の相手になるやうにするには、身自ら運動をし兒童に先んじて動くといふ風におやりになることが、最も捷徑であると思ふのであります。

今度は更に少く職務上から申しますと此の體操科全體、殊に正科の體操科の如きは、此の教育の手段中實に大切なものである、此の手段に置きまして最も工夫をすれば發展して往くが、抛つて置きますれば何時まで経つても發展しない、故に此の科の發展を保つに付いても先生自身に自ら能く運動をし、先生自身に自ら其の道を適切に研究しなければ發展いたしませぬ、故に體操科は勿論科外運動總てに向つて此の研究を遂げる爲に、我自らやるといふ位にやらなければならぬと思ひます。

最後に申上げるとは、凡そ人とし活けるもの、我身の健康を願はぬものは無い、誰でも成るべく年は取りたくない、成るべく長生をしたいと祈らざる者はない、此の私でも諸君でも皆同じことである況や國家の重任を双肩に荷つて居る以上は、一日も長く其の活動を保ち、一日も長く其の力を國家に竭したいといふことは固より其の心であります、さうなれば、此の活動を保つこと、力を蓄へることとは、精神上的の修養も固より大事でありますけれども、圓滿に之を保つには身體上の活動即ち運動に俟たなければならぬ、故に心を若くし氣を若くして、長く此の道に奮勵しやうといふものは、色々爲すべき事もあるけれども、先づ其の一として我身の體育に注意する、我運動に努めるといふこと、之を最も盛んにしなければならぬと思ひます、殊に度々繰返すやうであるが、學校の先生がさういふ

風に手本を示されますれば、今日發展しない町村自治上、體育に必ず皆氣が付いて能くやるに違ひない、學校の先生が先きに立つてさういふ風になれば、遂に此の國家全體をして此の道に熱心奮勵されるやうになるに違ひない、即ち私は返す／＼も、今日の日本社會に體育思想を盛んにするに付いて、先づ第一に始めて貰ひたいのは教育家であるといふことを切に／＼感ずるのであります、先程より色々御話を致しましたけれども、私が今日諸君に御目に懸つた心の百分の九十九までは此の最後のことにあるのであります、日本には今日體操といふ體操はない、體育は憐れなるものであります、どうか私共と共に先づ自分から實行して而して天下の發展を圖るやうにして戴きたいのであります、誠に御話は長く申上げましたが、結論は最後の一つであります、どうぞ諸君自身の爲め國家の爲めに、餘所の仕事で無い我仕事であります、十分に是れより先御工夫御發展を希望いたします、甚だ長々御清聴を潰しました。於、神奈川縣小學校教員第二回講習會)

一〇、體育講話

只今校長閣下より御紹介になりましたやうな次第で、諸君の前に御話することの光榮を得ましたのは不肖に取りまして、實に喜びに堪へない次第であります。

諸君は申すまでもなく只今閣下よりも、御話がありました通り御自身の御身體を御考へになつても、

諸君が將來御取扱ひになる所の部下のことを御考へになりましても、所謂國家の干城たる、大切な御身體でありまして、御奉公を致す爲めに、君に事へて忠勤を抽んづる爲めに、所謂國家の爲めに自愛なさなければならぬ所の御身體であります。而して君の爲め國家の爲め自愛なさると云ふうちに、精神上、色々の大切な心掛が必要である事は、私の申上げるまでもない事ではありますが、そのうち身體上の自愛即ち健康に就き御注意になると云ふ事は、先づ御自愛なさる所の、第一の手段であると考へますのでござります。斯かる大切な方々に對して、その最も真先に大切な所の、身體を健全にする事の道に就いて御話を致す事を得ると云ふのは、國家に御奉公を致す私共に取りましては、實に望外の仕合せに存するのであります。

今夕は僅かの時間ではありますけれども、勉めて斯かる大切な御方々であると云ふ事を、私の念頭に置きながら、之は諸君の爲めに御參考になるであらう、現在並に將來の爲に、御心得の一端になるであらうと云ふ點を、大略御話致したいと思ひます。本日は種々御疲れの所、更に又明日の準備となる所の温習の時間をも頂戴して、御話致す事でありますので、誠に恐縮に堪へませんが、どうぞ斯かる次第で、御話致すのでありますから、暫時御清聴あらんことを希望致します。

御話を致す順序と致しまして、先づ第一に世の中の人々が能く體育體育と云ふ事を申しますが、言葉にこそ皆一様に體育と申しますが、餘程よく考へて置きませんと、この體育と云ふ事は、はつきりして居

らないのであります。體育先づ之を英語に求めましたならば、フィジカルエジュケーション (Physical Education) とでも申しませう。諸君御存の通りエジュケーションと云ふ事は、放漫なる手段にて行はれ得る所の事柄でありませんで、意を用ひて特に行ふ所の手段であります。故にこの體育と云ふ事も同様でありまして、或は農業時代に於て、或は狩獵時代に於て、その仕事の間に、自から行はれる所の身體の發達は、吾々は稱して體育と申しません。即ちその時代の生活に應じて特に意を用ひて、如何に身體を教養するかと云ふ、その特種の手段を稱して體育と云ふのであります。教育上に於て、従前より智育、德育、體育と別けて居りますが、即ち教育と云ふ特種の手段に於て、特に知識の修養の爲に、意を用ひる教育を智育と云ひ、德育上に意を用ひる事をば德育と云ひ、而して今云ふ身體上に、特に意を用ひるのを吾々は稱して體育と申すのであります。繰返して申せば、體育と云ふ事は身體を教養するに就いて、特に意を用ひる所の手段であります。

之は簡単に體育と云ふ文字の意味を申上げたのであります。次にこの體育にはその手段の上から、範圍の上から、更に二つの意味があります。それは一つは廣い意味一つは狭い意味でありまして、その廣い意味はどう云ふ事を申しますかと云ふと、その特に意を用ひて施します所の教養の手段は、(一)吾々が言ふて居る處の衛生と、(二)運動に依つて特に、この身體を修練する事即ち身體の練習とを含めるものとするのが廣い解釋であります。即ちフィジカルエジュケーション (Physical Education) は衛生

(ハイジエン Hygiene) 及身體練習 フイジカルトレーニング Physical Training) となる所の意味であります。所が狭い方の意味では、衛生は別に置きまして、身體練習のみを體育と申すのであります。世界の人々により或は廣い意味で體育と云ひ或は狭い意味で體育と申す言葉だけでは鳥渡判らない有様であります。私個人として、何れの意味を取つて、始終體育と云ふ事を考へて居りますかと申しますと、私は廣い意味を取つて居るのであります、狭い方のフイジカルトレーニングも、體育の大切な手段であります。真正の解釋から申すと兩方含まなければならぬかと思つて居ります。この點に就て詳細なる議論は略しますが、實際上廣く考ふるを便とするのであります。吾々が運動に依つて、身體を練習すると云ふ事のみを、體育と考へて居りましたは、到底その目的を完全に達する事は出来ません。如何にこの身體練習、或は運動をしましても、それを行ふ前後、即ちその他の時に於ける身體の持様が悪かつた時には、その行つた所の身體の運動と云ふものは、役をなすこと少く或は全く役をなさないと思つて居るのであります。吾々の衣食住即ち生活上の衛生の事に、よく注意して、身體練習を施しませんければ、却つて身體練習は妨げられ、或は全く役をなさぬことになる。例へば衣食住のうちの食物に就いて、考へますと能く分ります。如何に活潑に身體を動かさうと思ひましても、その動力の根源を供給する所の食物が不完全であつては、何うしても活潑の運動が出来るものでない。この身體を活潑に運動するには、エネルギー (Energy) を拵へる食物が十分でなければならぬ、只働けば好

いと云つて、食物に注意を怠つて居つては、活力も元氣も消耗し終るのみであります。また運動さへして居れば、どう云ふ所で運動しても可いと言ふて居るものもありますが、運動をするに就いては、十分なる光線、十分なる空氣も必要である、うん／＼運動すれば運動するほど、光線も、空氣もより多く必要である。故に何にても動きさへすれば可いと考へて、不完全の空氣或は光線の下で運動すれば、運動の結果は上らざるのみならず、却て害を受けるのであります。又もう一つ衣服に就いて申しても然うである。運動をするに就いても、この衣服と云ふものは、運動し得るやうな衣服を着て居らねば、十分なる運動は出来ません。即ち單に體操と云ふ上から考へて見るならば、最も能く運動の行はれるのは、裸體であります。けれども今日まで久しい間衣服を着て、社會の禮義を守ると云ふ吾々人間には、如何に裸體が最も運動をなすに適するからと云つても、然う云ふ事は出来ません。故によく運動を行はうと思ふならば、裸體に近い所の衣服を着ねばならぬ。然るに衣服は何うでも可いと云ふて窮屈なる衣服でやれば、運動は束縛されて十分の効は上りません。又運動をする時にはよく考へてやつて居りまして、その他の時間中色々の仕事をして居る間に、釦を使うた窮屈な高襟な衣服を着て、始終苦しくて仕様がないと云ふ有様で居りながら、時々胸を張つて見た所が、それは何にも役には立たないのであります。故に運動する時のみならず、その他の場合に於ても、注意せねばならぬ。無論吾々人間の體として、相當の服裝をせねばならぬが、相當の服裝も、吾々の衛生上一致せ

ねば不完全なものであります。要するに、健全を保つて行くには運動と衣食住と雙方に注意せねばならぬのであります。そこで、自分の身體を愛するものは、常に意を用ひて、この衛生の事に注意せねばならぬと思ふのであります。道徳上の言葉に、非禮視ること勿れ、非禮聽くこと勿れと云ふ事がございませぬ、之を假りて、我衛生上に應用すれば禮にあらざれば着ること勿れ、禮にあらざれば食ふこと勿れ、禮にあらざれば動くこと勿れと云ふやうに考へるのであります。

そこで非禮着ること勿れ、非禮食ふこと勿れ、非禮動くこと勿れと云ふ事を守りまするに就ては、餘程吾々は確固な意思を要します。薄志弱行の輩では出来ません、食ひたくても之は食ふ事でないと言へば、吾々は國家の爲に、自愛する身體として、食はぬと覺悟せねばならぬ。只食ひたいと云ふて腹を膨らして仕舞ふ様では、とても之の格言は守れません。爲すべき事は何處までも勇氣を振つてやり、又可けないと言ふことは、食はない、やらないと言ふ覺悟を持つのが、衛生上、必要である。この教へを守らず、戒めを用ひない時は、諸君はたまさか一時間若くは二時間の運動をやつた所が、無効に終るのであります。即ち、吾々の體育上衛生と云ふ事は、第一のコンディション(Condition)として大切なるものである故に、廣い方の意味、即ち衛生といふ事を含むと云ふ事を吾々は始終考へて置きたいのであります。

先づ衛生上の事は、これだけに止めて置きまして、是れよりは狭い方の體育、即ち身體練習に就いて、

少しく御話致したいと思ふ。身體練習と云ふのは、何う云ふ手段を以てやるか、吾々の身體を修練するのは、如何なる手段を以て修練するか、この事に移るのであります。身體を運動する所の手段材料と云ふものは澤山あります。我日本に於ても、運動の仕方は色々あります。古來世界の人類に施し來つた所の運動にも、種々様々あります。それを一々數へ來らば、日も尙ほ足らぬ有様であります。便宜上大別して御話すれば、先づ第一に小さい子供でも、未開の人種でも、乃至大人でも、通じて行はれ居るのは、遊び(Play)又は遊戯スポーツ(Sport)でございます。これは自然に随分愉快に行はれて居る、身體の方から申しますれば、どの部分を運動すると云ふ事は、餘り考へない、自然に全身を働かす、子供だとか未開の人間などは、この手段に依つて、身體を修練して居る。之を稱して吾々は遊戯と申します。手段は輕視する事の出来ない手段と思ひます。

第二の手段は從來云ふ所の體操であります。これは英語で云ふと、ジムナスチック(Gymnastic)であります。このジムナスチックの方は自然に愉快に行はれると云ふ方面ではありませんで、これこそ一つの主要なる意思を以て行はれて居る、即ち教ふべき目的を以て教へられる所の人に對し意思的に施すのであります。胸を張るのには何う、脊を正すには何うする、腹筋を好くするには何う、全身を働かせるには何うと云ふ工合に兎に角全身各部を圓滿強健に發達させる方法を、研究して行ふ手段であります。故に體育をやる一つの手段として、この體操は殆んど身體練習を代表して居ると云ふても

可い所の手段であります。この意味から申し上げますと、單に體操科と申しましては、尙意味が足りないので、實は身體練習科と云ひたいのであります。

第三は何であるかと申せば、英語で云ふとドリル (Drill) デイシプリン (Discipline) レグレーション (Regulative) 色々名はありますが、規律的運動とも云ふ可きものであります。規律的運動と云ふのは、己れの一身を社會の間に置き立派に全體と協同して、社會的行動をなすと云ふのであります。即ち互に相敬し相愛し互に規律を守り、全體が一致協同して活動するのが、規律的運動でありまして、それを利用して、精神と身體とを訓練しますので、軍隊ではこれを教練と申して居ります。即ち教練は規律的運動訓練の運動であります。吾々の身體を單に個人として強くしたと云ふだけでは、社會的價値はない。社會の上に立つて、この身體を、他の人と相俟つて、働き得るやうに立派にして置かねばならぬ。吾々は個人として働くだけでは、社會的價値はない、多勢と相俟つて働くので、立派と云ひ得るのであります。規律的運動は團體の中に、立派に働き得るや否やと云ふ事を検査する所の大切な機會でありまして、身體練習の上に、極めて必要な成分であります。

以上身體練習には或は遊戯と云ふ種類、或は體操と云ふ種類或は教練と云ふ種類色々あります。而して我日本に於て行はれる所の劍道並に柔道の如きも、これ又必要な成分であります。外國に於て行はれ來つた所の武術即ちフェンシング (Fencing) 或は銃劍術などはそれ々々世間で必要と認められたもので體育上必要な成分である。併しながら之を以上述べた大別の中に入れて置かなかつたのは、特に軍隊の言葉を假れば、之は體力氣力を練る、鍛練的の體操即ち體操の一種でありますから、話を略したのであります。事實を申し上げれば、斯かるものは青年を教養する上の體育の一種と見て好からうかと思ひます。

今申上げた通り、身體練習の手段には、ちよつと斯様な大別があります、そこで以上申した所の何れ的手段も、その手段内に於ける、色々の運動を考へて見れば、これまた澤山あります。然れば吾々人間の身體練習には、有らゆる遊戯有らゆる體操、皆悉く用ひるかと思ひますとそれは可けません。然らば何うするかと云ふにそれ々々の事情に應じまして、最も適當なる材料を撰んで用ひるのであります。言葉を換へると、選擇を加へまして、適材を適所に用ひるのであります。例へば軍隊の教育に用ひやうと思へば教練は直ぐ戰の出來る部分だけをやる、又體操は新兵の身體を立派にして、さうして兵隊と成り得ると云ふ事の爲めに用ひると云ふ風に、その事情に適當したるものを用ひてやる。之を學校生徒の體育に取つて申したならば子供は子供のやうに、女は女のやうに、青年は青年のやうに、大人は大人のやうに、程度に應じて用ひてやらねばならぬ。故に大人に限り用ひる所の性質の材料は體操として軍隊に用ひられて居る。又學校の體操は、子供に適當したるものを用ひて居る。兵隊には子供にのみ適當したるものはいりません。又幼稚の者には兵隊にのみ適當したる材料はいりません、

然ういふ風に、或は學校の體育上、或は軍隊の體育上、更にもう一步進んで云へば、この社會全般の色々な仕事に従事して居る者の體育の手段と、學校、軍隊に、従事して居る者の體育の手段とは、異なる所があるのであります。故に昔から能く體育をばその適用する所の場所に依つて或は社會の體育と云ひ、或は軍隊の體育と云ひ、或は學校の體育と云ひ、或は家庭の體育と云ふて居る。これは身體練習として、用ひる所の手段が、その場所／＼に依つて、適應致さなければならぬと云ふ事を言ひ顯はして居るのであります。

此の體育の分類は運動の種類に依つて名を附けたのでなく、行ふ所の場所に依つて名を附けた分類であります。即ち身體練習は行ふ所の場所に依つて異にする必要があるからであります。そこでこの事情と申すうちに、今云ふ大きい別ちを致しましたが、茲に更に例を擧げて置きたいのは、職業の種類によりて、身體練習の差などは、實に諸君も然うであるが、御同様に色々な人を扱つて居る者には、最も大切な心得なのであります。例へば坐して仕事をするに云ふ漆工の如きものは、餘程活動的に殊に戸外に於て、全身を活潑に動かすやうな運動の種類が欲しいのであります。即ち先程申上げた遊戯、體操の様な、活潑なものが欲しいのであります。然るにそれに反して終日力を勞して居る者の身體練習はと云ふに、この點に就いては或は力を勞して居る者には、身體練習は要らないと云ふ御方があるかも知りませんが、左様ではないのであります。即ちその身體を動かし又は力を勞するのは、仕事の

爲めにするので、自然に身體を使うて居るのであるから、これは特別手段なる體育とは申さない。且つその仕事の種類に依つては、或は害をなす、なさないまでも、身體の一部しか用ひられて居らぬ、或は全身を用ひるやうであつても特に其の方から考へてやるのでないから、十分に行はれて居らない。そこで力を勞する人の如きは、其の上力を勞するやうな體育は要らないけれども、精神を愉快にし且つ身體を正しくすると云ふ體操は大に必要である。それをば力を勞する者も、勞せぬ者も、同じやうな手段を取つたならば、兩方に適當しないのであります。故にそれ／＼適當したるものを用ひてやらねばならぬのであります。以上身體練習の事に就きまして、吾々は手段の適應を求めてやらねばならぬと云ふ事を申しましたのであります。

そこで更に進んで申し上げますのは、ジムナチック即ち體操と云ふ事に就いて、詳しく申し上げます。此の體操と云ふ事は、ほんやり只體操々々と云つて、運動しさへすれば體操と申しますが、そんなものではない。それは追々と分りませうが、體操と云ふのは、全身の各部その總てを、圓滿に且つ嚴正に發達させると云ふ事を考へまして、即ち身體の各部の要求に應じて、さうして生理上、解剖上、精神上より考へて、斯う云ふ目的を達する手段は幾らもあるが、之が最も好いと云ふ様にそれ／＼要求に應じて之を行ひ其の結果全身を圓滿に發達させる事が出来ること云ふて行ふのが、吾々が謂ふ體操であります。即ち身體を理想的に練習するのが體操であります。この體操と云ふ事は、總ての身體練習